

# 羽咋市内遺跡発掘調査報告

—住宅建設にともなう

## 吉崎・次場遺跡第17次

発掘調査報告書—



2000・3

石川県羽咋市教育委員会

# 羽咋市内遺跡発掘調査報告

——住宅建設にともなう

## 吉崎・次場遺跡第17次

発掘調査報告書——

2000・3

石川県羽咋市教育委員会



邑知潟及び邑知地溝帯を南西から望む



掘り上がったSD 01 断面（南東から）



SD 01 から出土した土器

# 市内遺跡発掘調査（2000）

## 吉崎・次場遺跡第17次調査

### 報告書

## 目 次

### 例言

#### 第1章 吉崎・次場遺跡の概要

第1節 遺跡の位置・環境	1
第2節 遺跡の発見・性格	6
第3節 遺跡の範囲・規模	8
第4節 遺跡の保存・整備	8

#### 第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯	11
第2節 調査の経過(日誌抄)	11

#### 第3章 遺構と遺物

第1節 調査の概要	15
第2節 遺構と遺物	15
第3節 小結	36

出土遺物観察表	39
---------	----

写真図版	55
------	----

## 挿図目次

第1図 位置と地形概念図 (1/125,000) .....	1
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000) .....	3
第3図 各調査区位置図 (1/5,000) .....	7
第4図 史跡指定位置図 (1/1,500) .....	10
第5図 調査地位置図 (1/1,000) .....	11
第6図 土層断面・調査区全体図 (1/60) .....	16
第7図 SD01平面図 (1/60) .....	17
第8図 SD01断面図 (1/40) .....	17
第9図 SD01上部出土土器実測図1 (1/3) .....	18
第10図 SD01上部出土土器実測図2 (1/3) .....	19
第11図 SD01 上部出土土器実測図3 (1/3) .....	20
第12図 SD01 上部出土土器実測図4 (1/3) .....	21
第13図 SD01 上部の下出土土器実測図1 (1/3) .....	22
第14図 SD01 上部の下出土土器実測図2 (1/3) .....	23
第15図 SD01 上部の下出土土器実測図3 (1/3) .....	24
第16図 SD01 上部の下出土土器実測図4 (1/3) .....	25
第17図 SD01 下部出土土器実測図 (1/3) .....	26
第18図 SD01 一括出土土器実測図1 (1/3) .....	27
第19図 SD01 一括出土土器実測図2 (1/3) .....	28
第20図 SD01 一括出土土器実測図3 (1/3) .....	29
第21図 SD01 一括出土土器実測図4 (1/3) .....	30
第22図 SK01・02・03 平面・断面図 (1/60) .....	31
第23図 SK01・02・03 出土土器実測図 (1/3) .....	31
第24図 SK04・P1 平面・断面図 (1/60) .....	32
第25図 SK04 出土土器実測図 (1/3) .....	32
第26図 その他の出土土器実測図 (1/3) .....	32
第27図 土製品実測図 (1/3) .....	33
第28図 SD01 出土玉未製品実測図 (1/1) .....	33
第29図 SD01 出土石製品実測図 (1/3) .....	34

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡地名表1	4
第2表	周辺遺跡地名表2	5
第3表	吉崎・次場遺跡発掘調査・保存事業経過表	9
第4表	出土土器観察表	39
第5表	出土土製品観察表	51
第6表	出土石製品観察表	51

## 図版目次

図版1	(1) 遺構検出状況 (西から) (2) 調査区より吉崎・次場弥生公園を望む (東から) (3) SD01 検出状況 (南東から) (4) SD01・SK01 検出状況 (南西から) (5) SK01・02・03 検出状況 (南西から)
図版2	(1) SD01 上部～上部の下遺物出土状況 (南東から) (2) SK01 断面 (南から) (3) SK02 断面 (北東から) (4) SK03 断面 (南から) (5) SK04 断面 (南西から)
図版3	(1) SD01上部遺物出土状況 (南東から) (2) SD01 上部の下遺物出土状況 (3) SD01 完掘 (南西から) (4) SK01 完掘 (南から) (5) SK02・03 完掘 (南西から) (6) SK04 完掘 (北から) (7) 完掘状況1 (西から) (8) 完掘状況2 (東から)
図版4	SD01 上部 出出土器 1
図版5	SD01 上部 出出土器 2
図版6	SD01 上部 出出土器 3
図版7	SD01 上部 出出土器 4
図版8	SD01 上部 出出土器 5
図版9	SD01 上部の下 出出土器 1
図版10	SD01 上部の下 出出土器 2
図版11	SD01 上部の下 出出土器 3
図版12	SD01 下部 出出土器 1
図版13	SD01 下部 出出土器 2 ・ 一括出土土器 1
図版14	SD01 一括 出出土器 2
図版15	SD01 一括 出出土器 3
図版16	SD01 一括 出出土器 4 ・ SK01 出出土器
図版17	SK01・02・03・04・その他出土土器
図版18	土製品・炭化米・石製品 1
図版19	石製品 2
図版20	石製品 3

## 例　　言

1. 本書は、平成10年度に実施した石川県羽咋市「市内遺跡（吉崎・次場遺跡）」の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、住宅建設にともなうもので、羽咋市教育委員会が文化財保存事業費国庫補助金、県費補助金を受けて実施したものである。
3. 調査は、羽咋市教育委員会文化課（現：文化財室）主事牧山直樹・同主査今井淳一が担当し、同主査出口成治・同嘱託宮下栄仁の協力を得た。また庶務と調整は同課長補佐谷内頼央・同係長中谷充久があたった。
4. 調査期間は、平成10年5月11日から同年6月26日まで延べ35日間を要した。
5. 出土品の整理および本書作成にあたっての作業分担は、宮下・牧山の指導のもと遺物洗浄・接合・記名・実測・トレースを、井上育子、上田郁代、上井直子、古池理恵子、能山真登加が行い、写真撮影・その他は牧山が行い、吉野輝子の協力を得た。
6. 本書の遺構・遺物挿図の表示は次のとおりである。
  - (1) 挿図の縮尺は図内に表示した。
  - (2) 方位は全て磁北を示している。
  - (3) グリッド名称は南西隅杭で代表する。
  - (4) 水平基準は海拔高を示している。
  - (5) 写真図版中の遺物番号は挿図内番号と符合する。
  - (6) 土器実測図の断面は須恵器を黒塗り、その他の土器数を白抜きで示し、赤彩・黒色処理はその範囲を網点で示している。
  - (7) 遺構の略号は次のとおりである。

S K : 土坑 S D : 溝 Pit : 小穴

7. 発掘調査および出土品整理・報告書作成にあたっては、羽咋市教育委員会文化課・文化財室職員他、次の方々や諸機関からご教示とご協力をいただいた。記して謝意を表したい。  
(敬称略・順不同)  
中條茂雄、久田正弘、安 英樹、北嶋威二、文化庁、石川県教育委員会、(財)石川県埋蔵文化財センター、羽咋市歴史民俗資料館、吉崎町町会、次場町町会、(有)一松建設
8. 本書の執筆は第1章を今井が担当し、第2章・第3章・編集は牧山が担当した。
9. 本調査に関する出土品、記録資料などは羽咋市教育委員会が一括して保管している。

## 第1章 吉崎・次場遺跡の概要

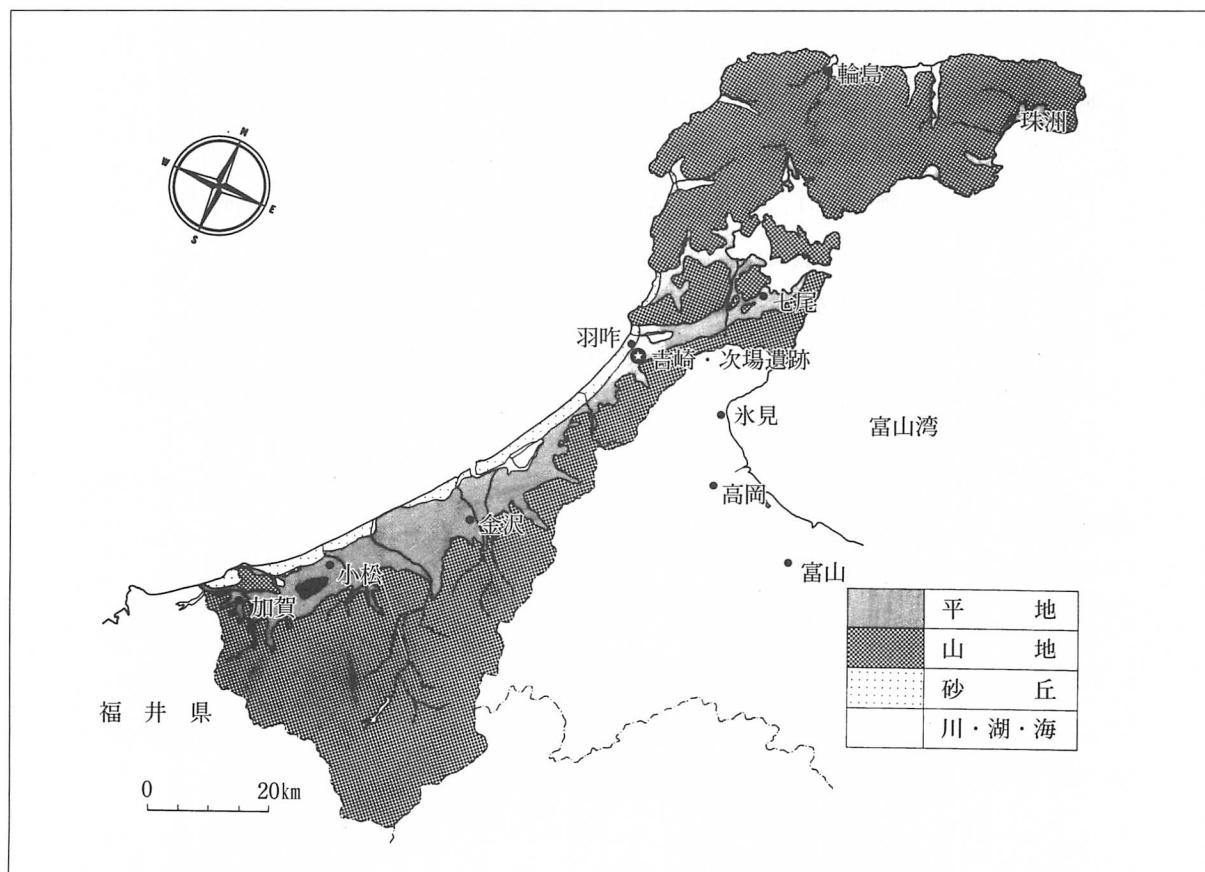
### 第1節 遺跡の位置・環境

国指定史跡である吉崎・次場遺跡は、石川県羽咋市次場町から吉崎町、鶴多町にかけて分布している。羽咋市域は日本海に大きく突き出し、長い海岸線をもつ能登半島の付け根部分に所在し、古代から海を通じ多彩な文化を受け入れてきた日本海交流の重要な一拠点として位置づけられた。

山がちな半島にあって、本市域の地形は海岸部に幅1kmをこえる羽咋砂丘が発達し、邑知地溝帯の名で著名な低地帯が北東へと伸びている。また、この細長い半島横断路の北西側に眉丈山地、南東側に宝達・石動山系が立ちはだかるといった変化に富む特徴をもっている。

本市域のこうした地理的環境のなかで、吉崎・次場遺跡を中心とした稻作文化の成立と展開をみる場合、最も重要な点は日本海に面した潟湖（邑知潟）の存在であろう。

たび重なる干拓事業によりほとんどが水田化されたかつての邑知潟は、国営干拓事業（昭和23～43年度）が始まる直前の昭和20年代においても県下では河北潟に次ぐ典型的な海跡湖であり、潟水面積456ha、平均水深1.20mの規模を有していた。前出干拓事業の結果、残された水面が



第1図 位置と地形概念図 (1/125,000)

86haであることからも、現在の景観とは異なっていた

この古邑知潟の成立過程は、いわゆる縄文海進の影響で入り江となり、さらに南から北へと形成された羽咋砂丘によって潟化されたと推定されている。これが縄文時代晚期から弥生時代にかけてのいわゆる「弥生の小海退」の時期になると、湖面は縮小陸化し、海水の影響を序々に受けなくなったと考えられる。

本遺跡の位置は、この陸化によって生じた古邑知潟南岸の縁辺部にあたり、潟湖へと流れ込んでいた河川により形成された自然堤防上に立地している。既往の自然科学調査で行った花粉分析や植物珪酸体分析の結果においても、干上がった低地のなかで集落が形成されるような微高地では、ススキ属やネザサ節などのイネ科植物やヨモギ属・オオバコ属といった比較的乾燥し開けた場所に生育する植物が、その他の地点ではヨシ属やコブナグサ属などのイネ科植物が多く生育し、ガマ属・オオダカ属などの水生植物も生育するような湿地的景観が想定されているが、この一部が水田として利用されていたのであろう。

こうした米つくりに適した環境、すなわち能登における稻作文化の成立は本遺跡において遅くとも弥生時代前期新段階には集落が形成され、以降古墳時代初頭にいたるまで続き、賑わったことが考古学的に確認されている。弥生時代中期以降となると、本遺跡周辺でも潟湖を臨んで低地部に東釜屋、子浦川、柳田猫ノ目、農業倉庫前、太田、三ツ屋等の遺跡、羽咋砂丘内縁部や段丘上に旧羽咋高校前、千里浜、長者川、一ノ宮郵便局、寺家、柳田うわの遺跡をはじめ濃密な分布状況を示している。

また、稻作文化の展開に沿って本遺跡及び古邑知潟がもつ意義を捉える場合、豊かな生産基盤という側面の他に、既に森浩一氏が指摘されているように、天然の良港、海上交通の要所としての位置が重要となってこよう。これは当然のことながら、日本海交流の存在を背景とした港津（古邑知潟）としての評価であり、地方豪族層の大規模な古墳が造営される古墳時代になっても、本市域の卓越した評価は続き、眉丈山丘陵および砂丘上には能登でも屈指の古墳が築かれている。

以上、古邑知潟を擁した豊かな経済的基盤と古代の港津としての卓越した位置によって、本市域周辺が弥生・古墳時代の展開を経て奈良時代以降には氣多神社を中心とする公的・宗教的色彩の濃い地域として歴史的な発展をみたことが証明されている。

## 参考文献

- 『羽咋市史』原始・古代編 1973 石川県羽咋市
- 『鹿島町史』通史・民俗編 1985 石川県鹿島郡鹿島町
- 『七尾市史』通史編 1974 石川県七尾市
- 『吉崎・次場遺跡』県営ほ場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊（資料編(1)）  
1987 石川県立埋蔵文化財センター
- 『寺家遺跡発掘調査報告Ⅰ・Ⅱ』 1986・1988 石川県立埋蔵文化財センター
- 『四柳白山下遺跡Ⅰ・Ⅱ』 1990・1991 石川県羽咋市教育委員会



第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000) (『羽咋市遺跡地図』1993版より一部転載)

第1表 周辺遺跡地名表1

遺跡番号	柱番号	名 称	所 在 地	所在地通称	種別	現 状	立 地	時 代	出 土 品	備 考	文 献
07004		千里浜遺跡	羽咋市千里浜町・兵庫町		散布地	畠	砂丘	弥生～中世	弥生土器、石包丁、須恵器、土師質土器	1983年1月、耕作中遺物発見。	
07005		長者川遺跡	羽咋市兵庫町・松ヶ下町・御坊山町		散布地	田・宅地	平地	縄文～平安	縄文土器、弥生土器、諸手縄、土師器、須恵器		361、765、1295
07006		柳橋遺跡	羽咋市柳橋町		散布地	田	平地	不詳	土師器		1295
07007		子浦川南遺跡	羽咋市立開町・石野町		散布地	田	平地	古墳	土師器、須恵器		
07008		子浦川遺跡	羽咋市鶴多町・東河原町		散布地	宅地・田	平地	弥生～古墳	土器	1966年、河川改修時発見。	765
07009		羽咋高校前遺跡	羽咋市旭町		散布地	宅地	砂丘	弥生	土器	1961～62年建物基礎工事中出土。現市役所前	259、503
07010		羽咋古墳群	羽咋市川原町		古墳	社地	砂丘	古墳	土器、玉類		765
07011		の場農業倉庫前遺跡	羽咋市の場町		散布地	田	平地	弥生			
07012		釜屋倉ノ下遺跡	羽咋市釜屋町	倉ノ下	散布地	田・畠・宅地	平地	平安～中世	須恵器、土師器、珠洲焼	1984、87年、市教委発掘調査。	1362、1564、1628
07013		釜屋遺跡	羽咋市釜屋町・柳田町		散布地	畠	砂丘	縄文～古墳	土器、石器、刀子	1988年市教委発掘調査	262、1628
07014		寺家遺跡	羽咋市寺家町・柳田町		祭祀	宅地・畠	砂丘	縄文～中世	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、中世陶磁器、銅製品、鉄製品、三彩、ガラス製品	1977～80、85年県教委・県埋文センター発掘調査。1980～83、87、89、91年市教委発掘調査。	988、1011、1205、1218、1413、1547、1629、1715
07015		寺家海岸遺跡	羽咋市寺家町		散布地	工場用地・畠	砂丘	弥生	弥生土器	工場用地造成地で採集	1547
07016		柳田猫ノ目遺跡	羽咋市柳田町・寺家町	猫ノ目・カネツキ・オオタ	散布地	田・畠	平地	縄文～中世	土器、石器、木器、金属製品	1978、1979年、県教委・県埋文センター発掘調査。	765、1413、1547、1628、1834
07017		東釜屋遺跡	羽咋市東釜屋町		散布地	田	平地	不詳	土器		
07018		吉崎・次場遺跡	羽咋市吉崎町・次場町・鶴多町		散布地	田・畠・宅地	平地	弥生～中世	土器、土製品、石器、木器、玉、鏡	1956年羽咋高校、63年市教委 石考研、79～82、86、91年市教委、80～84年県埋文センター発掘調査。国指定史跡	429、584、765、870、911、1480
07019		次場コウレン遺跡	羽咋市次場町	光蓮（コウレン）	集落跡	田	平地	弥生～平安	土器、木製品	1982年県埋文センター発掘調査（吉崎・次場遺跡T調査区）	1480
07020		若草遺跡	羽咋市若草町・深江町・石野町		散布地	宅地・田	平地	平安	土師器、須恵器	1982年、宅地造成地で遺物採集。	
07021		深江遺跡	羽咋市深江町		散布地	田	平地	古墳～平安	土器、石製品、木製品	1973、74、78年、県教委発掘調査。	902
07022		太田遺跡	羽咋市太田町		散布地	田	平地	弥生・平安	弥生土器、須恵器	1990年市教委発掘調査	1775
07023		太田ツツミダ遺跡	羽咋市太田町	ツツミダ	散布地	田	平地	平安～中世	須恵器、土師器、漆器		
07026		福水ヤシキダ遺跡	羽咋市福水町	ヤシキダ	祭祀	田	丘陵裾	平安初期	井桁（木製、アカ井）、銅製三鈷杵1、銅製錫杖1、銅製仏龕鉢3	1971年、市史調査団発掘調査。	1268
07039		柳田ヒガシデ1号窯跡	羽咋市柳田町	ヒガシデ	窯跡	宅地	丘陵斜面	不詳			
07040		柳田ウワノ遺跡	羽咋市柳田町	うわの	散布地	田	台地	弥生・奈良・平安	弥生土器壺、甕・壺、高坏、器台、石鎌	1958年羽咋高校、71年市史調査団発掘調査。	321、672、765、1834

第2表 周辺遺跡地名表2

遺跡番号	柱番号	名 称	所 在 地	所在地通称	種別	現 状	立 地	時 代	出 土 品	備 考	文 献
07041		柳田宮の山古墳	羽咋市柳田町	宮の山	古墳	社地	丘陵	古墳		市指定史跡。円墳、長径42m。三段築成。横穴式石室か。	765、1834
07042	1	柳田山伏山1号墳	羽咋市柳田町		古墳	山林	丘陵	古墳	直刀、刀子、馬具玉類、須恵器	市指定史跡。前方後円墳、全長49m横穴式石室。	765、1834
	2	柳田山伏山2号墳	羽咋市柳田町		古墳	山林	丘陵	古墳		市指定史跡。円墳、長径17m。	
07043		柳田うわの1~6号墳	羽咋市柳田町	うわの	古墳	山林	丘陵	古墳			
07044		柳田ウワノ1・2号窯跡	羽咋市柳田町	ウワノ	窯跡	山林	丘陵斜面	古墳後期	須恵器		1151
07045		柳田五郎兵衛山1~4号窯跡	羽咋市柳田町	ゴロベ山	窯跡	山林	丘陵斜面	古墳後期			
07046		柳田アサバタケ1号窯跡	羽咋市柳田町	アサバタケ	窯跡	山林	丘陵斜面	奈良	須恵器		1151、1834
07047		柳田タンワリ1号窯跡	羽咋市柳田町	タンワリ	窯跡	山林	丘陵斜面	古墳後期	須恵器、陶馬、円面鏡	1981年県埋文センタ一発掘調査。	1151、1834
07048	1	柳田テンジク1号窯跡	羽咋市柳田町	テンジク	窯跡	山林	丘陵斜面	古墳後期	須恵器		327、765、1834
	2	柳田テンジク2号窯跡	羽咋市柳田町	テンジク	窯跡	山林	丘陵斜面	古墳後期	須恵器		1151、1834
07049		柳田テンジク古墳	羽咋市柳田町	テンジク	古墳	山林	丘陵	古墳	須恵器、小札様鐵板、鐵鏡、刀子	円墳、径15m。1991年市教委分布調査。横穴式石室。	765、1834
07050		柳田セックデン古墳	羽咋市柳田町	セックデン	古墳	田	台地	古墳	須恵器、勾玉	損壊	765、1834
07051		柳田台地遺跡	羽咋市柳田町		散布地	田・畠	台地	網文~中世		1978、79年市教委・県埋文センター発掘調査	1291、1493、1834
07052		柳田シャコデ魔寺	羽咋市柳田町	シャコデ	寺跡	畠	台地	奈良・平安	瓦、瓦塔、仏像、土師器、須恵器	1971年、市史調査団発掘調査。1984~86年、市教委詳細分布調査。	327、765、1493、1834
07053		柳田シャコデ1号窯跡	羽咋市柳田町	シャコデ	窯跡	田・崖	台地縁	古墳後期	須恵器		1151、1295、1834
07054		気多社僧坊群遺跡	羽咋市寺家町		散布地	田	台地	網文~中世	土器、石器、金属製品	1977、78、84年、県教委・市教委発掘調査。	948、1290、1363
07055		寺家モスケ古墳	羽咋市寺家町	モスケ	古墳	崖	台地縁	古墳	須恵器、金環、ガラス小玉	横穴式石室。1991年、市教委発掘調査。	1752、1834
07056		一ノ宮郵便局遺跡	羽咋市一ノ宮町		散布地	宅地	平地	弥生	壺、甕		324
07057		大乗寺中世墓	羽咋市寺家町		墳墓	山林	丘陵裾	中世	須恵器、珠洲焼、人骨		1295
07058		寺家中世墓	羽咋市寺家町		墳墓	田	丘陵裾	中世			
07059		一ノ宮左弥遺跡	羽咋市一ノ宮町		散布地	山林	丘陵	網文	磨製石斧		
07060	1	気多1号中世墓	羽咋市寺家町		墓	社地	丘陵	中世		石室。	765、1413
	2	気多2号中世墓	羽咋市寺家町		墓	社地	丘陵	中世		石室。	
07062		若宮神社跡	羽咋市寺家町	ワカミヤ	神社跡	畠・田	台地	不詳	礎石		
07100		千路遺跡	羽咋市千路町		散布地	畠・宅地	丘陵	網文	磨製石斧2	開墾時出土。	
28036		二口かみあれた遺跡	志雄町二口	カミアレタ	集落跡	田	平地	弥生~平安	弥生土器、土師器、須恵器、木製品	1991年町教委発掘調査	
28037		杉野屋ろくばわり遺跡	志雄町杉野屋	ロクバワリ	散布地	河床・田	平地	弥生・奈良・平安	弥生土器、土師器、須恵器、木製品	1974、86年県教委、町教委発掘調査	823、1571
28040		苔原谷内出遺跡	志雄町苔原		散布地	山林	丘陵端	不詳	土師器壙・高壙		260

## 第2節 遺跡の発見・性格

吉崎・次場遺跡の発見から今日にいたるまでの経過は、常に羽咋市における埋蔵文化財保護の歴史と密接なつながりをもっている。また、既往の調査内容については、これまでの文献で詳細に報告されているため、ここでは遺跡の沿革をしだきく3つの段階に分けて述べてみたい。

まず、第一の段階は昭和30年代、民間の研究者等によって発見され、本市域では初めて本格的な発掘調査および研究が行われ、全国的に著名な遺跡として周知された時期。このなかで本遺跡発見の第一の契機としてあげられるのが、昭和27年（1952）の羽咋川改修工事中に発見され話題となった羽咋川遺跡の存在である。橋本澄夫氏が編纂された『石川県考古学便覧Ⅰ』から本市域に関する遺跡の発見と調査の記録をみると、大正7年（1918）以降市内各地で石仏・古銭・土器などの発見や採集が報じられているが、この弥生の遺跡発見に刺激を受けた形で、昭和30年（1955）に羽咋高校地歴班が羽咋川周辺での弥生時代の遺跡発掘を計画、現地踏査を行っていることが記載されている。

さらに、同文献の内容を引用すると、高校生が行った表面採集による土器散布地の確認を発端に、同地歴班の顧問であった浜岡賢太郎氏や高堀勝喜氏など石川考古学研究会々員の指導を受けながら、ボーリング調査や試掘、地形測量を度々行っており、こうした熱心な活動と的確な調査区設定が実を結ぶ形での本遺跡発見であり、翌昭和31年（1956）の第1次発掘調査であったことがうかがわれる。また、この調査区を拡大して行われた昭和38年（1963）の第2次発掘調査は、羽咋市と北国新聞社が共催となり、同地歴班・同研究会をはじめ新たに七尾高校郷土研究クラブの協力を得て実施されている。このような形で行政と民間が取り組む調査体制は当時としては画期的であり、石川考古学研究会を主体とする地元研究者の力が各方面に發揮された時期といえるであろう。これらの学術調査によって出土した弥生土器は「次場最下層式」、「次場下層式」、「次場上層式」に分類整理され、北陸の弥生時代中・後期の標準型式名となり、本遺跡は北陸屈指の遺跡として著名になった。



第1・2次調査地点遠景



第3図 各調査区位置図 (1/5,000)

### 第3節 遺跡の範囲・規模

次の段階である昭和40～50年代は、全国的にみても「開発」と「保存」のテーマのもとに遺跡の破壊が顕在化し、いわゆる行政発掘が急増した時期であるが、本市域においても本遺跡の中央部分を走る農道を拡幅して市道12号線とする道路改良事業が計画された。

第3・4次調査は、すでに昭和49年（1974）に重要遺跡として指定を受けていた本遺跡の分布状態を詳細に把握して、道路改良事業の計画変更の要否の資料とするための範囲確認調査であった。

昭和50・51年（1975・1976）、羽咋市教育委員会によって実施されたこれらの調査は、トレンチおよびグリッド法による74箇所余りの調査区の設定・発掘から遺構・遺物の有無を確認するものであり、全体的に良好な遺存状態が確認されている。また、この結果遺跡の南限に関しては一部不確定な部分を残すものの、東西最大長580m、南北最大長350mを測る大規模な集落であることがこれらの調査によって判明した。

### 第4節 遺跡の保存・整備

昭和50年代後半から現在にかけては、遺跡の範囲内で計画・実施された前述の市道12号線改良事業や県営ほ場整備事業（羽咋地区）などとともに発掘調査がかなりの規模で行われた時期であり、年次で通算すれば、第5～13次にわたって合計1万4千m<sup>2</sup>余りの発掘が行われている。

なかでも5年間にわたって実施された県営ほ場整備事業（羽咋地区）とともに発掘調査では、事業区域全域で試掘による分布調査が再度実施され、前述範囲確認調査（第3・4次調査）の結果ともあわせて、現在の遺跡地図に記載されているような南方へ舌状に延びる集落域が確定した。

さらに、遺跡の範囲や状況に応じて部分的な事業区画の変更や盛砂などによる遺跡の保存が図られるとともに、各調査区がそれぞれ集落としての外縁を精査する形で設定されたことから、遺跡の性格把握にとって必要な集落構造に関する新知見や遺跡全体が立地する微高地から古邑知潟縁辺部周辺に関する重要な知見や資料が得られている。

また、こうした記録保存を前提とした発掘調査が続く中で、昭和58年（1983）12月、分布密度がより高いとされる吉崎町ウの部ほか10,057m<sup>2</sup>が史跡指定を受けたのを機に、昭和61年（1986）～63年（1988）にかけて指定地の土地買い上げ事業が行われており、以後整備委員会の発足、「史跡 吉崎・次場遺跡整備基本構想」の策定など、遺跡の保存と整備に関する基本方針や構想などが検討・協議されてきた。

そして、平成7年には文化庁の事業採択（一般整備）を受け、復元的整備のための発掘調査が平成7年から同9年までの3ヶ年にわたって実施された結果、史跡指定地内が弥生時代中期の居住域であったことを示す資料が得られ、これらをもとにした史跡整備が平成10年度までの予定で進められている。

第3表 吉崎・次場遺跡発掘調査・保存事業経過表

年 度	事 業 名	事業・調査主体	事 業 概 要	文 献 等
昭和27年 (1952)	羽昨川改修工事		工事の際に、大量の土器、田舟等の木製品などが出土して研究者の注目をあびる。	高嶋勝喜「羽昨川弥生式遺跡略報」「石川考古学研究会々誌第5号」1953
昭和31年 (1956)	第1次発掘調査	石川考古学研究会 羽昨高校・地歴班	前年より行っていたボーリング調査の成果をもとに、弥生中・後期の遺構・遺物を検出。	浜岡賢太郎「羽昨川吉崎次場（須場）遺跡発掘報告」「回報」第5号県立羽昨高校1957
昭和38年 (1963)	第2次発掘調査	石川考古学研究会 羽昨高校・地歴班	弥生中・後期及び土師器の良好な資料の他、小型仿製内行花文鏡や石組遺構を検出。	権本澄夫「次場遺跡」「羽昨市史」原始・古代編1973 浜岡賢太郎「羽昨の原始時代」同上文献
昭和50年 (1975)	第3次発掘調査 (範囲確認調査)	羽昨市教育委員会	遺跡の範囲確認のための試掘により、遺跡の北限、東限が判明した。	「羽昨市吉崎・次場遺跡－第3次発掘調査概報－」羽昨市教委 1976
昭和51年 (1976)	第4次発掘調査 (範囲確認調査)	羽昨市教育委員会	東西最大長580m、南北最大長350mの範囲で微高地に立地していた大規模な弥生時代の集落遺跡であることが判明した。	「羽昨市吉崎・次場遺跡－第4次発掘調査概報－」羽昨市教委 1977
昭和54年 (1979)	第5次発掘調査 市道12号線改良	羽昨市教育委員会	市道部分（A区）525m <sup>2</sup> を調査	
昭和55年 (1980)	第6次発掘調査 市道12号線改良	羽昨市教育委員会	市道部分（B区）1,280m <sup>2</sup> を調査	
	県営ほ場整備 (羽昨地区)	県埋蔵文化財 センター	排水路（H・J・K区）、幹線道路（I区）、田面部分（L・M区）合計約1,800m <sup>2</sup> を調査	「吉崎・次場遺跡－県営ほ場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書第1・2分冊」（資料編(1)及び資料編(2)・総括編） 石川県立埋蔵文化財センター 1987・1988
昭和56年 (1981)	第7次発掘調査 市道12号線改良	羽昨市教育委員会	市道部分（C・G区）合計2,000m <sup>2</sup> を調査	
	住宅建設	羽昨市教育委員会	宅地部分（D・E区）合計950m <sup>2</sup> を調査	「吉崎・次場遺跡－住宅建設に伴う緊急発掘調査概報－」 羽昨市教委 1982
	県営ほ場整備	県埋蔵文化財 センター	排水路部分（N・O・P区）合計約850m <sup>2</sup> を調査	県埋文センター編 1987・1988文献
昭和57年 (1982)	第8次発掘調査 市道12号線改良	羽昨市教育委員会	市道部分（F区）700m <sup>2</sup> を調査	
	排水路拡幅	羽昨市教育委員会	排水路部分（Q・R区）合計約310m <sup>2</sup> を調査	「吉崎・次場遺跡」羽昨市教委1983
	県営ほ場整備	県埋蔵文化財 センター	排水路部分（S・T・U区）合計約2,000m <sup>2</sup> を調査	県埋文センター編1987・1988文献
昭和58年 (1983)	第9次発掘調査 県営ほ場整備	県埋蔵文化財 センター	幹線道路舗装部分（V区）308m <sup>2</sup> を調査	県埋文センター編1987・1988文献
	史跡指定	文化庁	「吉崎・次場遺跡」として史跡に指定される	
昭和59年 (1984)	第10次発掘調査 県営ほ場整備	県埋蔵文化財 センター	幹線道路舗装部分（W区）850m <sup>2</sup> を調査	県埋文センター編1987・1988文献
	農村モデル	羽昨市教育委員会	農道舗装部分70m <sup>2</sup> を調査	
昭和61年 (1986)	第11次発掘調査 農村モデル	羽昨市教育委員会	農道舗装部分約240m <sup>2</sup> を調査	
	土地買い上げ	羽昨市教育委員会	史跡指定地内2,671m <sup>2</sup> を買い上げ	
昭和62年 (1987)	第12次発掘調査 住宅建設	羽昨市教育委員会	宅地部分約30m <sup>2</sup> を調査	「羽昨市市内遺跡詳細分布調査報告書」羽昨市教委1988
	土地買い上げ	羽昨市教育委員会	史跡指定市内5,006m <sup>2</sup> を買い上げ	
昭和63年 (1988)	土地買い上げ	羽昨市教育委員会	史跡指定地内1,762m <sup>2</sup> を買い上げ	
平成3年 (1991)	第13次発掘調査 県道若部川原線	羽昨市教育委員会	県道建設部分約2,100m <sup>2</sup> を調査	「第13次吉崎・次場遺跡発掘調査報告書」羽昨市教委1994
平成4年 (1992)	整備基本構想	羽昨市教育委員会	「史跡吉崎・次場遺跡整備基本構想」の策定	
平成7年 (1995)	第14次発掘調査 史跡整備	羽昨市教育委員会	史跡指定地内1,200m <sup>2</sup> を調査	
平成8年 (1996)	第15次発掘調査 史跡整備	羽昨市教育委員会	史跡指定地内450m <sup>2</sup> を調査	
平成9年 (1997)	第16次発掘調査 史跡整備	羽昨市教育委員会	史跡指定地内550m <sup>2</sup> を調査	
	個人住宅建設	羽昨市教育委員会	宅地部分150m <sup>2</sup> を調査	市内遺跡発掘調査報告1998
平成10年 (1998)	第17次発掘調査 個人住宅建設	羽昨市教育委員会	宅地部分100m <sup>2</sup> を調査	

指定区分 国指定史跡

名称 吉崎・次場遺跡

指定年月日 昭和58年12月8日（文部省告示第133号）

所在地 石川県羽咋市吉崎町ウ19-1番地、鶴多町五反畠1番地

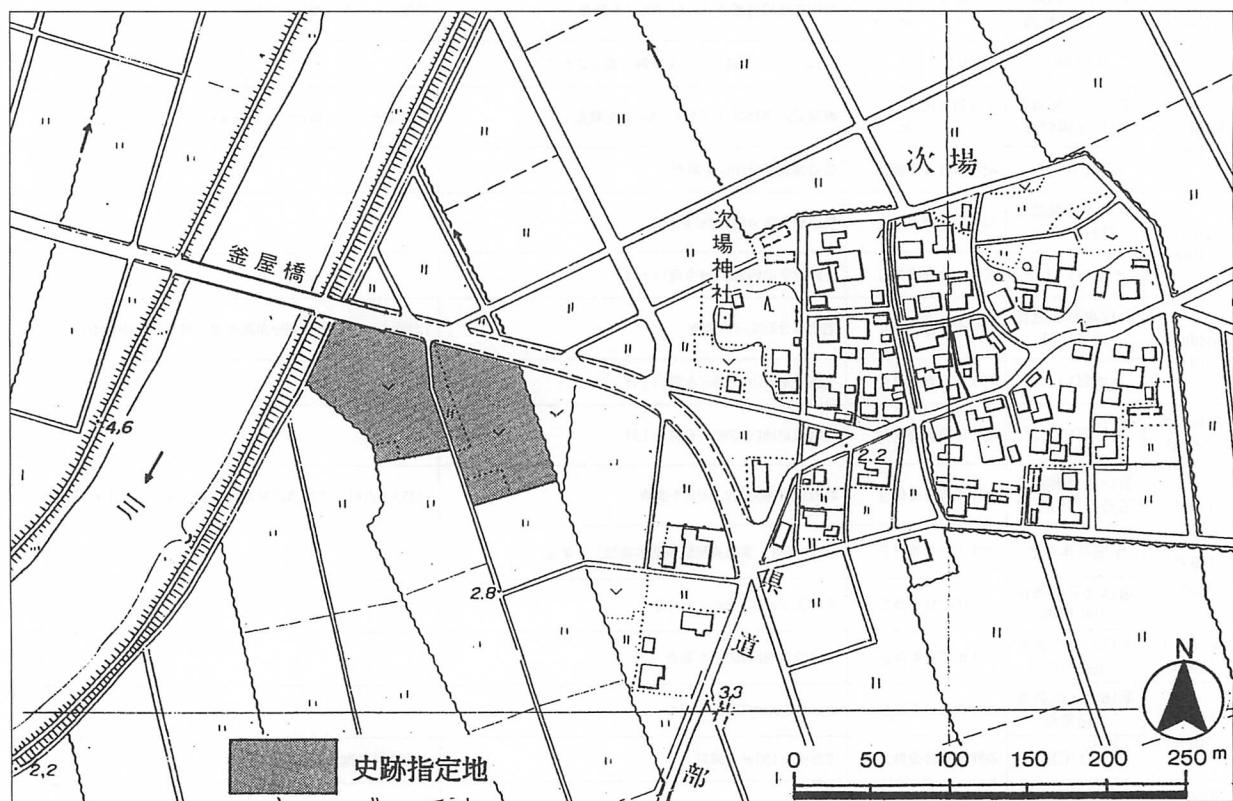
指定理由 (基準) 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準 史跡1

(説明) 吉崎・次場遺跡は、能登半島の基部にあたる羽咋市街の北東1kmに所在し、旧羽咋川の最下流域の邑知潟に接する自然堤防上に営まれた弥生時代の集落跡である。

本遺跡から出土した土器は、次場最下層式、次場下層式、次場上層式の三つに分類され、本遺跡は北陸地方の弥生時代の編年を組み立てる上で重要な標準遺跡となった。

これまでの調査で確認された遺構は、平地式建物跡、堀立柱建物跡、井戸、土坑、溝、配石遺構など豊富な内容と良好な遺存状況を呈している。また、出土遺物は弥生時代中期・後期の土器を主体に、各種石製品、木製品（農耕具、木織具、建築部材等）、小型、製鏡、自然異物など多岐にわたっている。

本遺跡は、能登半島における代表的遺跡であることはいうまでもなく、出土土器の様相は近畿地方に発達した櫛描文土器の波乃や東北地方や山陰地方の土器の影響が認められ、他地域との交流があったことを示しており、北陸地方の弥生時代の全期間を通観できる数少ない集落跡である。



第4図 史跡指定位置図 (1/1,500)

## 第2章 調査の経緯と経過

### 第1節 調査の経緯

平成9年10月に、羽咋市吉崎町601番地の土地所有者から埋蔵文化財の問い合わせがあり、ただちに住宅建設を目的とした開発計画が市教委に提出された。

これを受けた市教委では、この事業予定地が周知の遺跡（遺跡No.07018 吉崎・次場遺跡）の範囲内であり、過去の発掘調査や、分布調査の図面調査の結果、埋蔵文化財が存在することはまちがいなく、事業実施以前に発掘調査が必要であることを回答した。

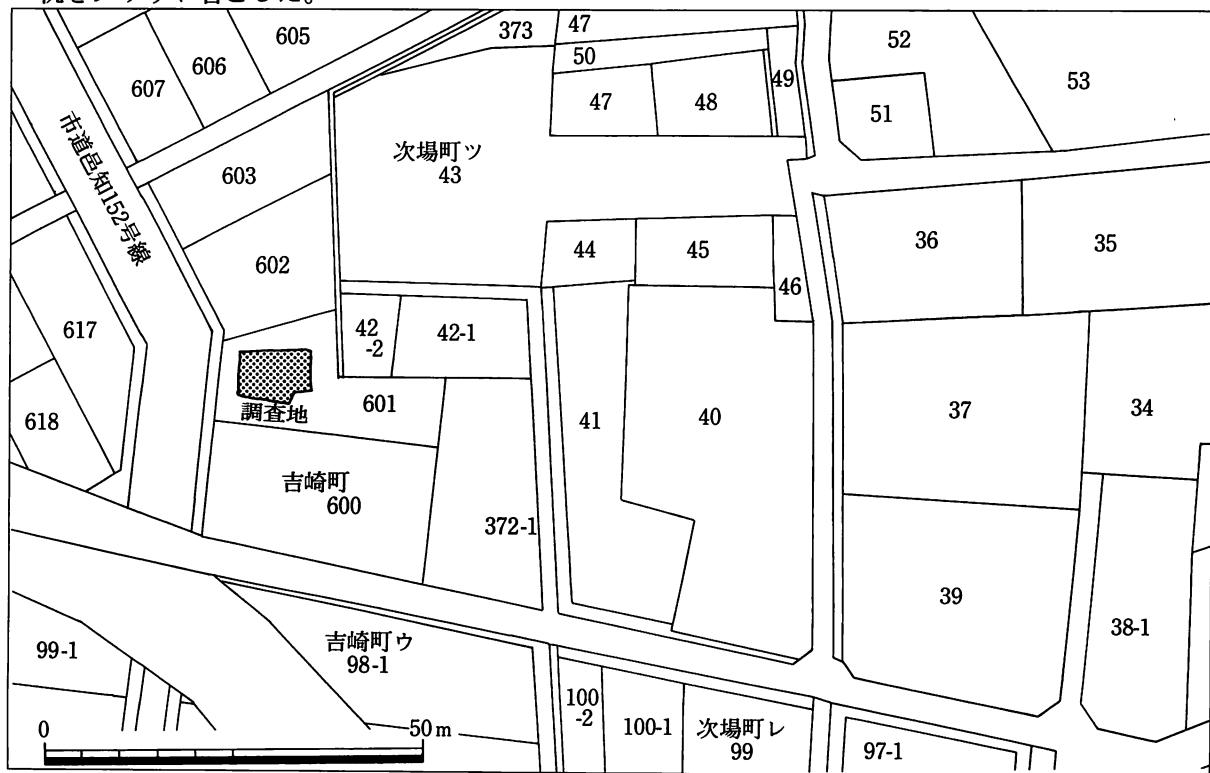
平成10年4月、同対象区域内に住宅建設の計画書が提出され、関係諸機関と発掘調査に関する協議を行った。

以上の経緯を経て、市教委が事業主体となり、平成10年5月11日から6月26日まで延べ35日間（調査面積100m<sup>2</sup>）の発掘調査を実施した。

### 第2節 調査の経過

当初の開発計画での予定面積は323m<sup>2</sup>であり、そのうち住宅建築にかかる100m<sup>2</sup>について発掘調査を実施した。

グリッドの設定は第6図に示す通りであり、4m四方の区割りを行い、南北方向には北から順に数字を、東西方向には西から順にアルファベットを割り振った。この座標が交差する南西隅の杭をグリッド名とした。



第5図 調査地位置図 (1/1,000)

(日誌抄)

5月11日（月） 曇後雨

本日より現地での発掘調査を開始する。ユニットハウスを設置し重機による表土除去作業を行う。

5月12日（火） 雨

作業員現地入り。雨模様であったが、発掘用資材の搬入を行い、排土の流入を防ぐため、壁面と排土をシートで保護しておく。

5月13日（水） 雨後曇

発掘用資材の搬入及び排水作業を行う。

5月14日（木） 晴

湧水があるため、調査区周囲に排水溝を掘る。盛り土が調査区内に流入してくるため、壁面の補強もあわせて行う。

5月15日（金） 晴

調査区の主に東側部分の掘り下げを行う。調査区北東隅部分の遺構を中心としたグリッド割を行う。

5月18日（月） 曇一時雨

調査区全体の掘り下げ。南東角に残した出入り口用のスロープもはずしてしまう。

5月19日（火） 晴

調査区全体を掘り下げ、一部遺構検出を行う。

5月20日（水） 晴

調査区全体を清掃し、遺構検出作業を行う。

5月21日（木） 晴

遺構検出状況の写真撮影を行う。調査区東壁面下に掘った排水溝より大量の土器が出土した。

5月22日（金） 晴

調査区北東角より検出した、溝状遺構 (= S D 01) の掘り下げを行う。

5月25日（月）・26日（火） 雨・時々曇

排水作業及び、排水溝の切り直し。S D 01の掘り下げ。

5月27日（水） 晴

排水作業及び、S D 01の掘り下げ。S D 01の遺物出土状況の写真撮影。

5月28日（木） 曇

S D 01の主に上層部分からの出土遺物の取り上げ作業を行う。

5月29日（金） 雨後曇

排水作業及び、雨水対策に追われる。

6月1日（月） 晴

S D 01上層部分の遺物出土状況を写真撮影



調査区 遠景



調査区 近景



重機による表土除去

し、遺物の取り上げと、遺構の掘り下げを行う。

6月2日（火） 曇

S D01及び、調査区中央の土坑状遺構（＝SK01）の掘り下げ。

6月3日（水） 曇時々雨

S D01掘り下げ及び、SK01の平面実測作業。

6月4日（木）・5日（金） 曇一時雨

遺構掘り下げ及び、SK04の平面実測作業。

6月8日（月）・9日（火） 晴

遺構掘り下げ及び、一部レベル記入。

6月10日（水）・11日（木） 曇一時雨

S D01出土遺物の平面実測作業を行う。

6月12日（金） 晴

S D01出土遺物レベル記入及び、遺構掘り下げ。

6月15日（月）・16日（火） 雨・曇一時晴

排水作業及び、SK01断面実測作業。

6月17日（水） 曇

SK01・SD01の掘り下げ及び、出土遺物の取り上げ。

6月18日（木） 晴

遺物の出土状況を撮影後、レベル記入し取り上げて行く。SD01下層まで掘り下げる。

6月19日（金） 曇後雨

SD01下層掘り下げ。

6月22日（月） 雨後曇

SD01掘り下げ、下層より出土した遺物の平面図実測作業を行う。

6月23日（火） 曇時々晴

SD01・SK01を掘り下げ、出土遺物のレベル記入。

SD01の断面実測作業。

6月24日（水） 晴時々曇

調査区全体の清掃作業中、SD01の最下層より炭化米が出土。午後からは、永光寺遺跡と合同で、新聞発表を行う。その後、遺構の掘り下げと平面実測作業を行う。

6月25日（木） 雨後曇

SK02平面実測作業。SD01・SK01・02より出土した遺物の取り上げ及び完掘。

6月26日（金） 曇

調査区全体の清掃を行い、完掘状況の写真撮影を行う。発掘用資材の搬出と、重機による埋め戻しを行い、本日にて、現地での発掘調査を終了する。



作業風景



遺物出土状況



埋め戻し終了



<発掘調査参加者> (50音順)

今江すみ子・紙谷百合子・北嶋威二・木村あさの・木村祐美子  
柴田米子・嶋田忠雄・竹沢正男・西屋柴子・船本とき子

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

今回の調査で本遺跡の発掘調査も第17次を数える。今回の調査区は、平成11年に完成した吉崎・次場弥生公園（史跡指定地）から東北東へ約100mに位置し、本遺跡の中心部にあたる。調査区域の現況は、旧水田面から厚さ60cm程に盛り土がなされ、整地されていた。調査区域での層序は、濁黄茶色を呈するこの盛り土が一番上にあり、その下に濁灰色粘土の旧水田耕作土（第1層）が20cm程の厚さでのこり、さらにその下にこの第1層と暗茶褐色粘質土との混合層（第2層）が厚さ10cm未満で続いている。包含層及び、遺構覆土の上端はこの第1層および第2層により削平されているようで、第2層の直下が地山である濁緑灰色砂となっている。今回の発掘調査で検出された各遺構はこの地山砂層に掘り込まれている。また、遺構検出面はほぼ平坦であり標高は1.2m前後である。

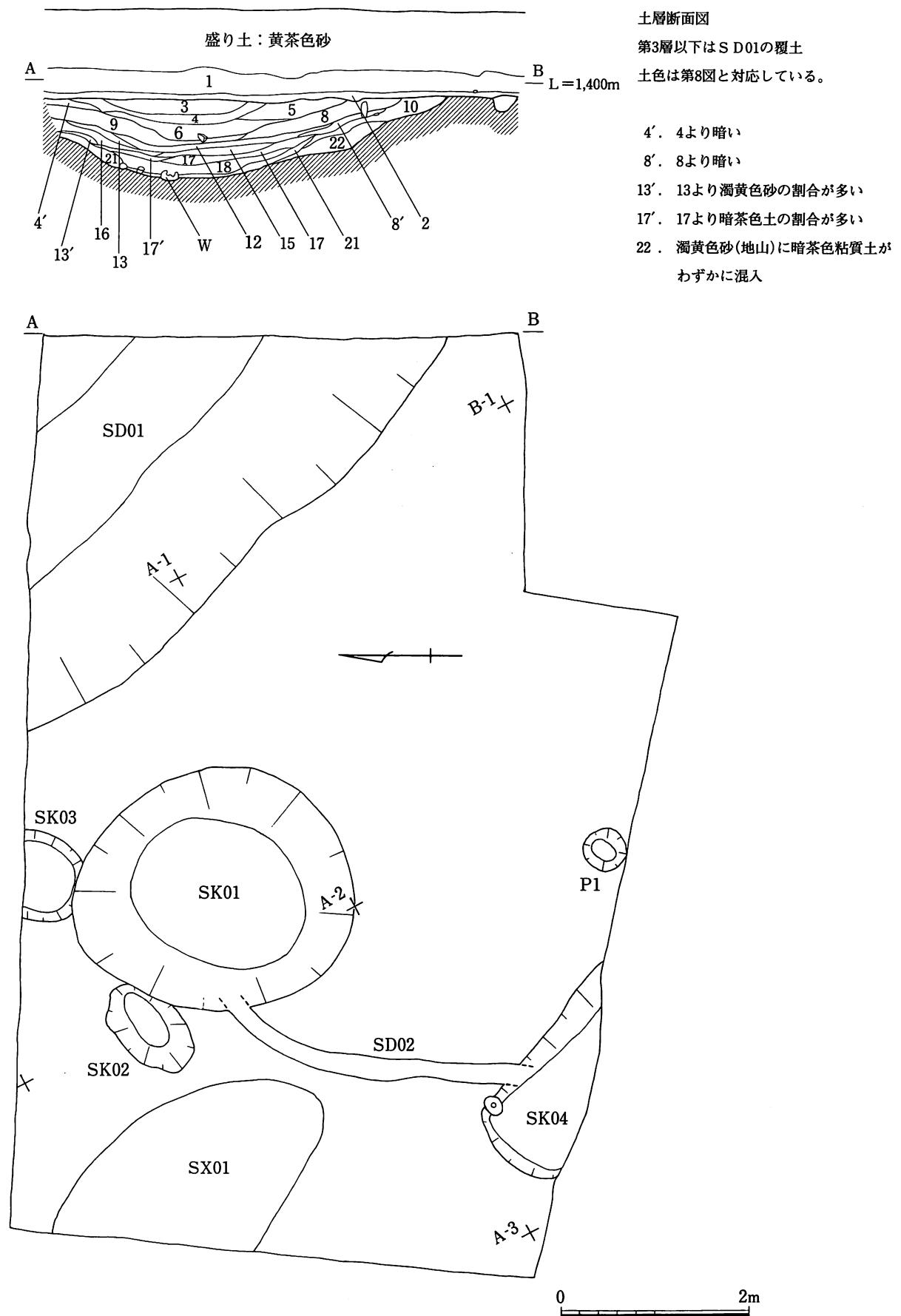
### 第2節 遺構と遺物

#### S D 01

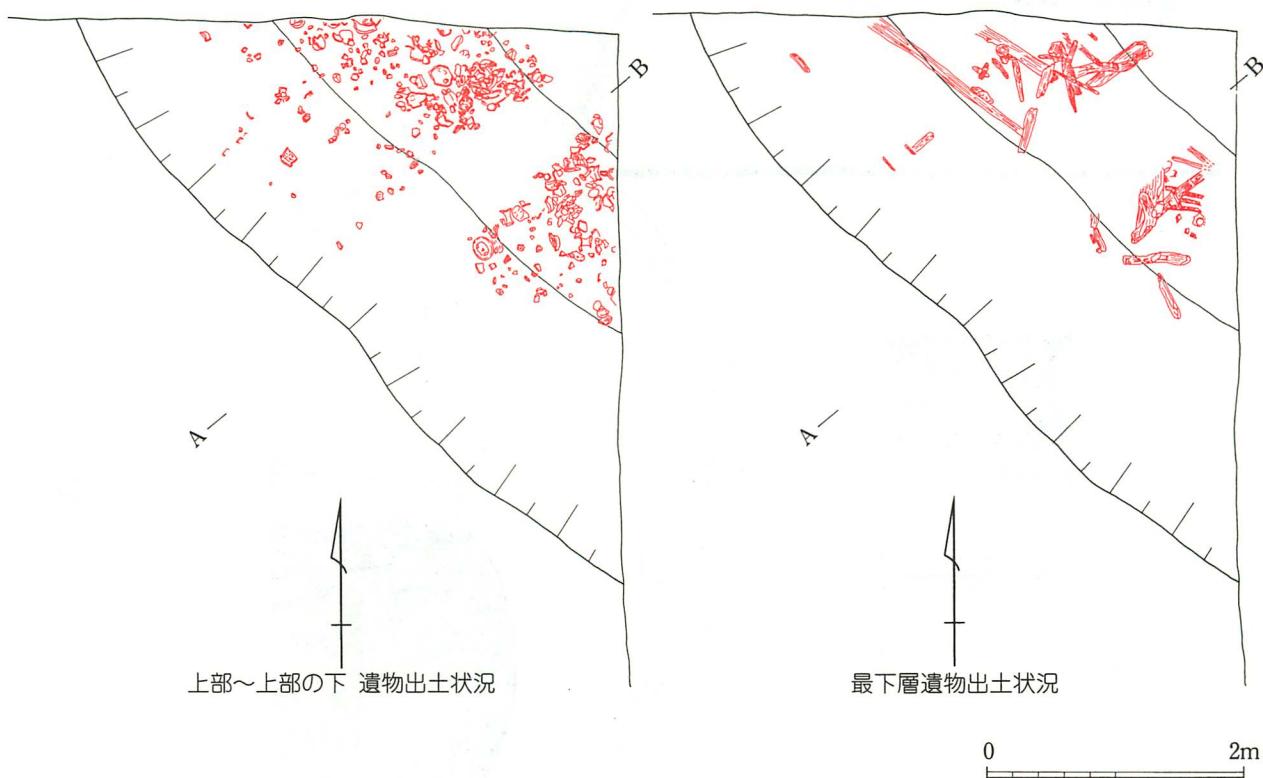
調査区の北東隅部分A・B—1区にあたる。大部分は調査区域外にあたり、この溝状遺構の南西岸部分のみの検出となった。検出部分について、遺構上端での幅3.1mを測り、検出面からの深さ0.8~0.9mを測る。本溝は、石川県埋蔵文化財センターが昭和55年に発掘調査を行ったI調査区から検出されたI—3号溝の延長であると考えられる。S D 01の断面図を作成した時点での溝底の標高は0.38mを測り、この地点より西側の最深部分で0.28mを測っていることから北西に向かって流れていたものと考えられる。

土層断面（第8図）と、遺物取り上げ位置（上部、上部の下、下部）の関係は、上部が3~6層、上部の下が7~9層を対応させている。また下部とは12層以下をさしている。14層以下から植物遺体が混入しはじめ、以下の層には、黒色粘質土中に地山質砂が層状に堆積しているものが多い。

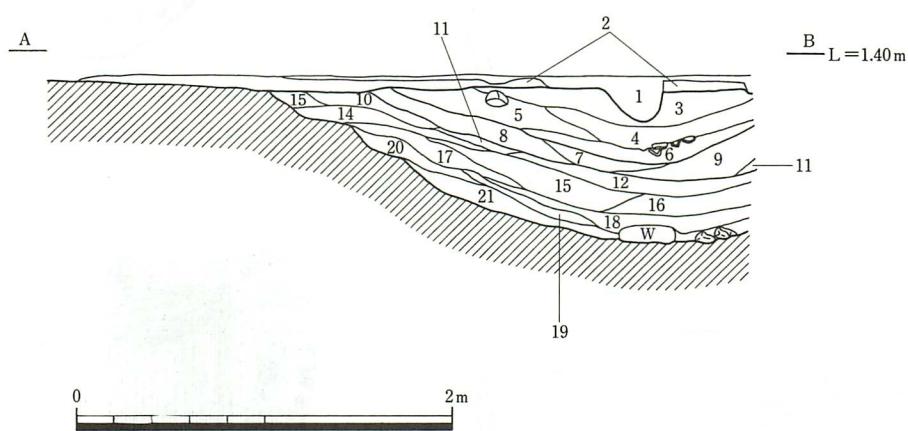
出土遺物の大部分を示める土器は、遺物整理箱20箱以上に達している。図化資料も200点を超え、全体の図化資料中の90%を占めている。土器の掲載順序は、現地での取り上げ位置（上部、上部の下、下部）別とし、最後に記録漏れや、取り上げを一括して行ったため上下の別がはっきりしなくなった出土地点不明分をまとめて掲載した。この図化掲載資料中、位置別の出土量は、上部が約33%、上部の下が約21%、下部が約10%、その他が36%をそれぞれ占めている。調査区中の湧水が激しかったため、調査区壁面下に掘った排水溝部分から一括して取り上げを行ったため、その他の部分出土の割合が高くなってしまったが、取り上げ時の観察によれば、その他とした出土遺物の大部分も、上部の下を含めた上部からの出土であり、全体の80%以上は上部からの出土であると言える。以下に取上位置別に、土器についてのべて行く。



第6図 土層断面・調査区全体図 (S=1/60)

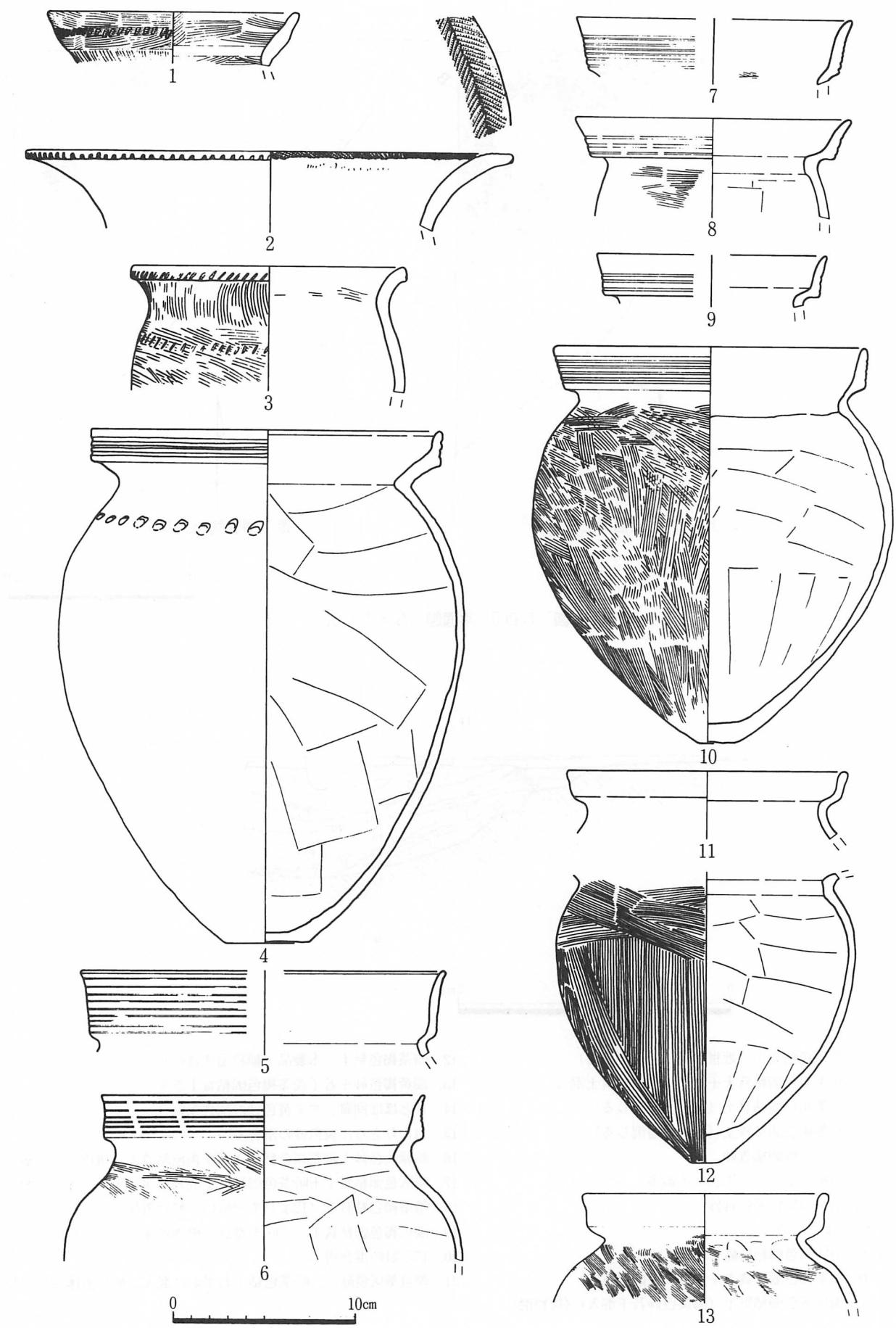


第7図 SD 01 平面図 (S=1/60)

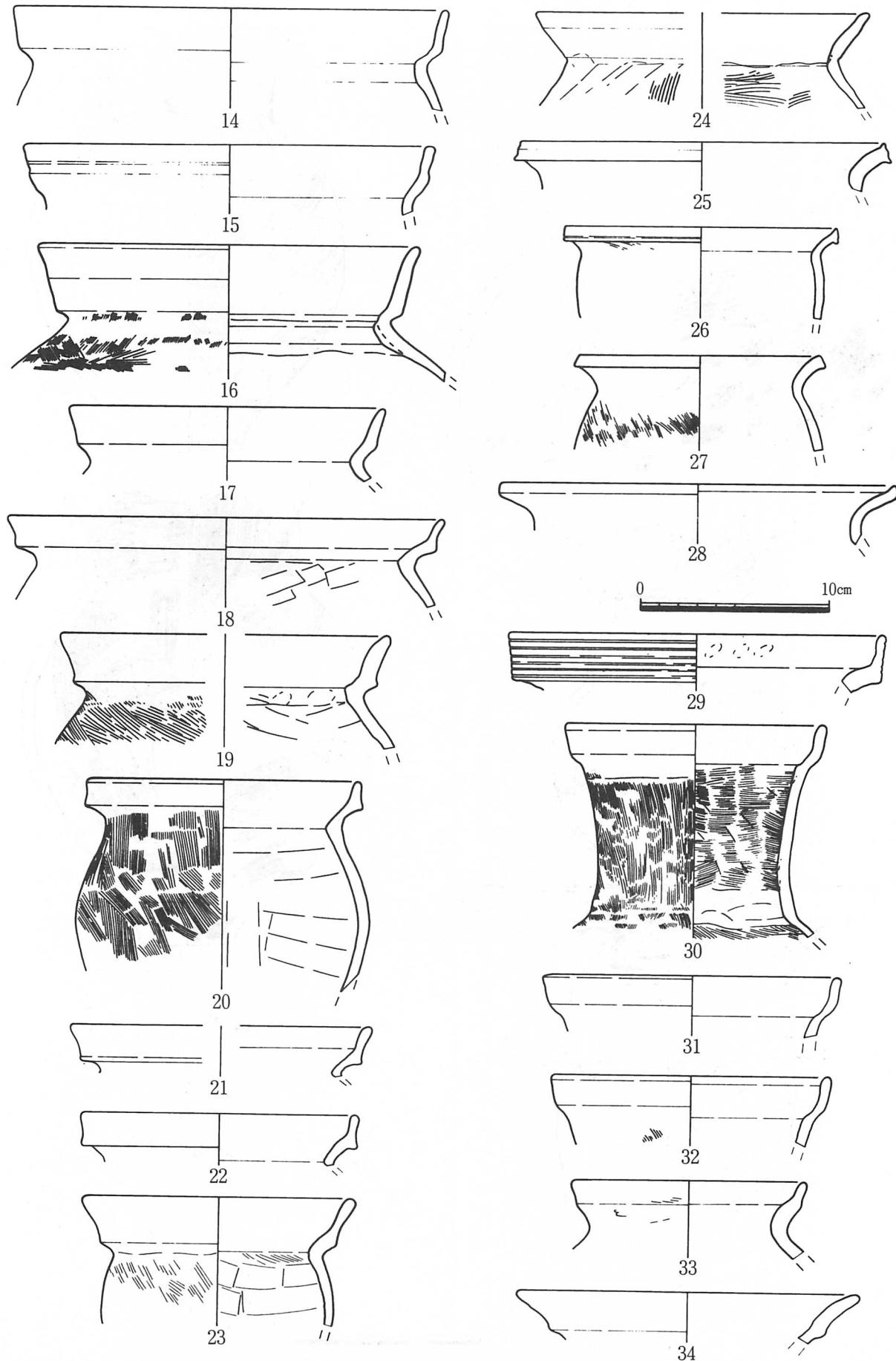


1. 濁灰色粘質土（近世以降の耕土攪乱層）  
 2. 暗茶褐色弱粘質土+濁茶灰色弱粘質土混入  
 3. 濁茶褐色弱粘質土（炭・土器混じる）  
 4. 暗茶褐色弱粘質土（炭・土器混じる）  
 5. 暗黃茶色弱粘質砂  
 6. 黒褐色粘質土（炭混・土器多）  
 7. 暗黃茶褐色弱粘質砂  
 8. 5より暗い  
 9. 暗灰黑色弱粘質砂  
 10. 濁茶褐色弱粘質土+濁黃褐色砂混合層  
 11. 濁黒灰色弱粘質土（濁黃色砂若干混入）（炭粒混）  
 12. 暗茶褐色粘土（木製品・植物遺体含む）  
 13. 濁黃褐色砂+若干濁茶褐色弱粘質土混入  
 14. 10とほぼ同質、やや黄色砂の割合多い  
 15. 14よりさらに黄色砂の割合多い  
 16. 暗緑灰色砂+暗茶褐色粘土+濁黒褐色粘質土（斑点）混合層  
 17. 暗灰色弱粘質土+暗茶色弱粘質土混入（炭粒多く、木片含む）  
 18. 暗茶褐色粘質土（12よりやや暗い、植物遺体含む）  
 19. 濁灰褐色弱粘質土（赤味を帯び、植物遺体多く含む）  
 20. 17と21の混合層  
 21. 濁黃茶灰色砂に、暗茶色粘土わずかに混入（植物遺体多く含む）

第8図 SD 01 断面図 (1/40)

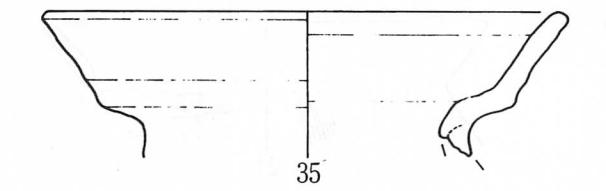


第9図 SD 01 上部 出出土器実測図1 (1/3)

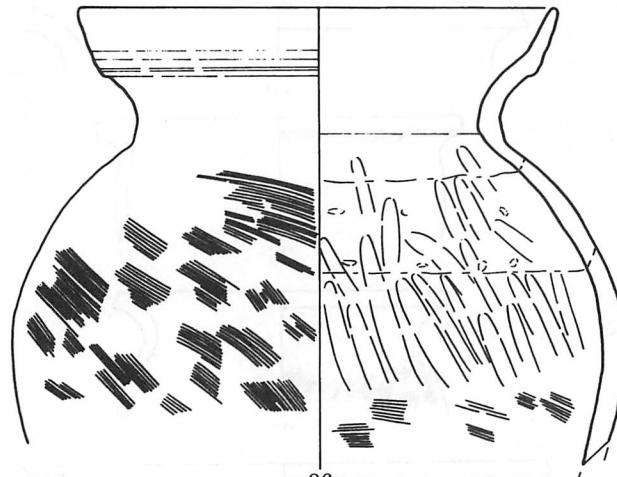


第10図 SD 01 上部 出土土器実測図 2 (1/3)

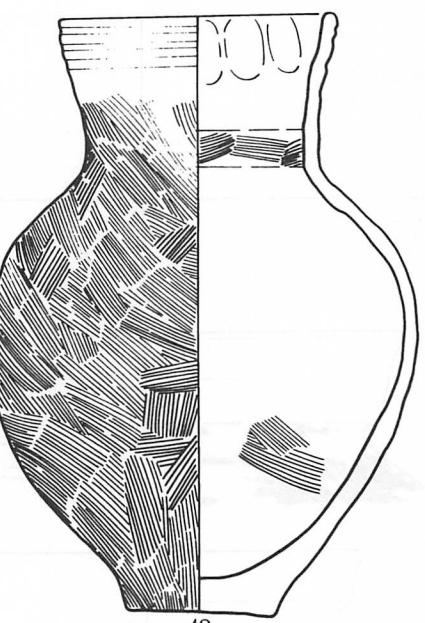
20



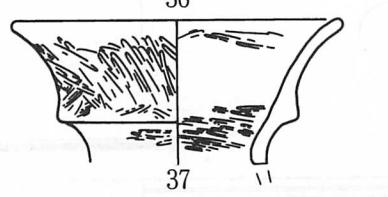
35



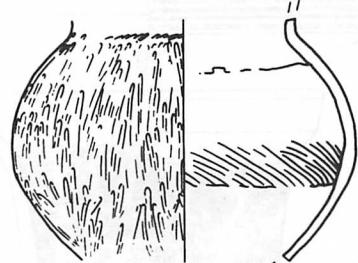
36



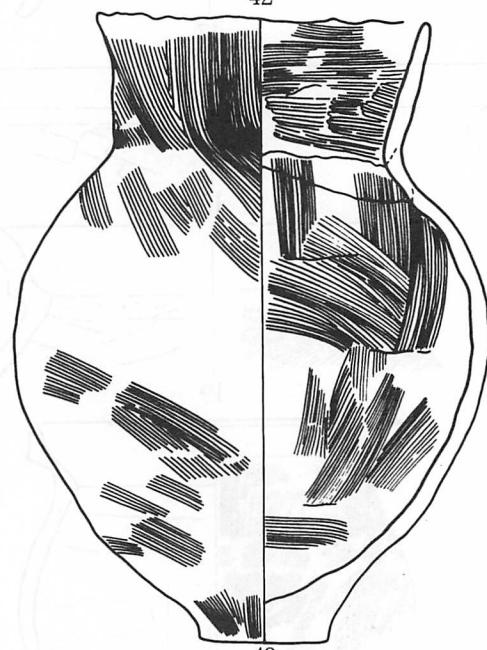
42



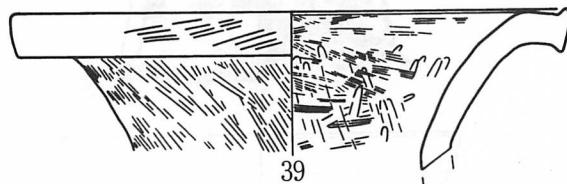
37



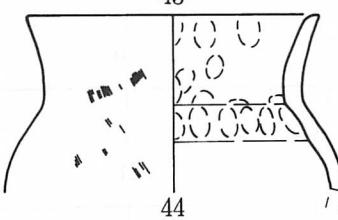
38



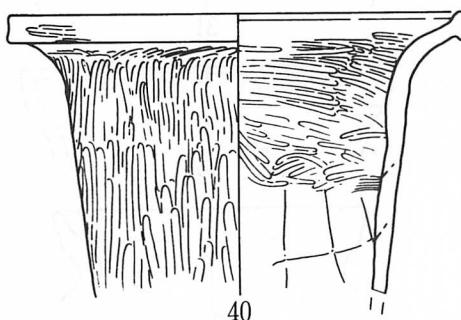
43



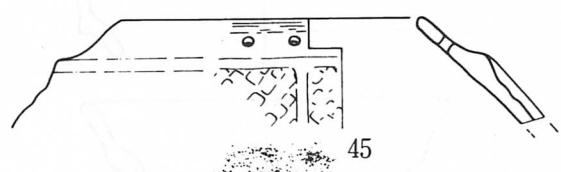
39



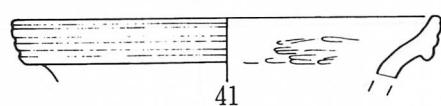
44



40



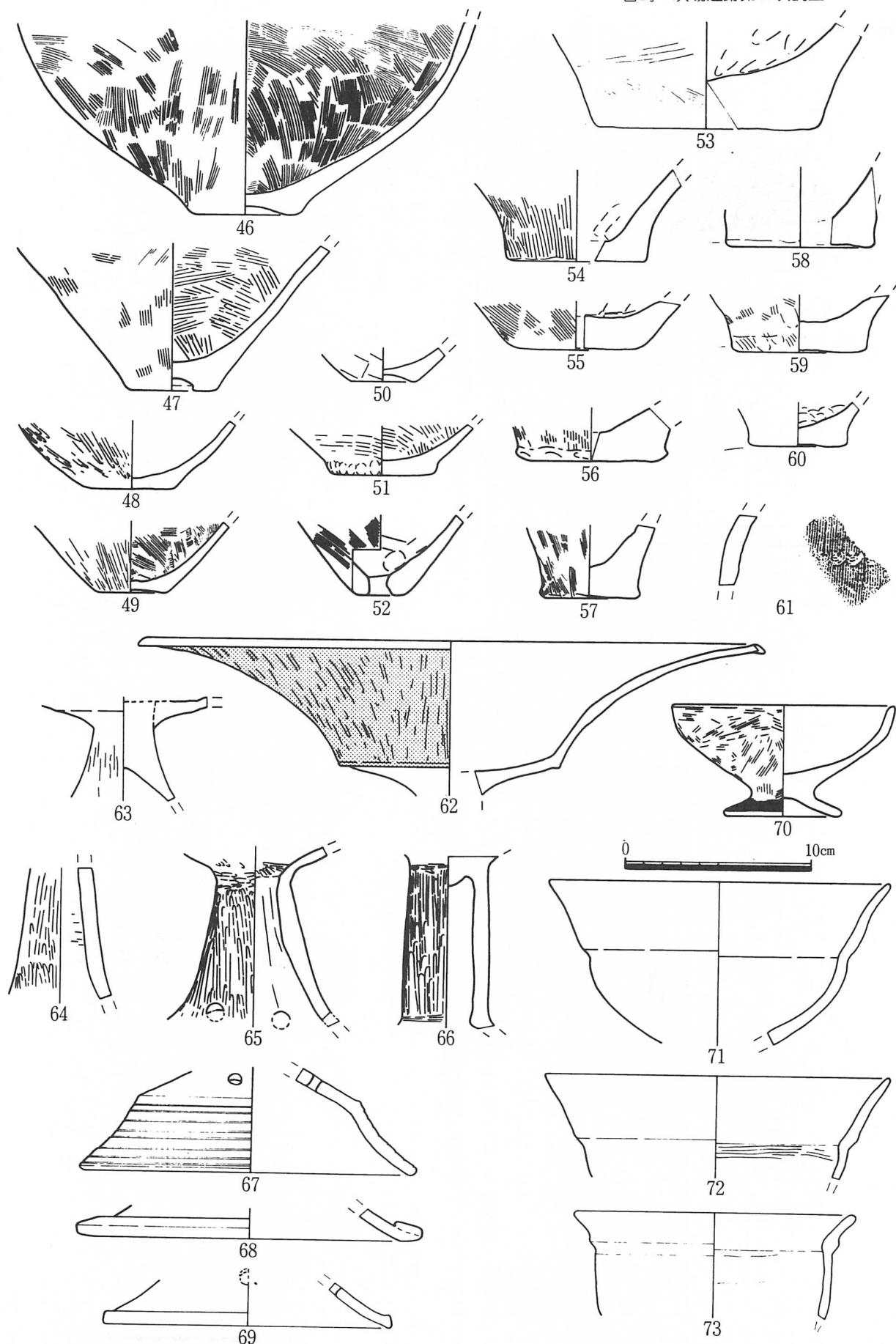
45



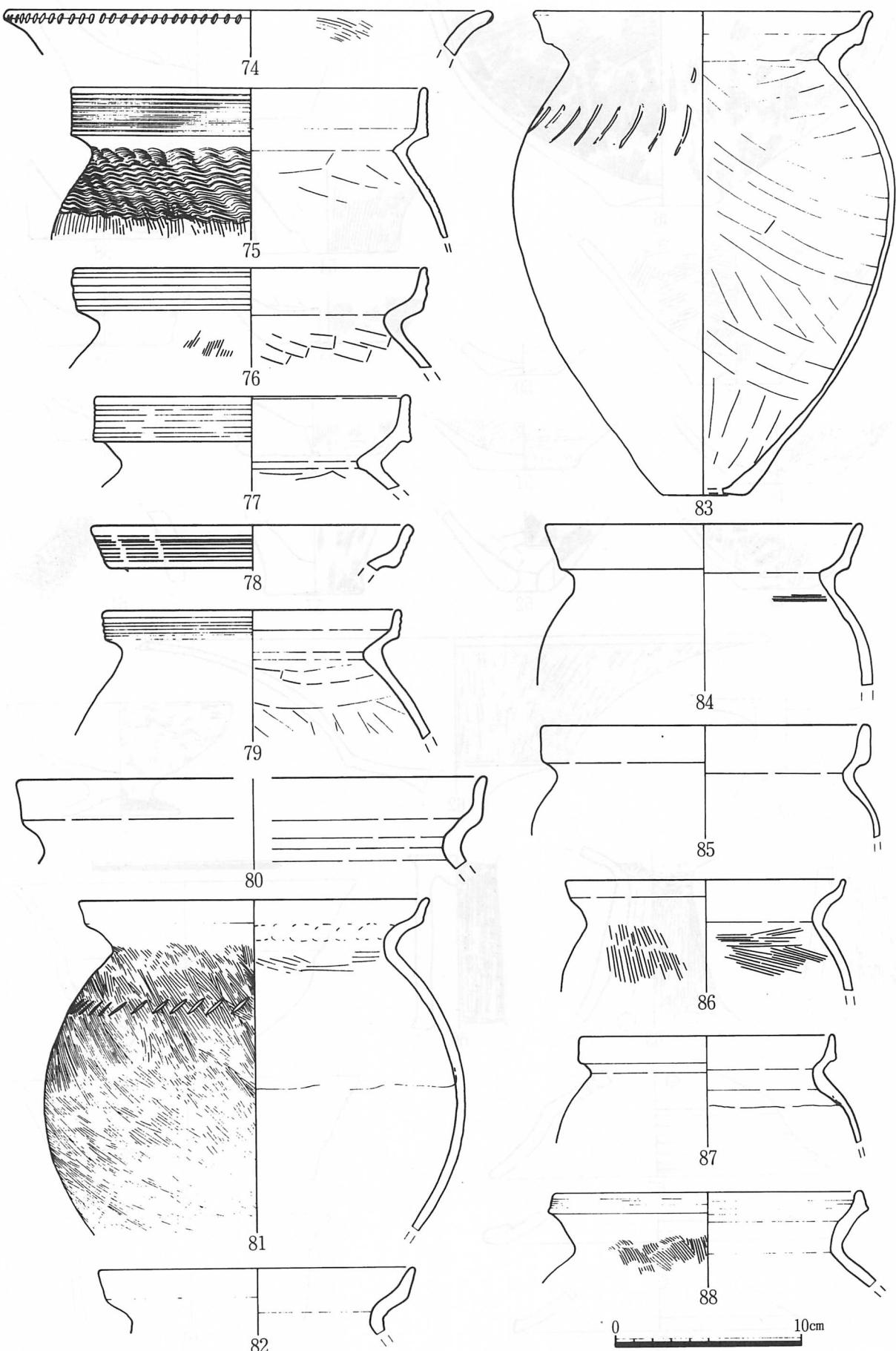
41



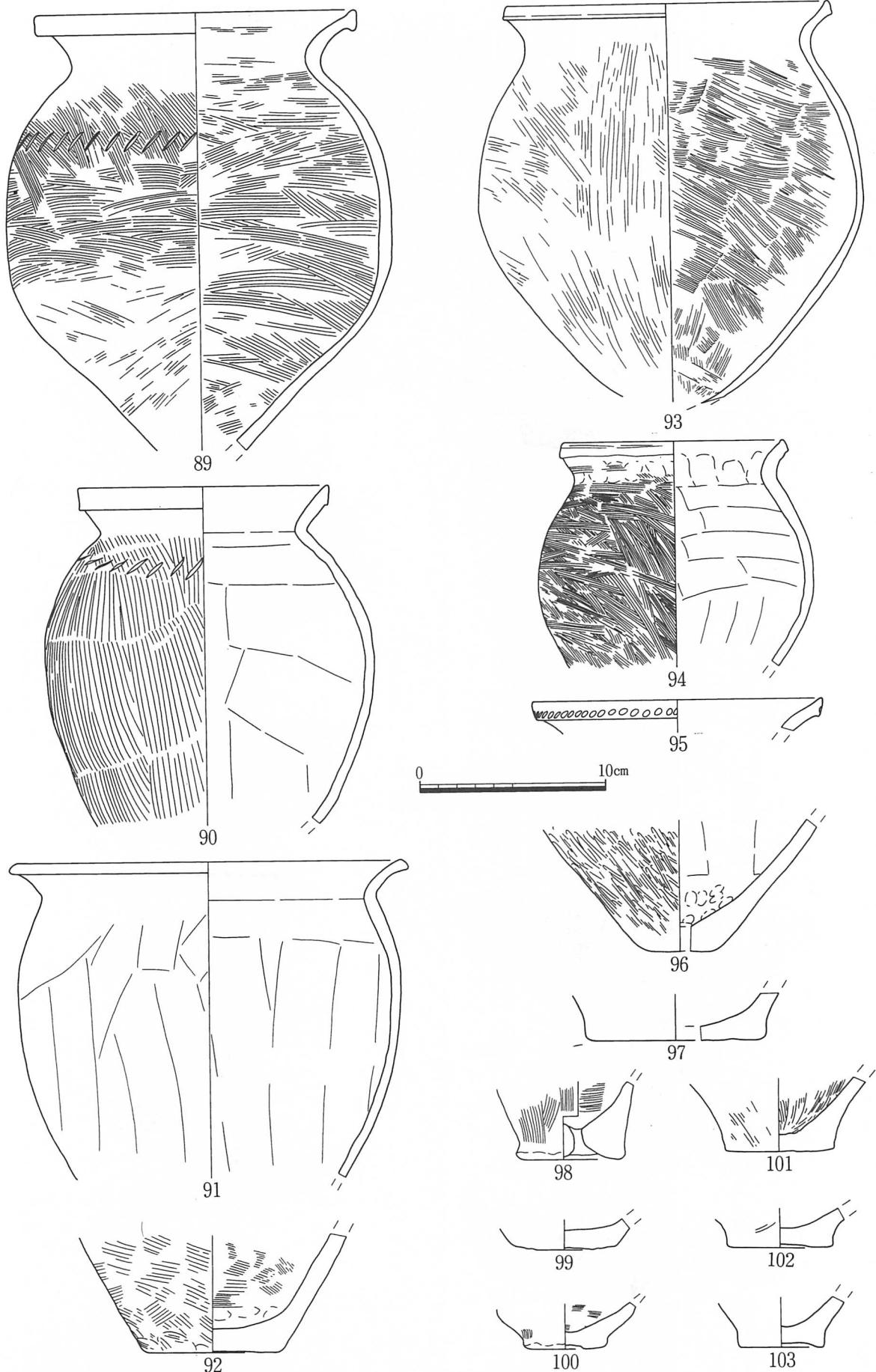
第11図 SD01 上部 出土土器実測図3 (1/3)



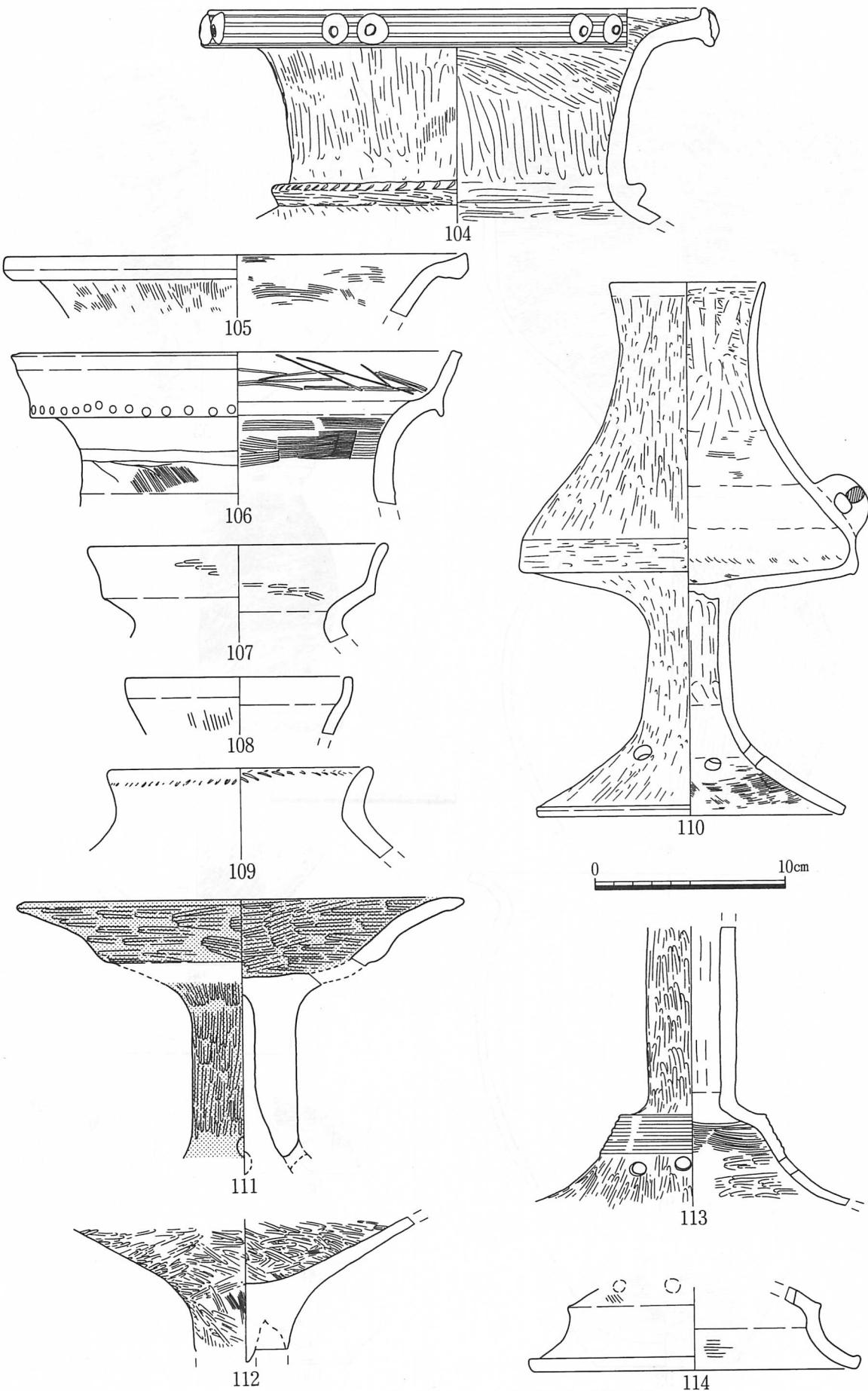
第12図 SD 01 上部 出土土器実測図 4 (1/3)



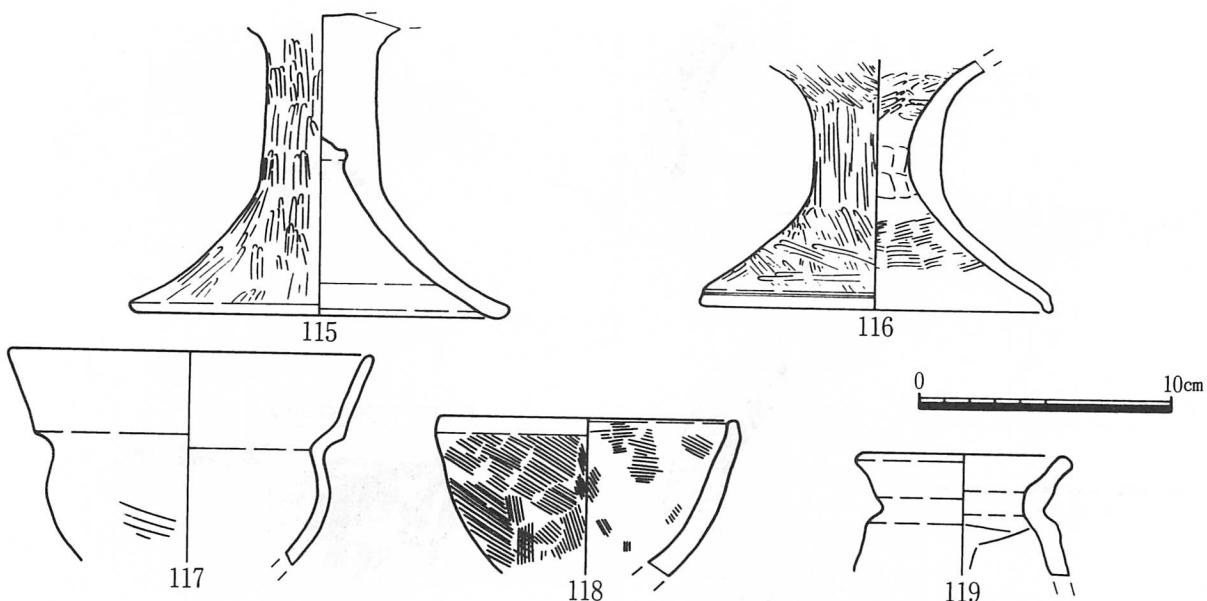
第13図 SD 01 上部の下 出土土器実測図 1 (1 / 3)



第14図 SD 01 上部の下 出土土器実測図 2 (1 / 3)



第15図 SD 01 上部の下 出土土器実測図 3 (1/3)



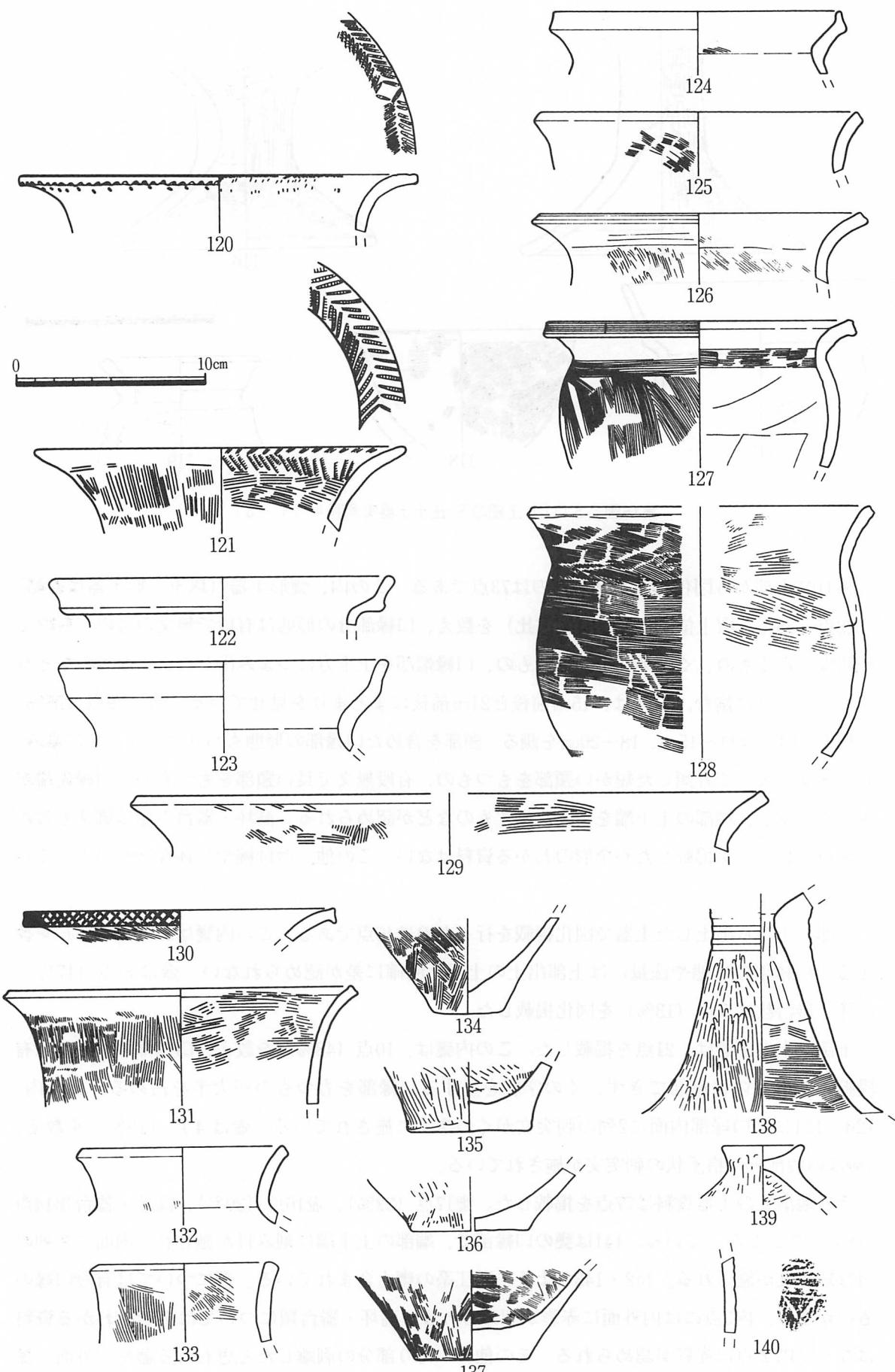
第16図 SD 01 上部の下 出土土器実測図 4 (1/3)

SD 01上部から図化掲載を行ったのは73点である。この内、甕形土器（以下：形土器は省略）は28点（38%：取上位置別による構成比）を数え、口縁部分の形態は有段で無文のもの、有段で擬凹線の巡るもの、くの字状を呈するもの、口縁端部を上下方につまみ出したようなものなどバリエーションに富む。口径は、15cm前後と21cm前後にまとまりを見せてている。壺は19点（26%）を数え、口径は11~15cm、18~20cmを測る。頸部を含めた口縁部の形態もバリエーションに富み、有台無文で大きく外傾した短かい頸部をもつもの、有段無文で長い頸部をもつもの、口縁先端が大きく外反し、端部の上下端をつまみ出すものなどが認められる。高壺・器台の類は脚部も含めて8点（11%）を掲載したが全形のわかる資料はない。この他、台付椀や、鉢などが出土している。

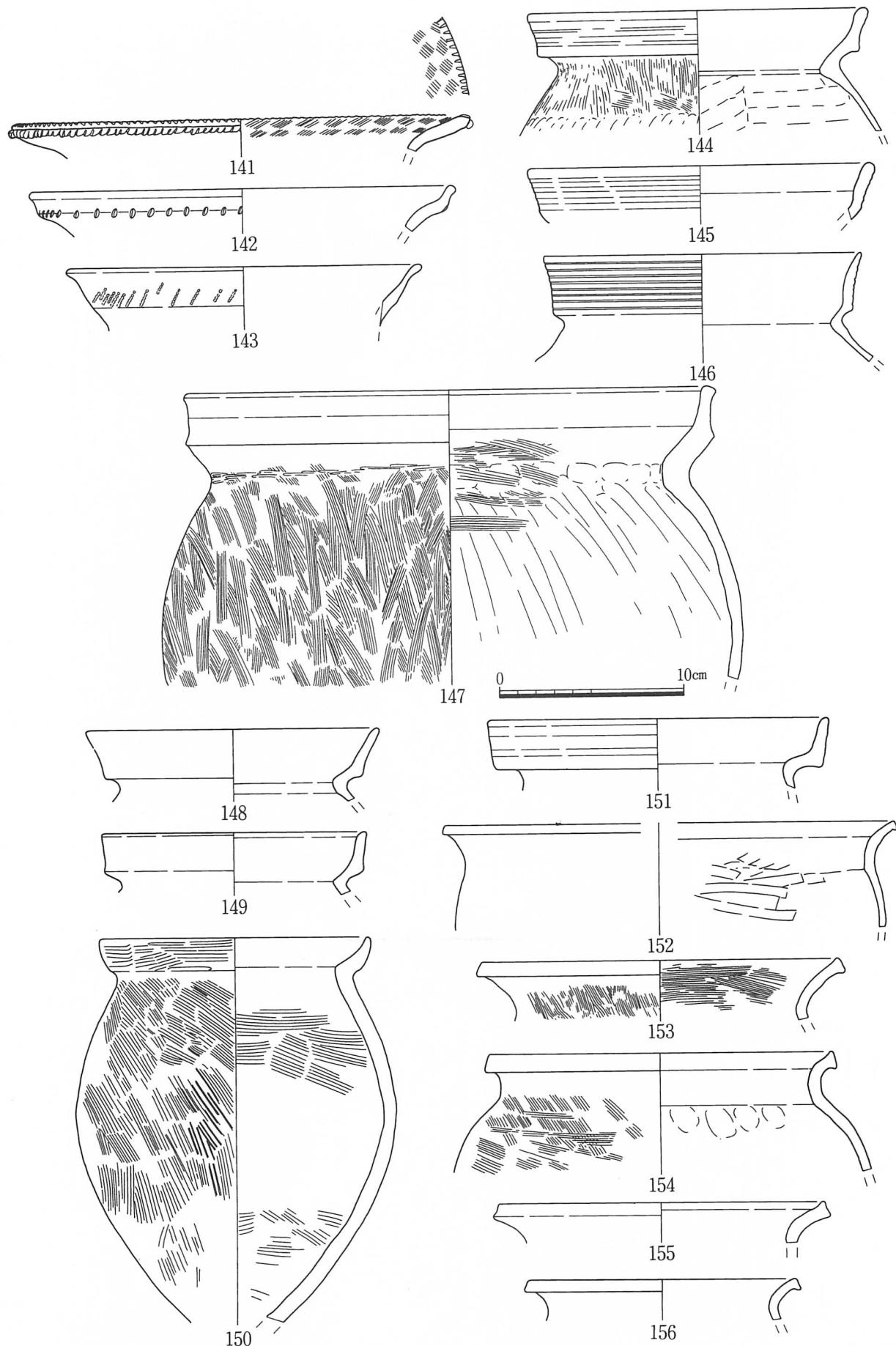
上部の下から出土した土器で図化掲載を行ったのは46点である。この内甕は22点（48%）を数える。口縁部の形態や法量には上部出土の土器と明確に差が認められない。壺は8点（17%）、高壺・器台数は6点（13%）を図化掲載した。

下部出土の土器は、21点を掲載した。この内甕は、10点（48%）を数え、口縁部の形態では有段擬凹線のものは確認できず、くの字状を呈する口縁部をもつものが大半を占める。この内、120・121には口縁部内面に2列の刺突文がくの字状に施されている。壺は4点（19%）を数え、130は口唇部分に格子状の刺突文が施されている。

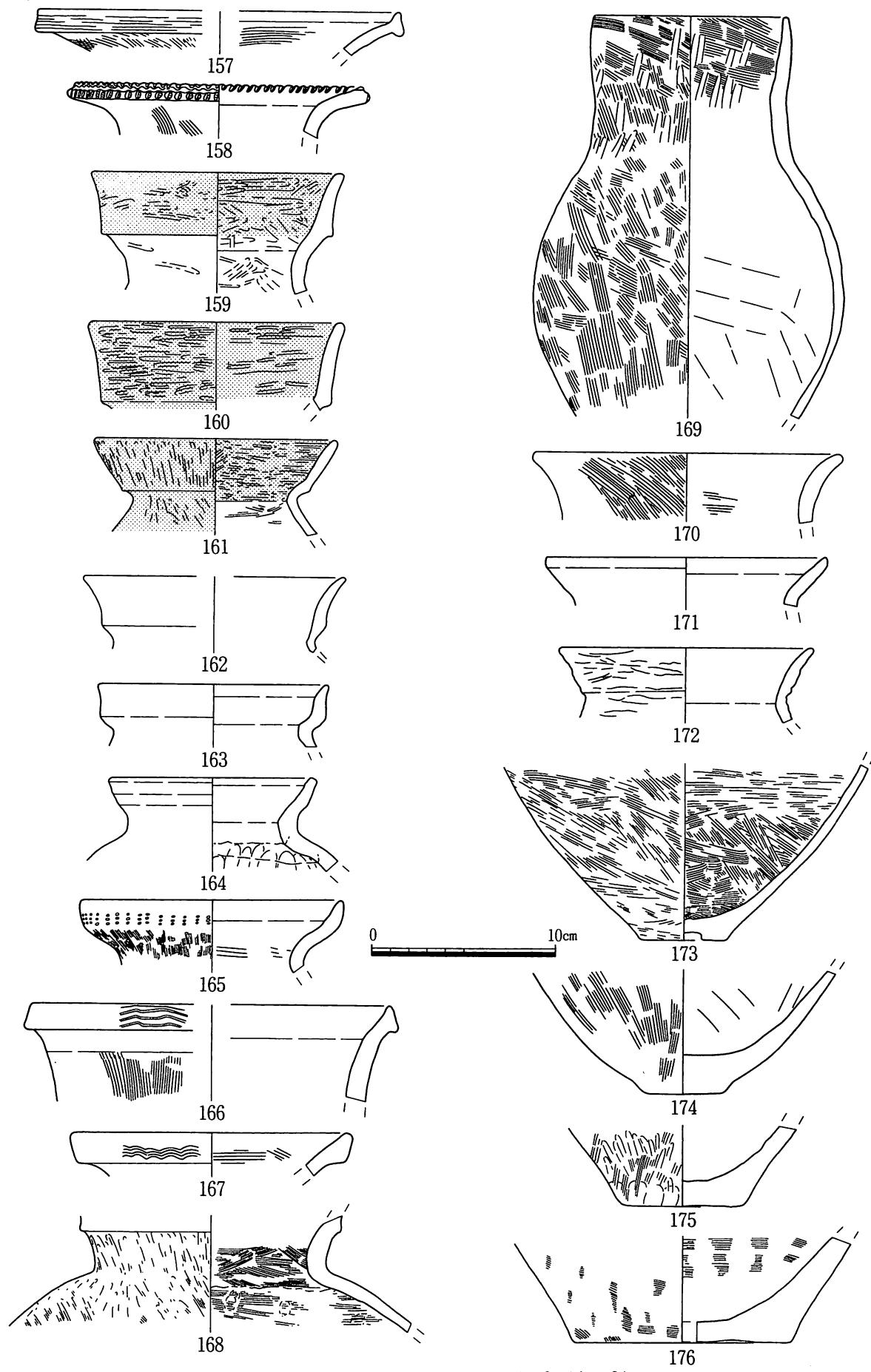
その他出土の土器資料は77点を掲載した。甕17点（22%）、壺16点（20%）、高壺・器台類14点（18%）などとなっている。141は甕の口縁部で、端部の上下端に刻み目が施され、内面に2列の斜行短線文が施される。142・143のように近江系の甕も含まれている。壺については有段口縁のものが多く、内3点には内外面に赤彩が認められる。高壺・器台類については全形のわかる資料はなく、内2点に赤彩が認められる。その他、かえり部分の剥離したと思われる蓋や、外面に煤の付着した小型土器などが出土している。



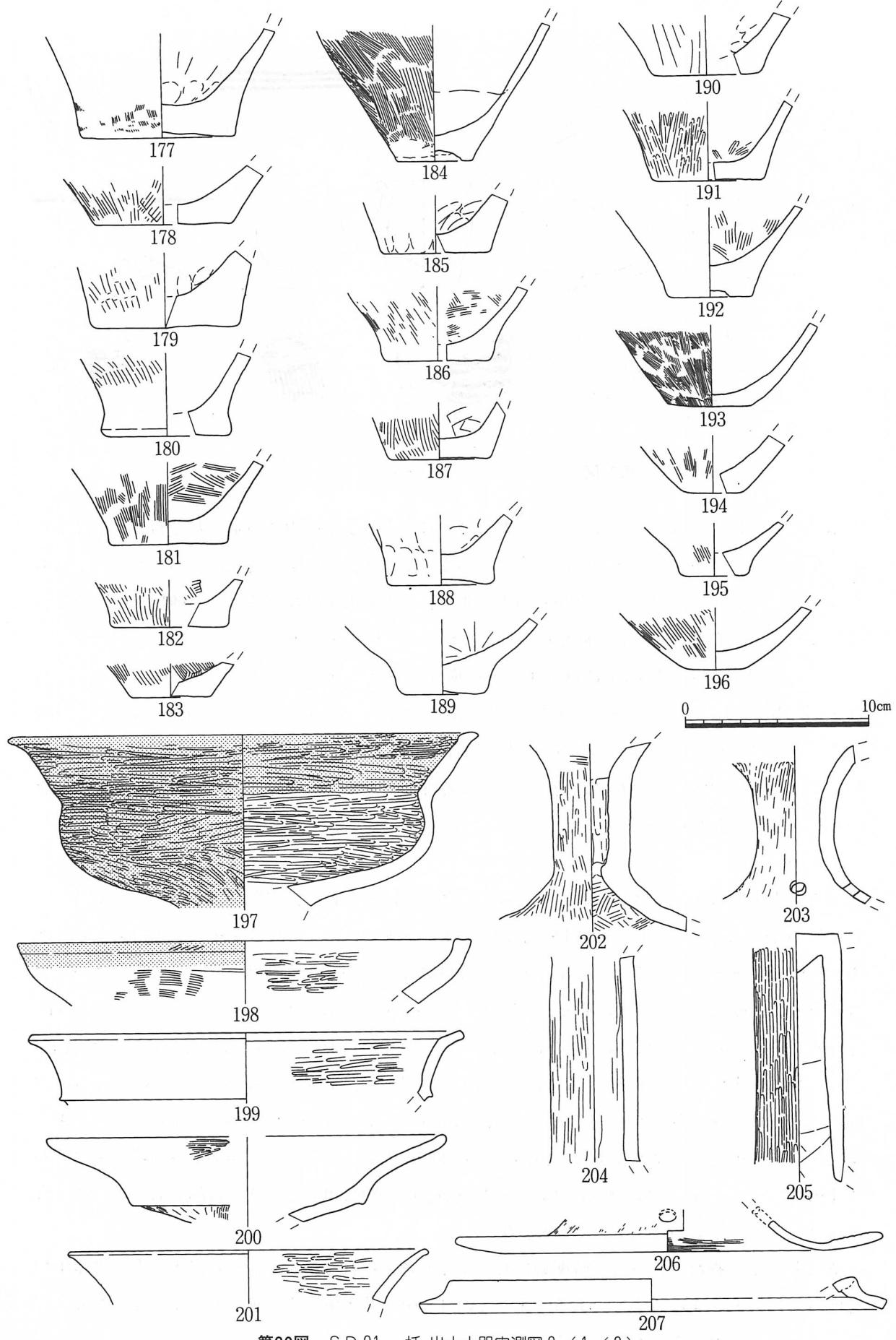
第17図 SD 01 下部 出土土器実測図 (1/3)



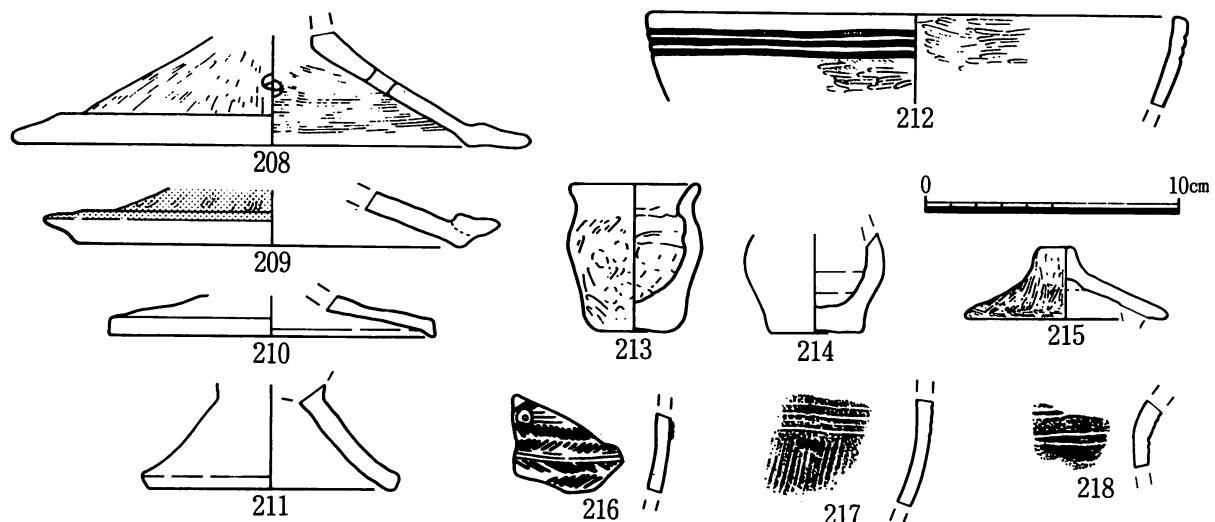
第18図 SD 01 一括 出土土器実測図1 (1/3)



第19図 SD 01 一括 出土土器実測図 2 (1 / 3)



第20図 SD 01 一括 出土土器実測図 3 (1/3)



第21図 SD 01 一括 出土土器実測図 4 (1/3)

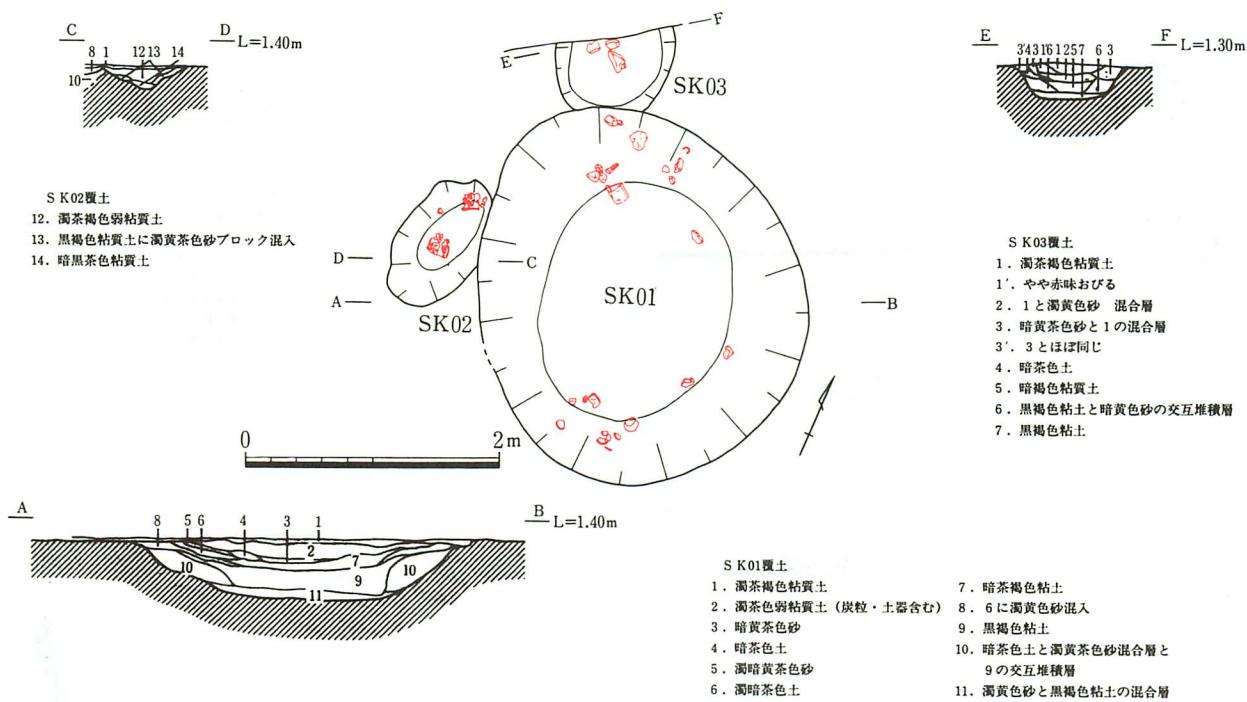
本溝は、面積的には大きくないが、上部には多量の土器が集中的に遺棄されており、下部からも建築部材や自然木などの木製品が出土している。また後述するが石製品についても、大型蛤刃石斧をはじめ、柱状片刃石斧、磨製石包丁、叩き石、管玉未製品など数多くの種類が出土している。また溝の底面部と、断面観察用の畦の18層中から炭化米が出土している。

ここでSD 01出土土器図化資料全体の器種構成比を見てみると、甕：35%、壺：21.6%、高壺・器台類：8.7%、鉢：2.8%、蓋1.3%、底部片22.5%、脚部片5%、小型土器1.3%、その他1.8%という割合になる。甕・壺・高壺数の割合が低いものになっているのは、底部・脚部片についてそれぞれ分類を行なわず、別項目として処理したためで、実際は他の報告例と、大差のない値になると思われる。

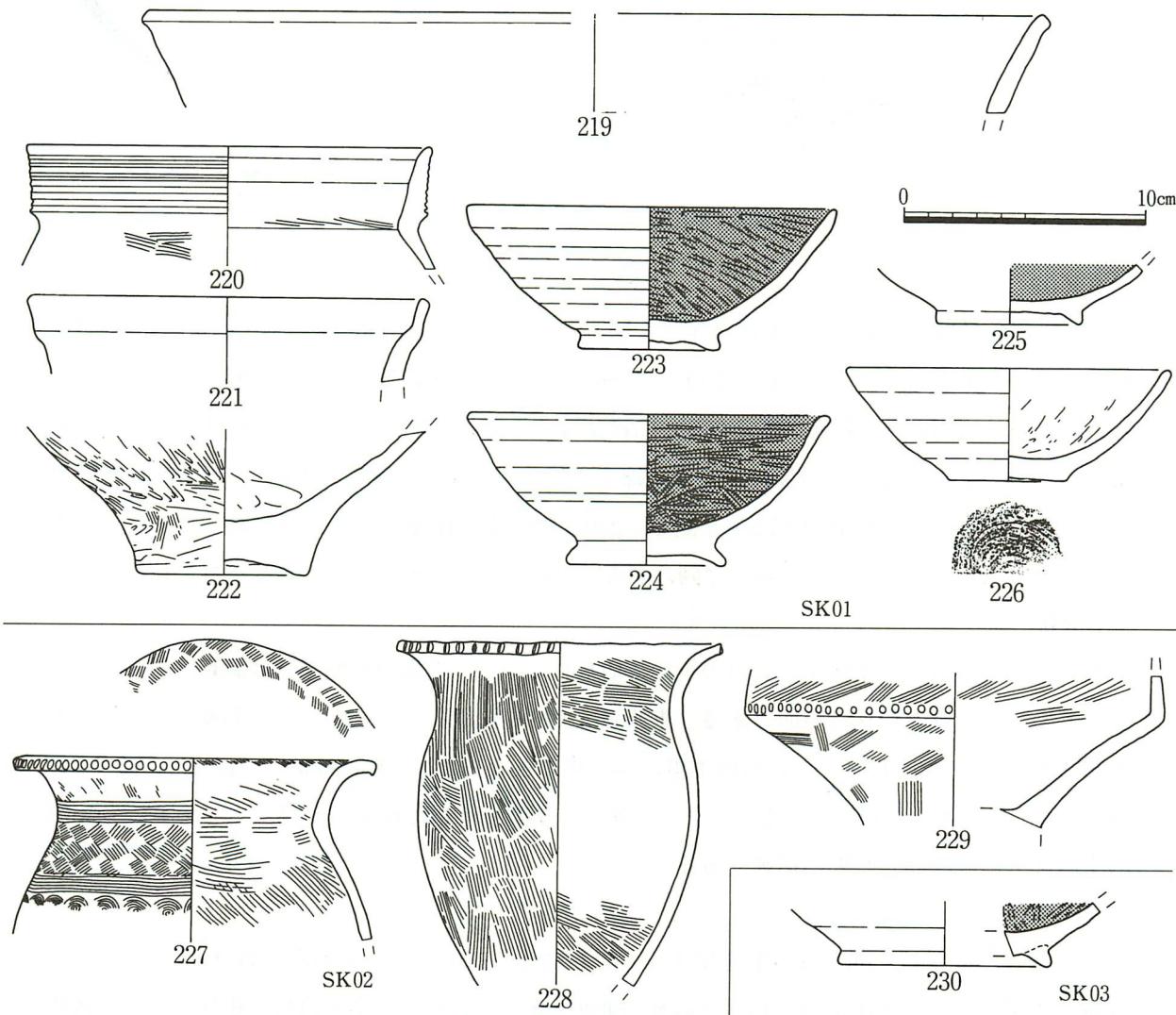
### SK 01

調査区中央部のA—2区に位置しており、南北方向にやや長い楕円形を呈している。上端での長径は3.0m、短径が2.6m、深さは検出面から0.5mを測る。10・11層は9層の黒褐色粘土層と地山質砂の交互堆積となっている。土器の図化資料は8点のみで、その出土位置は大きく2つに別れられる。9層以下の底に近い部分から出土しているのが、219～222である。220は、口径17.0cmを測り、有段の口縁部分に擬凹線が巡っている。また221は有段口縁の壺片である。また223～226はほぼ4層から上の部分からの出土であり、いずれも、土師質の椀である。4点中3点は内面に黒色処理を施された有台椀であり、口径15cm前後、底径6～6.7cmを測り、器高も6cm前後でまとまりをみせているようである。台部はやや外側に広がり、内湾した体部から口縁部分はそのままのびている。また226は無台の椀で、口径約13cm、底径5.0cmを測り、底部裏面には糸切り痕が確認できる。下層から出土している弥生

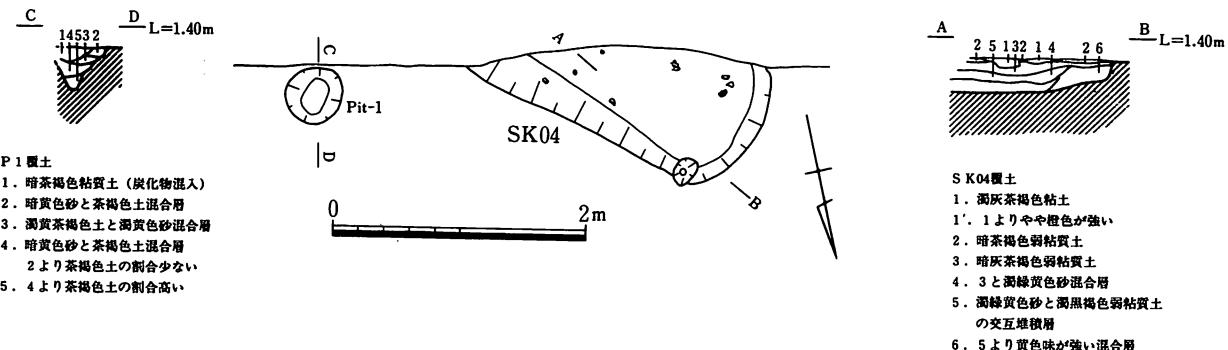
土器に関しては概ね、SD 01の時期幅におさまると考えられるが、上層から出土した土師器椀類は明らかに時期の異なるものである。またこのSK 01の覆土中から土錐が6点出土しており、その内5点は上層中からのものである。



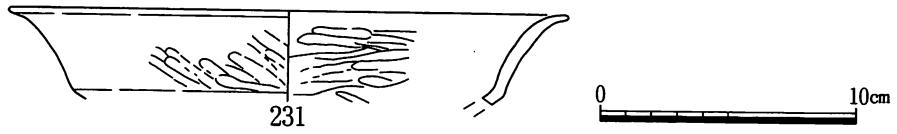
第22図 SK01・02・03 平面・断面図 (1/60)



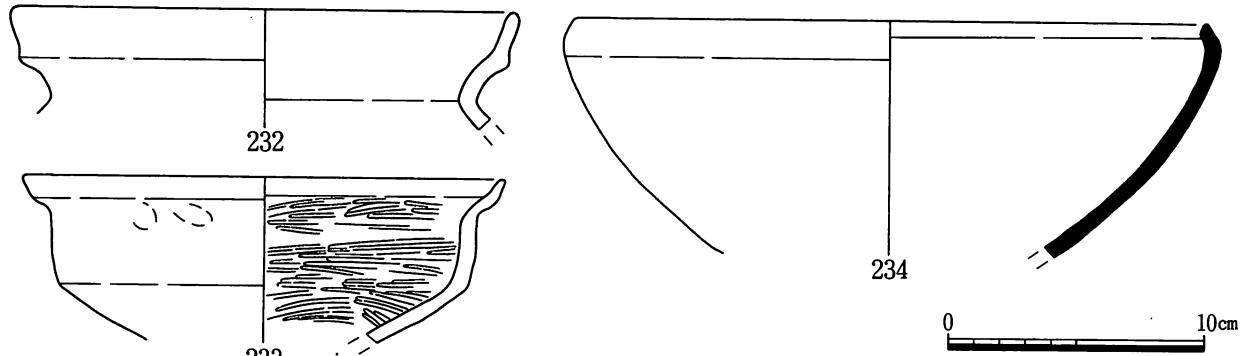
第23図 SK01・02・03 出土土器実測図 (1/3)



第24図 SK 04・P 1 平面・断面図 (1/60)



第25図 SK 04 出土土器実測図 (1/3)



第26図 その他の出土土器実測図 (1/3)

### S K 02

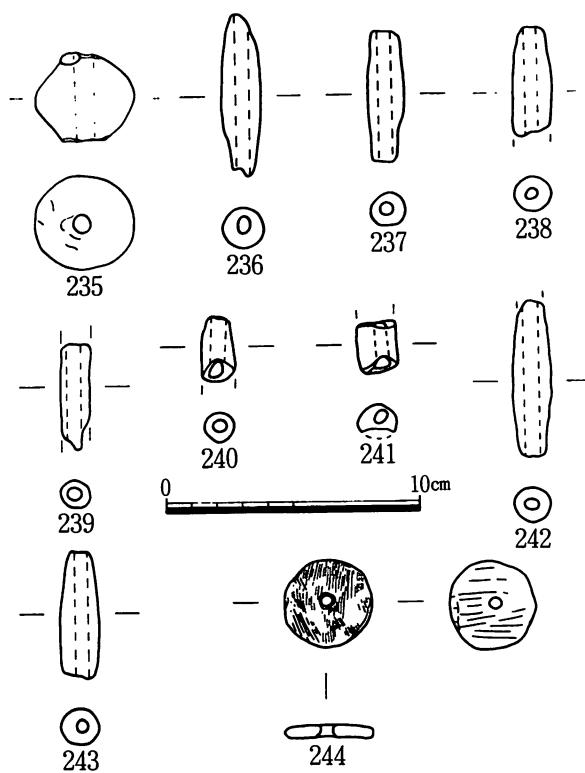
A—3区に位置し、東側をS K 01の上端に切られている。東西方向に長い楕円形を呈しており、長径1.1m、短径0.7mを測り、深さは0.16mを測る。3点を図化掲載したが、全形のわかる資料はない。227は、口径15cmを測る甕である。口縁部はくの字状を呈し、端部がやや外反する。口唇部分には竹管文が施され、肩部には斜行短線文や扇状文が確認できる。228はくの字状口縁の端部に刻み目が施され、口径は13.5cmを測る。229は脚付壺の体部であると思われ、竹管文が施される。出土遺物からみて、本遺構は今回の調査区の中では最も古いものであるとおもわれる。

### S K 03

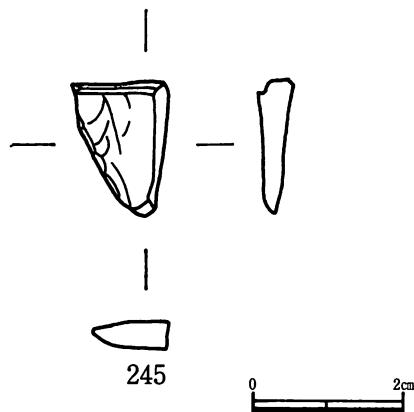
A—2区に位置し、南側をS K 01の上端に切られている。遺構の北側半分は調査区域外となっているので、正確な形状は不明である。東西径は0.96mを測り、深さは0.3mを測る。土器はあまり含まれておらず、土師器の有台椀1点のみの掲載となった。230は内面に黒色処理がなされ、底径は8.6cmを測る。またこの他、熱を受け外面に煤の付着した礫などが出土している。S K 01の上層部分とほぼ同じ時期の遺構である。

### S K 04

B—3区に位置し、隅丸長方形を呈すると思われるが、南側部分が調査区域外となっており、詳細は不明である。検出部分での深さは検出面から0.25mを測る。出土遺物は細片が多く、図化



第27図 土製品実測図 (1/3)



第28図 SD 01出土玉未製品実測図 (1/1)

### 土製品・石製品

土製品は土錐9点と、紡錘車が1点出土している。

#### 土錐 (235~243)

土錐を出土地点ごとに見てみると、SD 01から1点、SK 01から6点、SX 01から2点という内訳になる。形状については、管状の両端がやや細くなっている紡錘形のものが8点と大部分を占め、球状で珠算玉形のものが1点である。SD 01からはこの球状の235が上部から出土している。孔の両端部は一部欠損しているが未調整であり、ほぼ完形のものである。またSK 01からは6点が出土しており、それらの出土位置については、断面観察用の畦の9層から出土した238を

できたのは口径22cmを測る高坏 (231) 1点のみである。

#### その他の遺構

##### S X 01

調査区の西端A—3区に位置する。東西方向に長いいびつな楕円形を呈するようであるが、西側部分が調査区域外となっているため不明である。南北径が2mを測るが、深さはわずか6cm程である。遺構覆土は暗茶灰色を呈し、第8図における第2層よりやや暗い。土器細片が出土したが、図化可能な口頸・底部は含まれていない。土錐が2点出土している。

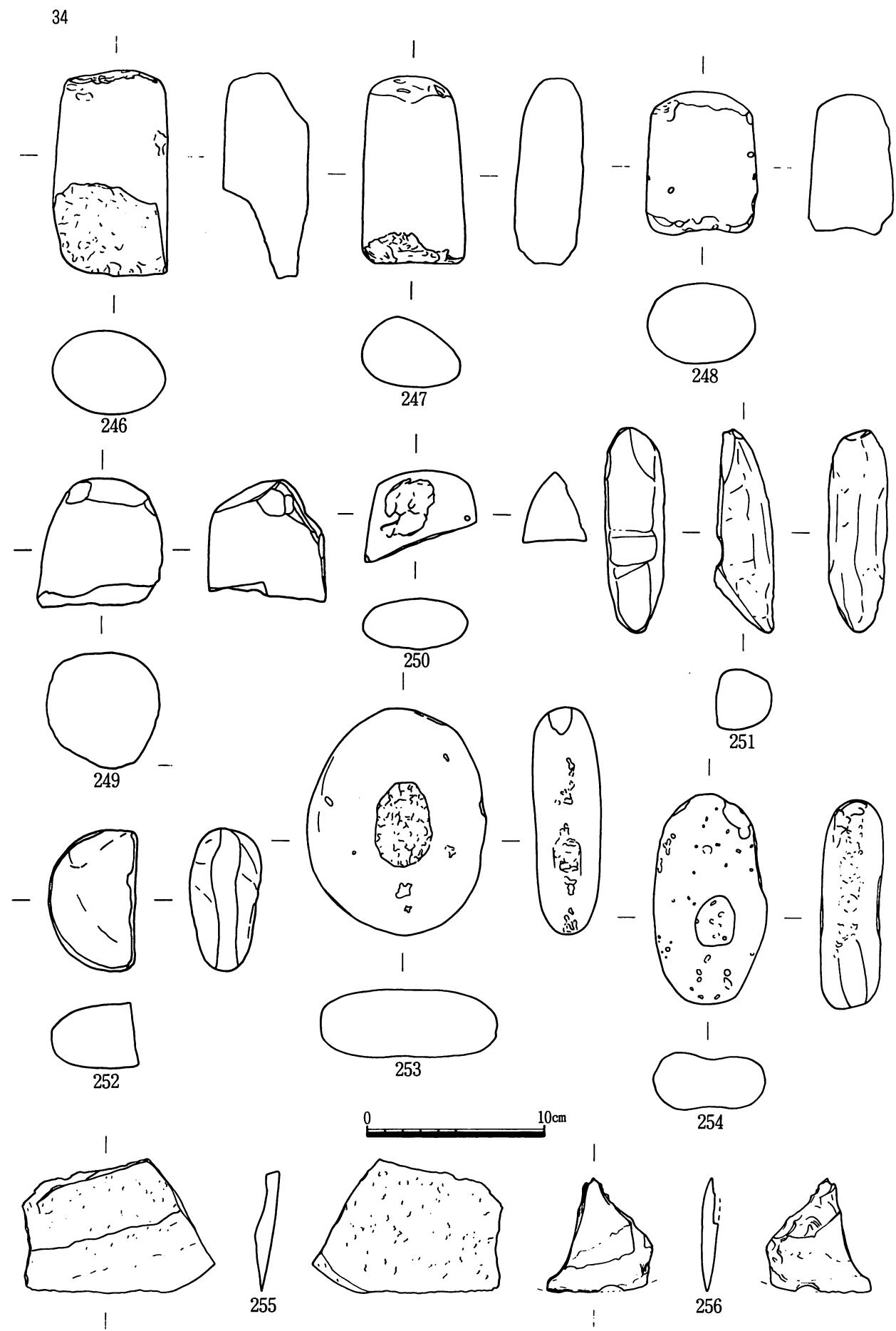
##### Pit—1

B—3区に位置する。遺構の南側半分を排水溝によって切られたため、全形は不明であるが、径46cm、深さ28cmで円形を呈するものと思われる。土器細片が出土したが、図化可能な資料は含まれていない。

##### S D 02

A・B 3区に位置し、南北方向にのびている。幅28cm程で、深さは5cm程と浅いものであった。覆土は濁灰色粘土の単層で、出土遺物もない。遺構覆土から、近代以降のものであると判断しておく。

その他、小穴が数基検出されたが、いずれも浅く遺構覆土などから見て近代のものと判断し、図化掲載は行っていない。



第29図 SD 01 出土 石製品実測図 (1/3)

除いては全て上層からの出土である。237は全形のわかる資料で体部長が径の3.6倍と細長く、孔両端部には調整による平坦面が確認できる。これを含めて、S K01から出土した6点のうち孔端部は半数の6ヶ所が残存しており、そのうち4ヶ所には調整による平坦面が確認できる。またS X01から出土した242は、孔両端部が残存しており、そのうちの一方には調整による平坦面が認められ、もう一方は未調整のままで使用痕が残る。今回出土した紡錘形の土錐は径1.5cm前後にまとまりを見せており。

#### 紡錘車（244）

土製紡錘車はS D01の上部から出土しており、土器片を円形に整形して製作されている。直径3.5cm重量7.3gを測り、周縁部はあまり丁寧ではないが研磨されている。穿孔は両側から行なわれており、孔端面が両側とも外に開いている。

石製品については、図化掲載資料はすべてS D01からの出土である。

#### 玉未製品（245）

S D01の上部の下からの出土である。板状剥片の短軸方向の両面に、擦り切り痕が確認できる。この擦り切り痕は残在部で幅、深さともに1mm未満である。全面がおおむね平坦であるが研磨痕は確認できない。

#### 磨製石斧、（246～251）

6点を図化掲載した。刃幅は6～7cmにまとまりを見せると思われるが、全形のわかる資料はない。250は、大型蛤刃で、先端には使用痕が残る。また247と248は先端部分が欠落しているが、敲打によると思われる使用痕が確認でき、2次的な利用がうかがえる。また249は、一部に研磨痕が残るが、未製品のまま、叩き石として使用されたと思われる。251は柱状片刃の未製品であり、全長11.4cmを測り、先端から6cm程の所に幅2cmの台形様の抉りが入っている。この抉りの入っている内面は研磨されており、基底部分は一部欠損している。

#### 叩き石（252、253、254）

253、254は叩き石であり、双方共に周縁部に使用痕が確認できる。254には両面中央に、253には片面中央部に、敲打によると思われる径3cm程の凹みが確認できる。252は珪質岩で、やはり周縁部には使用痕が確認できる。

#### 石包丁（255、256）

255、256は磨製の石包丁である。共に欠損しており、全形はわからない。256は両面共に全形を研磨されており、刃の部分はゆるやかなカーブを描いているようである。255は刃の部分にのみ両面に研磨痕が残っている。256と比べると、刃の部分は直線的である。

図化掲載を行った石製品中、出土位置のわかっているものはすべて上部の下を含む上部からの出土である。

### 第3節. 小 結

通算で第17次を数える今回の発掘調査が行われた調査区域は、面積も小さく、遺構の密度も高くなかったが、この調査区の北東隅からは大溝の一部が検出されており、その中からは多量の遺物が出土している。この大溝は既往の調査では第6次にあたるI調査区で確認されているI-3号溝に直接つながっているものである。今回の調査でこの大溝から出土した土器を見てみると、量比的には多くはないが、口縁部や肩部に斜行短線文の施されているものなどが含まれており、これを根拠として、この大溝が機能していた時期の上限は、弥生時代の中期後半に求めることができる。

また、今回の出土土器の中にも近江系のものや、東日本系の土器がわずかながら混入しており、遠方との交流の一端をうかがい知ることができる。

この大溝より出土した多量の遺物の中には、石製品や炭化米なども含まれている。以前より豊富な石製品の未製品や、原石類が出土することが知られている当遺跡であるが、今回の発掘調査でも磨製石斧の未製品や、管玉の未製品が出土している。また昨年、国史跡指定地内において、吉崎・次場弥生公園が開園し、その開園記念の特別展示が行われた。その特別展示の準備のため、吉崎・次場遺跡において行われた過去の発掘調査により、出土した遺物の整理および再調査を行ったところ、板状鉄斧や、鋳型類の存在が明らかになった。これらのことからも、高い技術をもった工作者集団が存在していたと思われる。

近年の発掘調査により、徐々に当遺跡における集落域の構造が明らかになりつつあるが、今回の発掘調査においても、居住区域を区画している排水施設が確認されたことにより、また少し集落域の構造が明らかになった。今後の調査を通じて、さらなる進展を期待したい。

最後に、これまで簡単に調査の成果を述べてきたが、筆者の勉強不足で、不備な点が多々あることに深く反省している。また、本報告書を作成するにあたって、久田正弘・安 英樹両氏をはじめとする様々な方々に御教授をいただいた。深く感謝する次第である。

#### ＜参考・引用文献＞

- 「吉崎・次場遺跡」 県営ほ場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊（資料編（1））  
第2分冊（資料編（2）） 1987・88 石川県立埋蔵文化財センター
- 「吉崎・次場遺跡」 第13次発掘調査 1994 石川県羽咋市教育委員会
- 「羽咋市内遺跡発掘調査報告」 吉崎・次場遺跡第16次一住宅建設にともなう発掘調査報告書  
1998 石川県羽咋市教育委員会
- 「史跡 吉崎・次場遺跡整備事業報告書」 史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場） 1999  
石川県羽咋市教育委員会

# 第4・5・6表 市内遺跡発掘調査（2000） 吉崎・次場遺跡第17次調査 出土遺物観察表

挿図番号 挿図・写真図版・本文中の遺物番号で通し番号とした。

出土地点 基本的に上段に出土遺構名、下段に取り上げ地點を記入している。

計測値 A：口径、B：頸部径、C：体部最大径、D：底径、E：頸部高、F：体部高、H：器高で土器の形態を示した。A・D・H 以外は特記欄に掲載した。

残存量 口縁部の残存率を24分割で示した。（ ）内の数値は底部の残存を示す。

成形・調整 主として器面内外の調整を口頸部、体部にわけて記入した。

色調 『新版標準土色帳』をもとに以下の5グループに分けた。（ ）内は構成比。

a：赤色系統—赤橙・赤灰色等（9.4%）

b：黄橙色系統—浅黄橙色等（48.2%）

c：黄褐色系統—黄褐・灰褐色（9.4%）

d：黄色系統—灰白・浅黄色（32.5%）

e：灰色系統—暗灰色（0.5%）

胎土 海面骨片、長石、石英粒について、その大きさと量を、裸眼とスコープ（10×）で観察した。大きさは0.5～2.0mmをMとしそれ以上をL、それ以下をSとし、量は全体を主観的に通有量と思われるものを基準（3）に、5：非常に多い、4：多い、2：少ない、1：非常に少ないと表記した。

特記事項 文様、記号などその他の観察事項を記入した。

吉崎・次場遺跡出土土器観察表1

挿図番号	出土地点	器種	計測値			残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・縁の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)	器高(H)		部位	外面/内面			
1	SD01 畦上部	甕	13.6	—	—	2	口頸部ハケ→ナデ/ハケ→ナデ		d	長: 1 3 4 石: - 2 3 海: - - 2	口縁部外面: 刺突文
2	SD01 上部	甕	26.8	—	—	2	口頸部ハケ→ナデ/ナデ		d	長: 1 2 3 石: - 3 2 海: - - 1	口唇端部: 刻み目 口縁部内面: 刺突文2列
3	SD01 上部・西	甕	14.8	—	—	6	口頸部体部ハケ/ナデ		b	長: 2 2 3 石: 1 2 2 海: - 1 2	口唇部下端と肩部: 刺突文 外面煤付着 B: 13.1 E: 2.2
4	SD01 上部	甕	19.0	4.6	28.2	21(24)	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ケズリ		b	長: 1 3 4 石: 1 3 3 海: - 4 4	口縁部: 摱凹線、肩部: 刺突文 B: 16.0 C: 22.2 E: 3.1 F: 25.1
5	SD01 上部	甕	—	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ		b	長: 1 3 2 石: 2 3 4 海: - 3 3	口縁部: 摱凹線9条 E: 4.2
6	SD01 上部東	甕	17.6	—	—	23	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ケズリ		d	長: 3 2 3 石: 3 4 4 海: - 4 4	口縁部: 摱凹線5~6条 B: 16.2 E: 3.2
7	SD01 上部	甕	—	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ		d	長: 2 3 3 石: 1 2 2 海: - 2 2	口縁部: 摱凹線6条
8	SD01 上部西	甕	14.8	—	—	3	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ケズリ		d	長: 1 1 2 石: 1 3 3 海: 1 3 4	口縁部: 摱凹線か 外面: 煤付着 B: 11.4 E: 2.7
9	SD01 上部	甕	—	—	—	3	口頸部ナデ/ナデ		d	長: 1 2 2 石: 1 3 3 海: - 3 4	口縁部: 摱凹線 外面煤付着
10	SD01 上部東	甕	17.0	2.0	21.9	24(24)	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ケズリ		d	長: 1 3 3 石: 1 1 2 海: - 4 5	口縁部: 摱凹線5条 外面煤付着 B: 14.6 C: 19.8 E: 2.9 F: 19.0
11	SD01 上部西	甕	15.0	—	—	4	口頸部ナデ/ナデ		b	長: 3 3 4 石: 2 2 3 海: - 3 4	外面: 煤付着 B: 13.1 E: 2.4
12	SD01 上部西	甕	—	1.4	—	(24)	体部ハケ/ケズリ		b	長: 1 2 2 石: 1 3 3 海: - 3 4	外面: 煤付着 B: 13.9 C: 16.4 F: 15.5
13	SD01 上部	甕	13.3	—	—	16	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ→ナデ/ナデ		d	長: 1 1 2 石: 1 2 2 海: - - 2	外面: 煤か? B: 11.0 E: 2.5
14	SD01 P-22 上部東	甕	23.0	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ		d	長: 1 2 3 石: 2 3 3 海: - 4 5	B: 21.1 E: 3.2
15	SD01 上部	甕	21.8	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ		b	長: 3 4 5 石: 2 4 4 海: - - 2	
16	SD01 P-10 上部	甕	20.0	—	—	11	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ→ナデ/ナデ		d	長: 2 3 4 石: 3 4 4 海: - 3 4	B: 17.2 E: 4.1
17	SD01 P-22 上部東	甕	16.6	—	—	3	口頸部ナデか?		d	長: 3 3 2 石: 3 3 2 海: - 2 3	B: 14.6 E: 3.0
18	SD01 上部	甕	23.2	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ 体部ナデ/ケズリ		c	長: 3 3 3 石: 1 2 3 海: - - 2	B: 20.2 E: 2.6
19	SD01 P-7 上部	甕	—	—	—	3	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ケズリ		b	長: 3 3 4 石: 2 2 2 海: - - 2	E: 3.4
20	SD01 上部西	甕	14.4	—	—	5	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ケズリ		b	長: 3 2 2 石: 4 2 2 海: - 3 4	外面煤付着 B: 12.6 C: 15.7 E: 2.5

吉崎・次場遺跡出土土器観察表2

挿図番号	出土地点	器種	計測値		残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・焼の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)		部位	外面／内面			
21	SD01 上部東	甕	—	—	—	2	口頸部ナデ／ナデ	b	長：— 1 2 石：— 3 3 海：— — 2	
22	SD01 上部	甕	14.4	—	—	4	口頸部ナデ／ナデ	b	長：2 3 3 石：2 4 4 海：— 4 4	外面：焼付着
23	SD01 上部	甕	14.2	—	—	4	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ケズリ	b	長：1 2 2 石：3 3 4 海：— — 2	外面：焼付着 B：11.1 E：3.2
24	SD01 上部	甕	—	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ→ナデ／ナデ	d	長：2 3 3 石：1 2 2 海：— 2 3	E：2.6
25	SD01 上部西	甕	19.2	—	—	2	口頸部ナデ／ナデ	b	長：1 2 3 石：2 3 4 海：— — 2	
26	SD01 上部西	甕	14.3	—	—	6	口頸部体部ナデ？	b	長：1 3 3 石：1 2 2 海：— 2 3	B：12.6 E：1.6
27	SD01 上部西	甕	12.7	—	—	17	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ナデ	d	長：2 2 3 石：3 3 4 海：— 2 4	外面：焼付着 B：10.8 E：1.9
28	SD01 上部	甕	20.8	—	—	2	口頸部ナデ／ナデ	d	長：2 1 2 石：3 2 3 海：— — 2	
29	SD01 P-18 上部	壺	19.8	—	—	7	口頸部ナデ／ナデ	a	長：2 4 5 石：3 5 5 海：— — 2	口縁部：擬凹線6条
30	SD01 上部	壺	13.6	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ 頭部ハケ→ミガキ／ハケ	c	長：2 2 3 石：1 2 2 海：— — 3	B：10.9 E：10.5
31	SD01 P-8 上部	壺	15.2	—	—	4	口頸部ナデ／ナデ	d	長：— 1 2 石：— 2 2 海：— — 2	
32	SD01 上部	壺	14.5	—	—	4	口頸部ナデ／ナデ	d	長：— 2 2 石：2 3 3 海：— — 2	
33	SD01 P-20 上部西	壺	12.2	—	—	4	口頸部ミガキ？／ナデ	d	長：1 2 3 石：— 2 2 海：— 3 3	B：10.4 E：2.5
34	SD01 上部	壺	18.0	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ	b	長：1 1 3 石：1 2 2 海：— 3 4	
35	SD01 上部	壺	20.2	—	—	2	口頸部ナデ／ナデ	d	長：2 3 4 石：2 2 2 海：— — 2	B：12.8
36	SD01 上部東	壺	18.8	—	—	4	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ナデ	d	長：2 3 4 石：3 3 3 海：— — 2	B：14.3 C：24.2 E：5.3
37	SD01 上部	壺	12.8	—	—	3	口頸部ミガキ／ミガキ	b	長：2 3 3 石：1 2 2 海：— — 2	
38	SD01 P15 上部	壺体部	—	—	—	—	体部ミガキ／ナデ	d	長：— 1 2 石：— 1 3 海：— — 2	C：13.6
39	SD01 上部	壺	21.8	—	—	5	口頸部ハケ→ナデ／ハケ→ミガキ	d	長：2 2 4 石：2 3 3 海：— 2 3	
40	SD01 上部	壺	17.8	—	—	3	口頸部ミガキ／ミガキ	d	長：2 1 3 石：1 2 3 海：— — 2	外面一部赤彩？

吉崎・次場遺跡出土土器観察表3

挿図番号	出土地点	器種	計測値			残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 L M S	特記事項 文様・記号・焼の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)	器高(H)		部位	外面／内面			
41	SD01 上部東	壺	16.8	—	—	2	口頸部ナデ／ミガキ？		d	長：— 2 1 石：— 2 3 海：— — 1	口縁部：擬凹線3条
42	SD01 上部	壺	10.8	6.0	23.7	16(24)	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ハケ		a	長：1 2 2 石：2 3 3 海：— — 2	口縁部：擬凹線3条 外面焼付着 B：10.2 C：16.9 E：6.1 F：17.6
43	SD01 上部	壺	13.0	5.2	25.0	18(24)	口頸部ハケ→ナデ／ハケ 体部ハケ→ナデ／ハケ		b	長：1 2 3 石：2 3 4 海：— — 2	口縁部及び体部の一部赤彩か？ B：12.4 C：18.9 E：5.3 F：19.7
44	SD01 P8 上部	壺	11.4	—	—	2	口頸部ナデ？／オサエ		d	長：1 2 2 石：3 3 3 海：— — 2	B：10.2 E：3.4
45	SD01 P21 上部	無頸壺	11.8	—	—	2	口頸部ナデ？／ナデ？		b	長：— 2 5 石：— 2 4 海：— — 3	口縁部：穿孔2個一対
46	SD01 上部	底部	—	6.2	—	(24)	体部ハケ／ハケ		d	長：2 2 2 石：3 3 3 海：— — 2	
47	SD01 上部	底部	—	5.0	—	(24)	体部ハケ／ハケ		b	長：2 2 3 石：3 3 4 海：— 2 3	
48	SD01 上部	底部 壺？	—	4.8	—	(20)	体部ミガキ／ナデ		b	長：3 3 3 石：4 4 3 海：— 2 2	
49	SD01 P21 上部	底部	—	3.8	—	(24)	体部ハケ／ハケ		d	長：2 3 3 石：3 4 4 海：— — 1	
50	SD01 上部	底部	—	3.6	—	(22)	体部ケズリ ／ナデ		b	長：3 2 3 石：3 3 4 海：— 3 4	
51	SD01 上部	底部	—	6.0	—	(24)	体部ハケ／ハケ		b	長：2 3 2 石：2 3 3 海：— 2 3	
52	SD01 上部	底部	—	2.8	—	(24)	体部ハケ／ナデ		b	長：3 3 3 石：2 2 3 海：— 3 4	底部穿孔
53	SD01 上部	底部	—	12.4	—	(6)	体部ハケ／ナデ		d	長：1 2 3 石：1 2 2 海：— — 2	
54	SD01 P12 上部	底部	—	7.7	—	(7)	体部ハケ／オサエ・ナデ		d	長：1 2 3 石：2 3 3 海：— — 3	
55	SD01 P11 上部	底部	—	7.6	—	(7)	体部ハケ／ケズリ		b	長：3 4 5 石：3 4 4 海：— 2 3	
56	SD01 上部	底部	—	8.0	—	(5)	体部ハケ／ナデ？		d	長：1 2 4 石：1 3 3 海：— — 2	
57	SD01 P22 上部	底部	—	5.2	—	(18)	体部ハケ／ナデ		d	長：4 5 4 石：3 3 4 海：— — 2	
58	SD01 P12 上部	底部	—	8.0	—	(4)	体部ミガキか？／オサエ		b	長：— 4 4 石：— 3 3 海：— — 2	
59	SD01 P10 上部	底部	—	7.2	—	(12)	体部ハケ・オサエ／ナデ		d	長：1 3 3 石：2 3 4 海：— 1 3	
60	SD01 P19 上部	底部	—	5.3	—	(14)	体部マモウ／ナデ・オサエ		d	長：2 3 4 石：2 2 3 海：— 3 3	

吉崎・次場遺跡出土土器観察表 4

捕団 番号	出土 地点	器種	計測値			残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・焼の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)	器高(H)		部位	外面／内面			
61	SD01 P19 上部	壺か?	—	—	—	—	体部ハケ／ハケ		b	長：4 3 2 石：3 3 2 海：— — 2	外面屬状文
62	SD01 上部	高坏	33.0	—	—	2	坏部ミガキ／マモウ		a	長：1 2 2 石：2 2 3 海：— — 2	外面赤彩
63	SD01 P8 上部	高坏	—	—	—	—	外面：ミガキ(マモウ)		a	長：1 2 2 石：2 2 3 海：— 3 4	B:3.2
64	SD01 上部	脚部	—	—	—	—	外面ミガキ(マモウ)		d	長：1 1 2 石：1 3 4 海：— — 2	
65	SD01 上部	器台	—	—	—	—	脚部ミガキ／ケズリ		b	長：1 2 2 石：3 3 4 海：— 3 4	脚部：透かし孔、5ヶ所 B:3.9
66	SD01 上部	高坏	—	—	—	—	外面ミガキ		b	長：1 1 1 石：1 2 3 海：— — 2	B:4.3
67	SD01 上部	器台?	—	17.7	—	(18)	脚部マモウ／ナデ		d	長：— 2 3 石：— 3 3 海：— — 2	外面：擬凹線8条 透かし孔2ヶ所(三方か) 底部裏面煤付着
68	SD01 上部	脚台部	—	18.4	—	(4)	脚部マモウ		d	長：— 2 2 石：— 2 3 海：— — 1	
69	SD01 上部	脚台部	—	15.4	—	(3)	脚部ミガキ?／ナデ		d	長：— 2 3 石：— 3 3 海：— — 2	透かし孔1ヶ所
70	SD01 P10 上部	脚付椀	11.8	6.0	6.0	11(24)	体部ハケ→ナデ／ナデ		b	長：— 1 1 石：— 2 3 海：— 2 3	
71	SD01 P20 上部	鉢	18.2	—	—	4	体部マモウ		b	長：1 2 2 石：— 3 3 海：— 1 3	
72	SD01 上部西	鉢	18.4	—	—	3	体部マモウ：ハケ?		b	長：— 1 2 石：— 2 3 海：— 2 3	
73	SD01 上部東	鉢か?	14.8	—	—	1	体部マモウ／ケズリ?		b	長：2 2 3 石：2 3 4 海：— 3 3	
74	SD01 上部の下	甕	25.6	—	—	4	口頸部ナデ／ハケ→ナデ		c	長：1 3 4 石：2 3 3 海：— — 3	口縁部：刻み目
75	SD01 上部の下	甕	18.7	—	—	6	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ケズリ?		c	長：1 3 3 石：2 3 4 海：— — 2	口縁部：擬凹線10条 肩部：くし描波状文 B:16.8 E:3.6
76	SD01 P101 上部の下	甕	18.6	—	—	24	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ケズリ		a	長：4 5 5 石：2 3 3 海：— — 3	外面：煤付着 B:16.1 E:3.3
77	SD01 上部の下	甕	16.6	—	—	24	口頸部ナデ／ナデ		c	長：2 3 3 石：2 2 3 海：— — 1	口縁部：擬凹線7条 B:13.8 E:3.7
78	SD01 上部の下	甕	16.8	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ		b	長：1 3 4 石：2 3 4 海：— — 2	口縁部：擬凹線4条
79	SD01 P105 上部の下	甕	15.6	—	—	4	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ→ナデ／ケズリ		c	長：2 2 3 石：2 3 3 海：— 3 3	口縁部：擬凹線3～4条 B:13.9 E:2.4
80	SD01 P103 上部の下	甕	—	—	—	1	口頸部ナデ／ナデ		a	長：1 1 2 石：2 2 3 海：— — 1	E:3.9

吉崎・次場遺跡出土土器観察表 5

捕団番号	出土地点	器種	計測値			残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・媒の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)	器高(H)		部位	外面 / 内面			
81	SD01 上部の下	甕	18.4	—	—	20	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ナデ		d	長：2 2 2 石：3 3 4 海：— — 2	外面煤付着 肩部：刺突文 B：15.2 C：22.6 E：2.7
82	SD01 上部の下	甕	16.8	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ		b	長：2 3 4 石：2 2 3 海：— — 3	B：13.5
83	SD01	甕	17.8	4.8	26.0	24(22)	口頸部ナデ／ナデ 体部スス／ケズリ		d	長：1 2 3 石：2 3 3 海：— — 2	外面：煤付着 肩部：刺突文 B：14.5 C：20.4 E：2.8 F：23.2
84	SD01 P105 上部の下	甕	16.6	—	—	6	口頸部マモウ		b	長：3 4 4 石：3 3 4 海：— 3 3	B：13.9 E：3.6
85	SD01 P104・105 上部の下	甕	17.3	—	—	7	口頸部ナデ／ナデ		a	長：3 3 4 石：3 4 5 海：— 3 4	B：15.9 E：2.9
86	SD01 上部の下	甕	14.8	—	—	24	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ハケ		c	長：2 2 3 石：3 3 4 海：— 4 5	外面：煤付着 B：12.6 E：2.4
87	SD01 P104 上部の下	甕	13.4	—	—	14	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ナデ		b	長：4 5 5 石：4 3 4 海：— 2 2	外面：煤付着 B：12.4 E：2.0
88	SD01 上部の下	甕	16.2	—	—	9	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ナデ		c	長：1 2 2 石：1 3 3 海：— — 2	外面：煤付着 B：14.3 E：3.2
89	SD01 P105 上部の下	甕	16.9	—	—	10	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ハケ		b	長：2 2 2 石：3 3 4 海：— 2 3	外面：煤付着、 肩部：刺突文 B：13.3 C：20.6 E：2.8
90	SD01 P105 上部の下	甕	13.2	—	—	24	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ケズリ		a	長：3 3 4 石：3 3 3 海：— 2 3	外面煤付着、 肩部刺突文 B：11.0 C：17.6 E：2.4
91	SD01 上部の下	甕	20.6	—	—	4	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ→ナデ／ケズリ		b	長：3 2 2 石：3 3 3 海：— — 2	外面煤付着、 B：17.9 C：20.5 E：1.9
92	SD01 P105 上部の下	底部	—	7.6	—	(24)	体部ハケ→ナデ？／ハケ→ナデ		d	長：2 3 4 石：1 3 5 海：— — 3	
93	SD01 P103 上部の下	甕	16.9	—	—	21	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ハケ		a	長：1 1 2 石：1 2 2 海：— 3 4	外面：煤付着、 B：15.1 C：20.5 E：2.7
94	SD01 P105 上部の下	甕	11.4	—	—	24	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ケズリ		d	長：2 3 3 石：3 4 3 海：— 1 2	外面：煤付着、 B：10.7 C：14.5 E：2.0
95	SD01 上部の下	甕	15.2	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ		b	長：— 2 4 石：1 2 2 海：— — 2	外面：煤付着、 口縁部：刺突文
96	SD01 上部の下	壺か 底部	—	4.2	—	(4)	体部ハケ→ミガキ？／ケズリ		b	長：1 2 3 石：1 2 2 海：— — 2	
97	SD01 上部の下	底部	—	9.6	—	(2)	体部マモウ		d	長：2 3 3 石：3 3 4 海：— — 2	
98	SD01 上部の下	底部	—	5.8	—	(24)	体部ハケ／ハケ		b	長：2 3 3 石：3 4 4 海：— — 1	底部：穿孔
99	SD01 上部の下	底部	—	5.8	—	(22)	体部マモウ		b	長：2 2 2 石：2 3 4 海：— — 3	
100	SD01 P105 上部の下	底部	—	4.5	—	(8)	体部ハケ／ハケ		b	長：2 2 3 石：3 3 4 海：— — 2	

吉崎・次場遺跡出土土器観察表 6

挿図番号	出土地点	器種	計測値		残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・煤の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)		部位	外面／内面			
101	SD01 上部の下	底部	—	5.8	—	(11)	体部ハケ→ナデ／ハケ	d	長：2 3 3 石：1 2 1 海：— 1 3	外面：煤付着
102	SD01 上部の下	底部	—	5.6	—	(14)	体部ミガキ？／ナデ	b	長：1 2 2 石：2 2 3 海：— — 1	
103	SD01 上部の下	底部	—	4.6	—	(24)	体部マモウ	b	長：2 3 3 石：3 4 5 海：— — 2	
104	SD01 P101 上部の下	壺	26.0	—	—	24	口頸部ハケ→ミガキ／ミガキ	b	長：2 2 2 石：3 3 4 海：— 2 2	口縁部2個一対の半球状貼付六方向 中心に竹管状文、擬回線4状 頸部：刻み目をもった凸帯貼付
105	SD01 上部の下	壺	24.1	—	—	1	口頸部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ	a	長：1 1 2 石：1 2 2 海：— — 3	
106	SD01 上部の下	壺	22.8	—	—	5	口頸部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ	b	長：1 2 3 石：1 3 3 海：— 2 2	口縁部外面：竹管状文 頸部：ヘラ状具による直線文？
107	SD01 P104 上部の下	壺	15.4	—	—	7	口頸部マモウ	a	長：1 2 2 石：2 2 2 海：— 3 5	B：10.8 E：4.2
108	SD01 上部の下	壺	11.8	—	—	3	口頸部ハケ→ナデ／ナデ	d	長：2 2 2 石：1 3 4 海：— — 2	
109	SD01 上部の下	壺	13.6	—	—	8	口頸部ナデ／マモウ	b	長：2 3 4 石：2 4 4 海：— — 1	口縁部内外面：刺突文 B：13.0 E：2.4
110	SD01 P105 上部の下	壺	8.0	16.0	28.1	11(22)	口～体部ミガキ／ミガキ・ナデ 脚部ミガキ／ハケメ	d	長：1 2 2 石：2 3 3 海：— 2 3	体部1ヶ所取手状の貼付 脚部四方透し孔 C：17.8
111	SD01 上部の下	高坏	22.8	—	—	4	坏部ミガキ／ミガキ 脚部ミガキ／—	a	長：2 2 2 石：2 3 3 海：— 2 2	内外面：赤彩 透かし孔3ヶ所(四方) B：5.4
112	SD01 上部の下	高坏	—	—	—	—	脚部ハケ→ミガキ／ハケ→ミガキ	d	長：2 2 3 石：2 2 2 海：— 2 2	(B：5.0)
113	SD01 上部の下	器台 か？	—	—	—	—	脚柱部ミガキ／— 脚台部ミガキ／ハケ→ミガキ？	b	長：1 1 2 石：1 2 2 海：— — 4	脚台部：凸帯に擬回線5条、 赤彩か？ 2個一対の透かし孔(三方) B：4.6
114	SD01 上部の下	器台	—	17.0	—	(3)	脚台部ハケ→ナデ／ナデ	d	長：1 2 2 石：1 3 4 海：— — 1	透かし孔2ヶ所
115	SD01 上部の下	脚部	—	14.4	—	(3)	脚部ミガキ／ケズリ・ナデ	b	長：2 2 3 石：2 3 4 海：— 1 3	B：4.4
116	SD01 上部の下	脚部 器台？	—	13.8	—	(8)	脚部ミガキ／ハケ→ナデ	b	長：1 1 2 石：2 2 3 海：— — 2	B：5.0
117	SD01 P104 上部の下	鉢	14.4	—	—	4	体部ナデ／ナデ？	d	長：1 3 3 石：1 3 4 海：— — 1	外面：煤付着
118	SD01 上部の下	鉢？	11.8	—	—	4	体部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ	b	長：1 1 3 石：1 2 3 海：— — 2	
119	SD01 上部の下	小型 壺？	8.0	—	—	9	口頸部ナデ／ナデ	b	長：1 2 2 石：1 3 3 海：— — 1	B：6.4 E：2.2
120	SD01 下部西	甕	21.0	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ	b	長：2 3 3 石：2 3 4 海：— — 2	口唇部下端：刻み目、 口縁部内面、2列刺突文「く」の字

吉崎・次場遺跡出土土器観察表 7

捕団 番号	出土 地点	器種	計測値			残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・媒の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)	器高(H)		部位	外面／内面			
121	SD01 下部	甕	19.4	—	—	4	口頸部ハケ／ハケ		d	長：— 1 3 石：1 2 3 海：— — 2	口縁部内面：2列刺突文「く」の字
122	SD01 下部西	甕	17.8	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ		b	長：— 2 2 石：1 3 3 海：— — 1	外面：煤付着
123	SD01 下部東	甕	16.8	—	—	2	口頸部ナデ／ナデ		b	長：3 3 4 石：2 2 2 海：— — 3	
124	SD01 下部	甕	15.0	—	—	12	口頸部ナデ／ナデ		b	長：2 3 3 石：3 3 4 海：— 4 4	外面：煤付着、 B：13.3 E：2.7
125	SD01 下部	甕?	16.6	—	—	2	口頸部ハケ・ナデ／ナデ		d	長：1 1 1 石：— 2 2 海：— — 2	
126	SD01 下部	甕	16.8	—	—	2	口頸部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ		d	長：1 2 2 石：1 3 3 海：— — 3	(B：13.4, E：3.0)
127	SD01 P110 下部	甕	15.8	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ／ケズリ		b	長：1 2 1 石：1 2 2 海：— — 2	外面：煤付着、 B：13.4 C：14.8 E：1.9
128	SD01 下部西	甕	—	—	—	1	口頸部ハケ／ハケ→ナデ 体部ハケ／ハケ→ナデ		d	長：1 1 1 石：2 2 2 海：— — 2	外面：煤付着、 E：3.0
129	SD01 下部	甕	—	—	—	3	口頸部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ		d	長：1 2 2 石：2 3 3 海：— — 2	
130	SD01 P106 下部	壺?	16.2	—	—	3	口頸部ハケ／ナデ		a	長：1 2 4 石：1 2 3 海：— — 2	口縁端部：格子状の刺突文
131	SD01 P15 下部	壺	18.0	—	—	6	口頸部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ		d	長：1 3 3 石：1 2 3 海：— 3 4	
132	SD01 下部	壺	10.6	—	—	3	口頸部ハケ→ナデ／ナデ		d	長：1 2 2 石：2 3 3 海：— — 2	B：9.1 E：3.1
133	SD01 P107 下部	壺	9.0	—	—	3	口頸部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ		b	長：2 3 4 石：1 3 3 海：— — 2	
134	SD01 下部東	底部	—	4.0	—	(24)	体部ハケ／ナデ		b	長：4 4 5 石：4 4 4 海：— — 3	
135	SD01 P5 下部東	底部	—	6.7	—	(18)	体部ハケ→ミガキ／ハケ		b	長：3 3 4 石：3 3 3 海：— — 2	
136	SD01 下部東	底部	—	6.7	—	(23)	体部ハケ→ミガキ／ナデ		d	長：1 2 2 石：3 3 4 海：— — 2	底部裏面：植物遺体圧痕(モミか?)
137	SD01 P106 下部東	底部	—	6.2	—	(17)	体部ハケ→ナデ／ハケ		b	長：1 2 3 石：2 3 3 海：— — 3	
138	SD01 P5 下部東	器台	—	—	—	—	脚柱部ミガキ／ハケ		b	長：2 3 4 石：1 2 3 海：— — 2	脚柱部：擬回線4条 B：5.2
139	SD01 下部	蓋	—	4.0	—	(3)	体部ミガキ		a	長：2 3 3 石：3 3 4 海：— 3 3	
140	SD01 下部	体部	—	—	—	—	体部ナデ?／ナデ		b	長：2 3 4 石：1 2 2 海：— — 2	ヘラ状具による文様、刺突文?

吉崎・次場遺跡出土土器観察表 8

捕団 番号	出土 地点	器種	計 測 値		残存量 (/24)	成 形・調 整		色 調	胎 土 LMS	特 記 事 項 文様・記号・煤の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)		器高(H)	部 位	外 面 / 内 面		
141	SD01 一括	甕	24.6	—	—	2	口頸部ハケ→ナデ/ナデ		d	長: 2 4 石: 3 3 海: 2
142	SD01 一括	甕	22.8	—	—	1	口頸部ナデ/ナデ		d	長: 1 2 2 石: 1 3 3 海: 3 3
143	SD01 一括	甕	18.8	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ		b	長: 3 2 2 石: 3 2 3 海: 3
144	SD01 一括	甕	18.0	—	—	10	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ケズリ		b	長: 2 2 3 石: 2 3 4 海: 2
145	SD01 B1区 排水溝	甕	18.2	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ		C	長: 2 1 石: 1 2 3 海: 1
146	SD01 B1区 排水溝	甕	16.9	—	—	5	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ→ナデ/ケズリ		b	長: 2 3 2 石: 2 3 3 海: 1 3
147	SD01 西畦	甕	28.0	—	—	24	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ケズリ・ハケ		d	長: 3 3 3 石: 4 3 4 海: 2
148	SD01 B1区	甕	15.8	—	—	3	口頸部マモウ		b	長: 2 3 石: 1 2 2 海: 2 2
149	SD01 西畦	甕	14.2	—	—	3	口頸部ナデ/ナデ		b	長: 1 2 2 石: 1 3 3 海: 3 3
150	SD01 西畦	甕	14.4	—	—	8	口頸部ハケ/ハケ→ナデ 体部ハケ/ハケ→ナデ		d	長: 1 2 1 石: 2 3 2 海: 1 2
151	SD01	甕	18.2	—	—	2	口頸部マモウ		d	長: 2 3 4 石: 1 2 1 海: 1
152	SD01	甕	—	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ		b	長: 2 2 3 石: 2 3 3 海: 2 3
153	SD01 B1区	甕	19.1	—	—	2	口頸部ハケ/ハケ		d	長: 1 3 2 石: 2 1 海: 2
154	SD01 P-6 B1区	甕	18.4	—	—	4	口頸部ナデ/ナデ 体部ハケ/ナデ ・オサエ		d	長: 1 2 2 石: 2 3 4 海: 3
155	SD01 排水溝 B1区	甕	17.4	—	—	2	口頸部ナデ/ナデ		a	長: 1 1 2 石: 1 3 2 海: 2
156	SD01 西畦	甕	14.2	—	—	3	口頸部ナデ/ナデ		b	長: 2 3 3 石: 2 3 海: 4
157	SD01 西畦	壺か	—	—	—	2	口頸部ハケ→ナデ/ハケ→ナデ		c	長: 1 2 3 石: 1 2 2 海: 2
158	SD01 東	壺	15.4	—	—	2	口頸部ハケ/ナデ		b	長: 1 3 2 石: 2 3 3 海: 1
159	SD01 西	壺	13.4	—	—	6	口頸部ミガキ/ミガキ		b	長: 2 2 3 石: 2 3 2 海: 3 3
160	SD01 東	壺	13.4	—	—	4	口頸部ミガキ/ミガキ		c	長: 1 1 1 石: 2 2 3 海: 3

吉崎・次場遺跡出土土器観察表 9

捕団番号	出土地点	器種	計測値			残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・煤の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)	器高(H)		部位	外面／内面			
161	SD01	壺	12.8	—	—	11	口頸部ミガキ／ミガキ 体部ミガキ／ハケ→ナデ		b	長：— 1 2 石：— 2 3 海：— — 2	口縁部：内外面赤彩 B：8.8 E：3.3
162	SD01 B1区	壺	—	—	—	1	口頸部マモウ		b	長：1 1 2 石：1 2 1 海：— 3 3	
163	SD01 B1区	壺	12.2	—	—	2	口頸部ナデ／ナデ		b	長：1 2 2 石：2 3 3 海：— 1 2	
164	SD01 西畦	壺	10.8	—	—	8	口頸部ナデ／ナデ 体部ナデ／ナデ・オサエ		d	長：2 2 4 石：2 2 3 海：— — 3	B：9.1 E：2.9
165	SD01 西畦	壺	13.8	—	—	3	口頸部ハケ→ナデ／ナデ		d	長：1 2 3 石：1 3 4 海：— — 2	口縁部：刺突文 (B：9.8 E：3.5)
166	SD01 西畦	壺	—	—	—	1	口頸部ハケ／ナデ		d	長：1 2 3 石：2 3 4 海：— — 2	口縁部：擬回線か？
167	SD01 B1区	壺	14.8	—	—	2	口頸部ナデ／ナデ		d	長：1 2 2 石：1 2 3 海：— 2 2	口縁部：波状文か？
168	SD01 B1区	壺頸部	—	—	—	—	口頸部ナデ／ナデ 体部ハケ→ミガキ／ナデ		b	長：1 2 2 石：2 3 3 海：— — 3	B：12.4
169	SD01 西畦	壺	10.3	—	—	24	口頸部ハケ→粗いミガキ／ハケ→ミ ガキ 体部ハケ→粗いミガキ／ケズリ		b	長：1 2 2 石：1 3 3 海：— — 3	B：10.3 C：16.8 E：7.8
170	SD01	壺	16.3	—	—	2	口頸部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ		a	長：— 2 1 石：1 2 1 海：— — 2	
171	SD01	壺	14.9	—	—	4	口頸部ナデ／ナデ		b	長：— — 3 石：1 — 2 海：— 1 3	外面煤付着 (B：12.0 E：2.5)
172	SD01 B1区	壺	13.4	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ		b	長：2 3 2 石：3 3 3 海：— 3 4	B：10.8 E：2.7
173	SD01	甕底部	—	4.8	—	(24)	体部ハケ／ハケ		b	長：2 3 2 石：3 3 3 海：— 2 3	外面：煤付着
174	SD01	底部片	—	4.6	—	(24)	体部ハケ→ミガキ？／ナデ		b	長：2 3 4 石：3 3 3 海：— — 2	
175	SD01	底部片	—	6.8	—	(24)	体部ハケ→ミガキ／マモウ		b	長：3 3 2 石：2 3 4 海：— — 2	
176	SD01	底部片	—	12.0	—	(10)	体部ハケ→ミガキ／ハケ		d	長：— 1 4 石：— 2 5 海：— — 1	外面：煤付着
177	SD01	底部片	—	8.6	—	(14)	体部ハケ→ミガキ？／ナデ		b	長：4 3 5 石：3 4 4 海：— — 2	
178	SD01	底部片	—	7.8	—	(4)	体部ハケ／ナデ		b	長：1 2 5 石：2 3 3 海：— — 3	
179	SD01	底部片	—	8.3	—	(8)	体部ミガキ？／ナデ		b	長：3 4 4 石：4 4 5 海：— — 2	
180	SD01	底部片	—	7.2	—	(6)	体部ハケ／ナデ		c	長：— 1 2 石：— 3 2 海：— — 1	外面：煤付着

吉崎・次場遺跡出土土器観察表 10

捕団 番号	出土 地点	器種	計測値		残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・煤の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)		部位	外面／内面			
181	SD01	底部片	—	6.6	—	(14)	体部ハケ／ハケ	c	長：2 3 5 石：1 4 4 海：— — 1	内面：黒色
182	SD01 B 1 区	底部片	—	6.6	—	(6)	体部ハケ／ハケ	b	長：2 3 2 石：1 2 2 海：— — 1	
183	SD01	底部片	—	4.6	—	(12)	体部ハケ／ハケ	a	長：2 3 4 石：2 3 3 海：— — 2	外面：煤付着
184	SD01	底部片	—	4.4	—	(24)	体部ハケ／ナデ	b	長：2 2 2 石：3 3 3 海：— — 2	外面：煤付着
185	SD01	底部片	—	6.2	—	(6)	体部ナデ／ナデ・オサエ	c	長：2 2 4 石：1 2 3 海：— — 2	
186	SD01 B 1 区	底部片	—	6.2	—	(7)	体部ハケ→ナデ／ハケ→ナデ	a	長：2 2 3 石：1 2 2 海：— — 2	外面：煤付着
187	SD01	底部片	—	5.8	—	(14)	体部ハケ／ケズリ？	d	長：1 2 3 石：3 3 3 海：— — 2	
188	SD01 畦	底部片	—	6.0	—	(24)	体部オサエ・ミガキ？／ナデ	c	長：2 3 2 石：2 3 3 海：— — 2	
189	SD01	底部片	—	5.0	—	(24)	体部マモウ	b	長：2 2 2 石：3 3 3 海：— 3 5	
190	SD01	底部片	—	6.2	—	(6)	体部ミガキ／ナデ	a	長：1 2 2 石：2 3 4 海：— — 2	
191	SD01	底部片	—	6.2	—	(8)	体部ミガキ／ナデ	b	長：2 3 5 石：3 4 4 海：— — 2	
192	SD01	底部片	—	4.8	—	(24)	体部マモウ／ハケ	b	長：3 2 2 石：3 3 2 海：— 3 4	
193	SD01	底部片	—	5.0	—	(24)	体部ハケ／ハケ・ナデ	a	長：3 4 3 石：2 3 3 海：— — 2	外面：煤付着
194	SD01	底部片	—	3.6	—	(9)	体部ハケ／ナデ	c	長：3 2 4 石：1 3 3 海：— — 2	
195	SD01 B 1 区	底部片	—	3.9	—	(3)	体部ハケ／ナデ	d	長：1 2 1 石：2 3 3 海：— 3 3	
196	SD01 排水溝 B 1 区	底部片	—	3.6	—	(24)	体部ハケ／ナデ	d	長：1 2 3 石：2 3 3 海：— — 2	
197	SD01	高坏	25.4	—	—	14	坏部：ミガキ／ミガキ	b	長：1 2 3 石：2 3 3 海：1 3 4	内外面：赤彩
198	SD01 西	高坏	25.0	—	—	3	坏部：ハケ→ミガキ／ミガキ	b	長：1 2 2 石：1 3 3 海：— — 2	口縁部：赤彩
199	SD01 東	高坏	23.6	—	—	2	坏部マモウ／ミガキ	d	長：1 2 3 石：2 3 3 海：— — 2	
200	SD01 西畦	高坏	—	—	—	1	坏部ミガキ／マモウ	b	長：3 4 2 石：4 4 3 海：— 3 3	

吉崎・次場遺跡出土土器観察表 11

挿図 番号	出土 地点	器種	計測値			残存量 (/24)	成形・調整		色調	胎土 LMS	特記事項 文様・記号・煤の有無・詳細計測値
			口径(A)	底径(D)	器高(H)		部位	外面／内面			
201	SD01 B1区	高坏	19.5	—	—	5	坏部マモウ／ミガキ		a	長：1 2 1 石：1 3 3 海：— 2 3	
202	SD01	器台	—	—	—	—	脚柱部ハケ→ミガキ／ハケ		b	長：2 2 3 石：2 3 4 海：— 1 2	内面：煤付着、 B:4.1
203	SD01	器台	—	—	—	—	脚柱部ハケ→ミガキ／ハケ		d	長：1 3 4 石：2 3 3 海：— 2 3	透かし孔3ヶ所(四方) B:4.2
204	SD01 畦	脚柱部	—	—	—	—	脚柱部ミガキ／—		b	長：— 2 2 石：— 2 3 海：— — 2	
205	SD01 畦	高坏	—	—	—	—	脚柱部ミガキ／ケズリ		b	長：1 3 2 石：2 3 4 海：— — 2	B:4.8
206	SD01	脚台部	—	23.4	—	(8)	脚台部ミガキ?／ハケ		b	長：— 2 2 石：— 2 1 海：1 3 3	脚台端部：擬凹線6条 透かし孔(四方)
207	SD01	脚台部	—	25.1	—	(2)	脚台部ナデ?／ナデ		b	長：— 1 2 石：— 2 3 海：— — 2	外面：煤付着
208	SD01 東	脚台部	—	19.8	—	(13)	脚台部ミガキ／強いナデ		a	長：— 1 3 石：— 2 3 海：— — 2	透かし孔3ヶ所(四方)
209	SD01 排水溝	脚台部	—	18.0	—	(4)	脚台部ミガキ／ナデ		b	長：— 1 2 石：— 2 3 海：— — 2	外面：赤彩
210	SD01 西	脚台部	—	12.8	—	(6)	脚台部ナデ／ナデ		b	長：1 1 2 石：1 2 2 海：— 3 4	
211	SD01	脚部	—	9.6	—	(4)	脚部マモウ		d	長：1 2 1 石：2 3 2 海：— 3 3	
212	SD01	鉢	20.8	—	—	4	体部ミガキ／ミガキ		b	長：1 2 3 石：1 3 3 海：— 2 3	口縁部外面：刺突沈線文(3列)
213	SD01	小型 土器	5.0	3.4	5.8	24(24)	体部ミガキ／ナデ・オサエ		b	長：1 2 2 石：2 3 3 海：— — 3	外面：煤付着 B:4.6 C:5.4 E:1.0 F:4.8
214	SD01	小型 土器	—	3.8	—	—(12)	体部ミガキ?／ナデ・オサエ		b	長：1 3 2 石：2 3 3 海：— 2 2	C:5.5
215	SD01 排水溝 B-1区	蓋	7.8	1.6	—	22(24)	体部ミガキ／ナデ		b	長：1 3 2 石：2 3 3 海：— 3 3	内面「カエリ」の部分剥離
216	SD01 B-1区	体部片	—	—	—	—	体部ナデ／ナデ		c	長：— 3 2 石：— 2 2 海：— — 2	円盤状の貼付 2条1単位の直線文2列 逆「くの字」刺突文2列
217	SD01 東	体部片	—	—	—	—	体部ハケ／ナデ		b	長：1 2 2 石：2 3 4 海：1 3 4	
218	SD01	頸部片	—	—	—	—	口頸部ナデ／ナデ		b	長：1 2 3 石：2 3 2 海：— — 2	外面：煤付着
219	SK01 下層	口縁部	—	—	—	2	口頸部マモウ		c	長：3 3 4 石：4 4 5 海：— 3 4	
220	SK01 10層	甕	16.8	—	—	3	口頸部ナデ／ナデ体部ハケ／ケズリ		b	長：1 2 3 石：2 3 2 海：— — 2	外面：煤付着 口縁部：擬凹線9条 B:15.8 E:3.5

### 吉崎・次場遺跡出土土器観察表 12

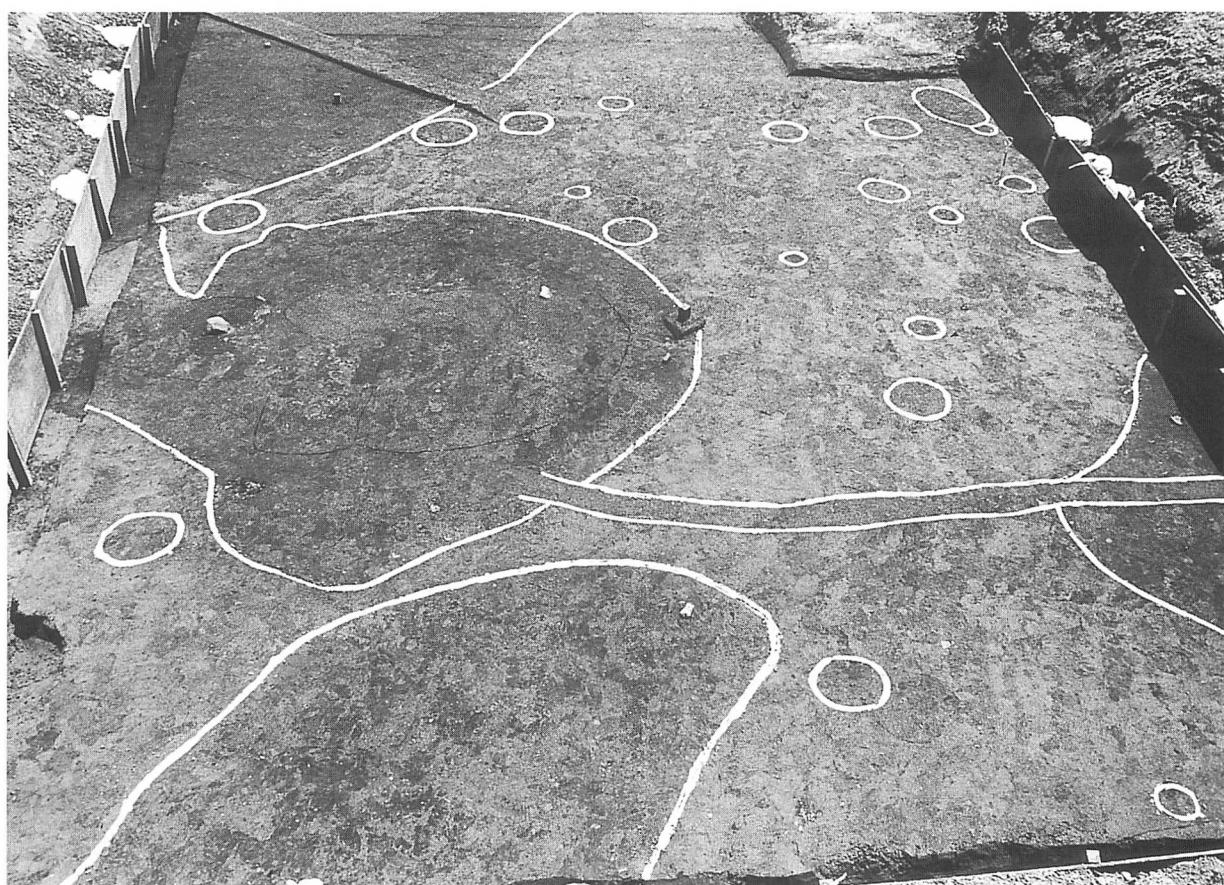
第5表 吉崎・次場遺跡出土 土製品計測表

捕団番号	出土地点	名称	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	孔径(cm)	
235	S D01	土錘	3.5	3.9		43.9	0.7	孔端部未調整
236	S K01	土錘	6.4	1.6		11.6	0.6	孔端部調整有
237	S K01	土錘	5.1	1.4		7.7	0.5	孔端部調整有
238	S K01下層	土錘	4.3	1.5		9.3	0.5	孔端部調整有
239	S K01	土錘	4.2	1.2		3.7	0.6	
240	S K01	土錘	2.5	1.2		3.5	0.6	孔端部未調整
241	S K01	土錘	2.0	1.5		3.5	0.5	孔端部未調整
242	S X01	土錘	6.2	1.5		12.6	0.6	
243	S X01	土錘	5.1	1.6		10.4	0.5	孔端部 片方平坦面有 片方未調整
244	S D01	効錘車	3.5		0.5	7.3	0.4	

第6表 吉崎・次場遺跡出土 石製品計測表

捕団番号	出土地点	名称	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
245	S D01 上部の下	玉未製品	1.8	1.1	0.4	1.1	両面擦り切り痕
246	S D01 S-37	磨製石斧	11.4	6.3	4.7	505	
247	S D01 上部の下	磨製石斧	10.3	6.8	3.7	400	先端部分敲打痕
248	S D01 S-26	磨製石斧	7.8	6.0	4.5	364	先端部分敲打痕
249	S D01 S-6	磨製石斧	7.1	6.2	6.4	496	未製品 叩き石転用か
250	S D01 S-11	大型蛤刃	5.2	6.0	3.5	109	
251	S D01	柱状片刃	11.4	3.3	3.2	190	抉り有、内面研磨
252	S D01 S-30	叩き石	4.8	7.8	3.9	224	珪質岩 周縁部使用痕
253	S D01 S-34	叩き石	12.6	10.0	3.8	828	中央部凹み、周縁部使用痕
254	S D01 B-1区	叩き石	11.7	6.3	3.4	358	両面中央部凹み、周縁部使用痕 石斧未製品を叩き石に転用か
255	S D01 上部	石包丁	10.5	7.4	1.0	97.2	刃部研磨
256	S D01	石包丁	5.6	6.4	0.9	24	全体研磨

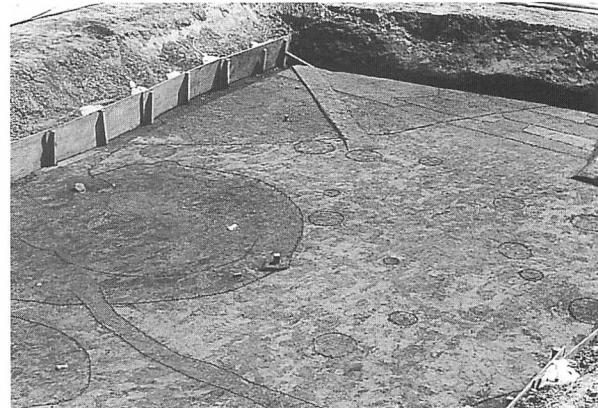
市内遺跡発掘調査（2000）  
吉崎・次場遺跡第17次調査  
写真図版



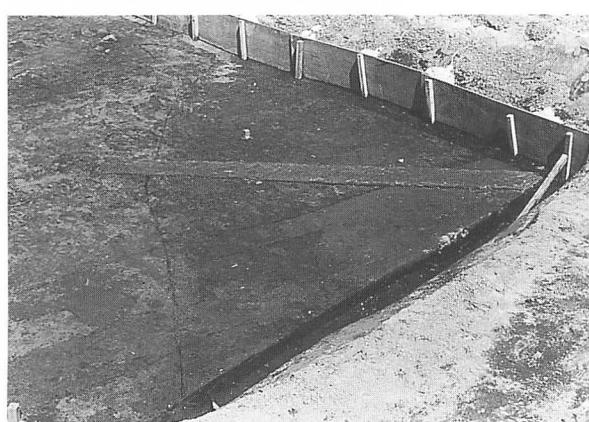
(1) 遺構検出状況（西から）



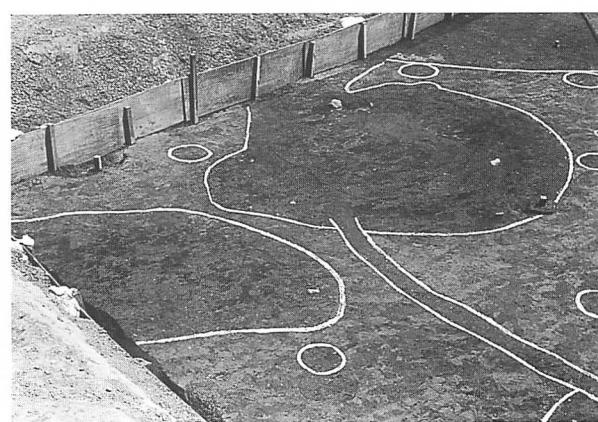
(2) 調査区より吉崎・次場弥生公園を望む（東から）



(4) SD 01・SK 01 検出状況（南西から）



(3) SD 01 検出状況



(5) SK 01・02・03 検出状況（南西から）



(1) SD 01 上部～上部の下 遺物出土状況 ((南西から)



(2) SK 01 断面 (南から)



(4) SK 03 断面 (南から)



(3) SK 02 断面 (北東から)



(4) SK 04 断面 (南から)



(1) SD 01 上部 遺物出土状況 (南東から)



(5) SK 02・03 完掘 (南西から)



(2) SD 01 上部の下 遺物出土状況



(6) SK 04 完掘 (北から)



(3) SD 01 完掘 (南西から)



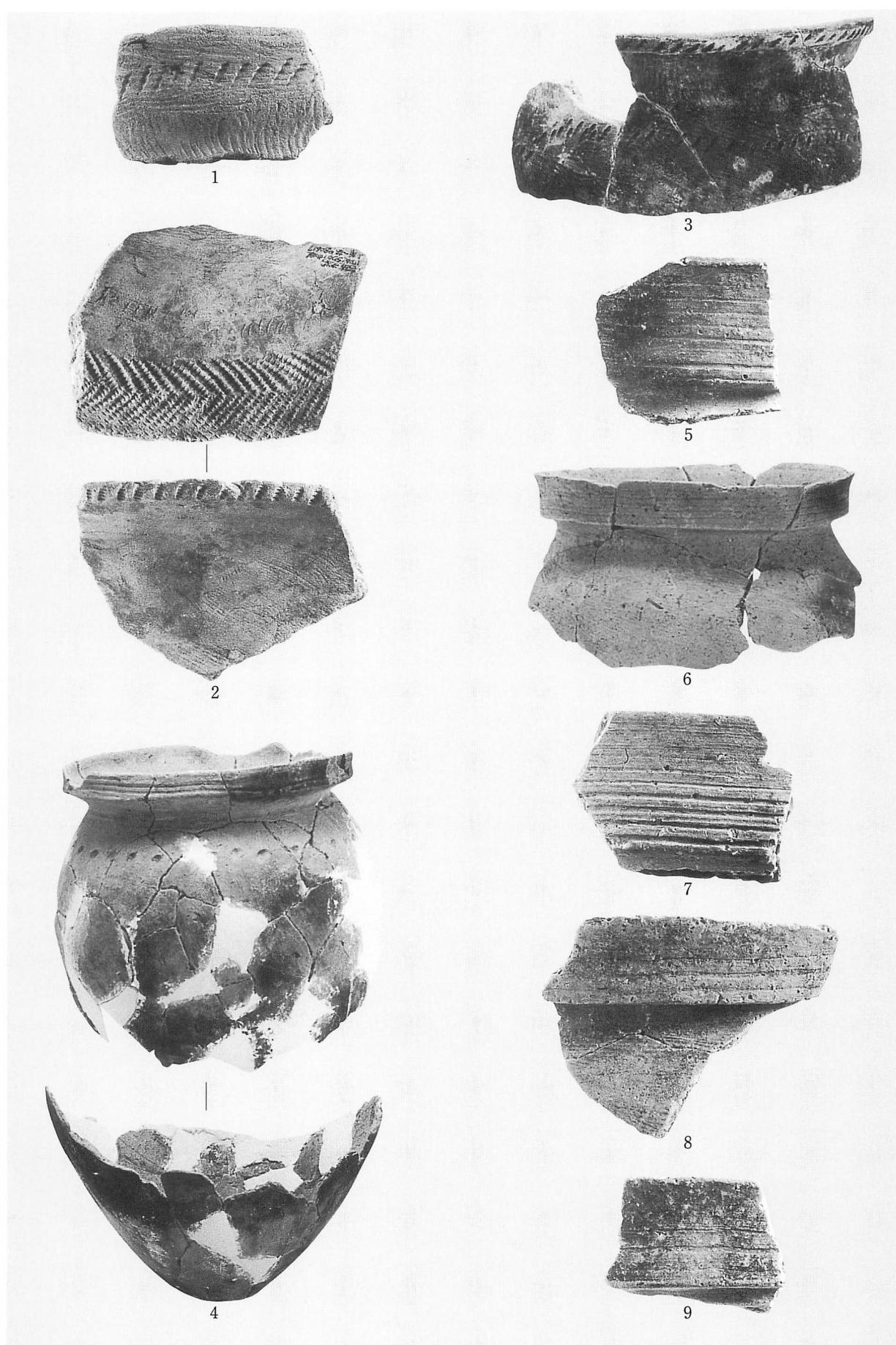
(7) 完掘状況 1 (西から)



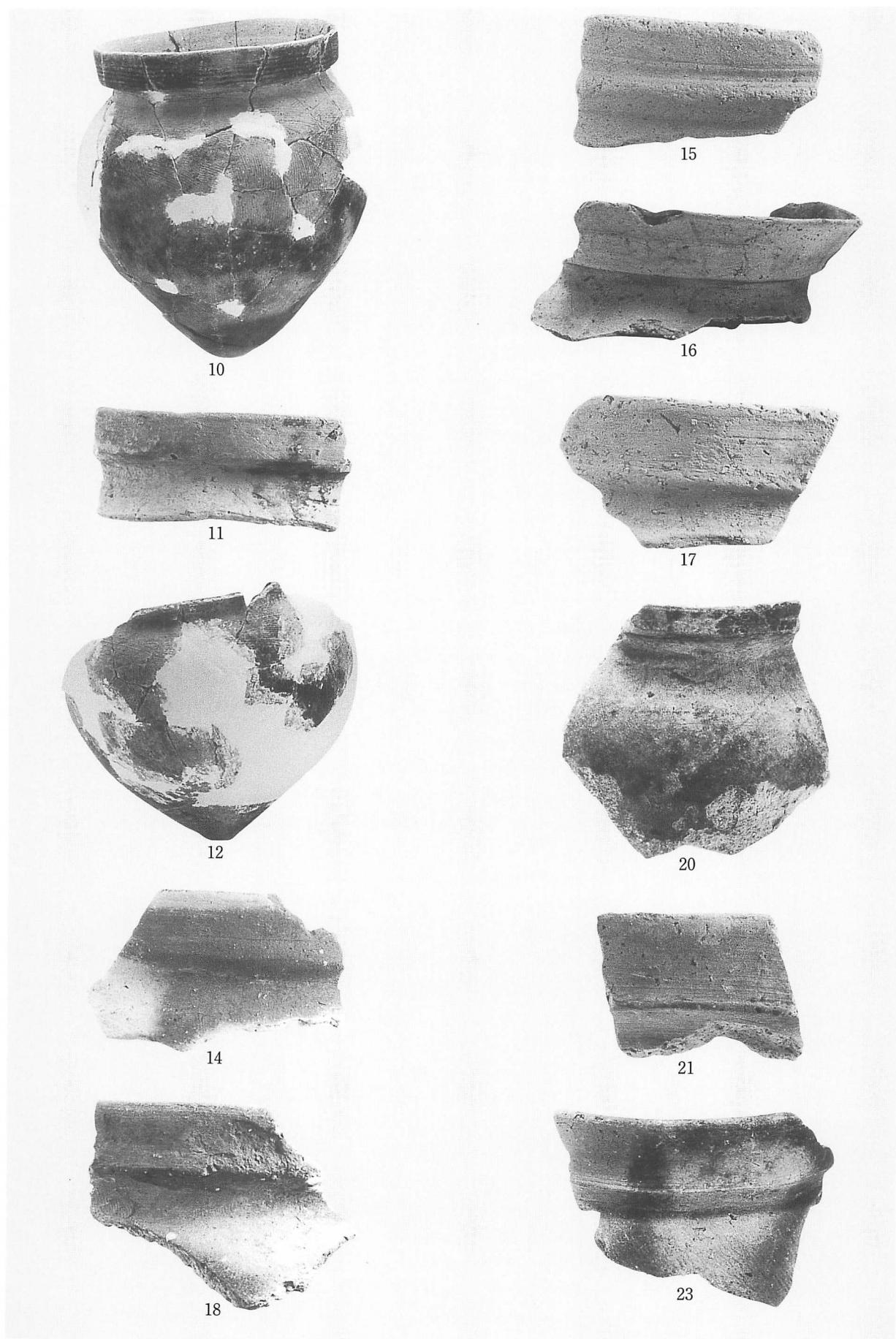
(4) SK 01 完掘 (南から)



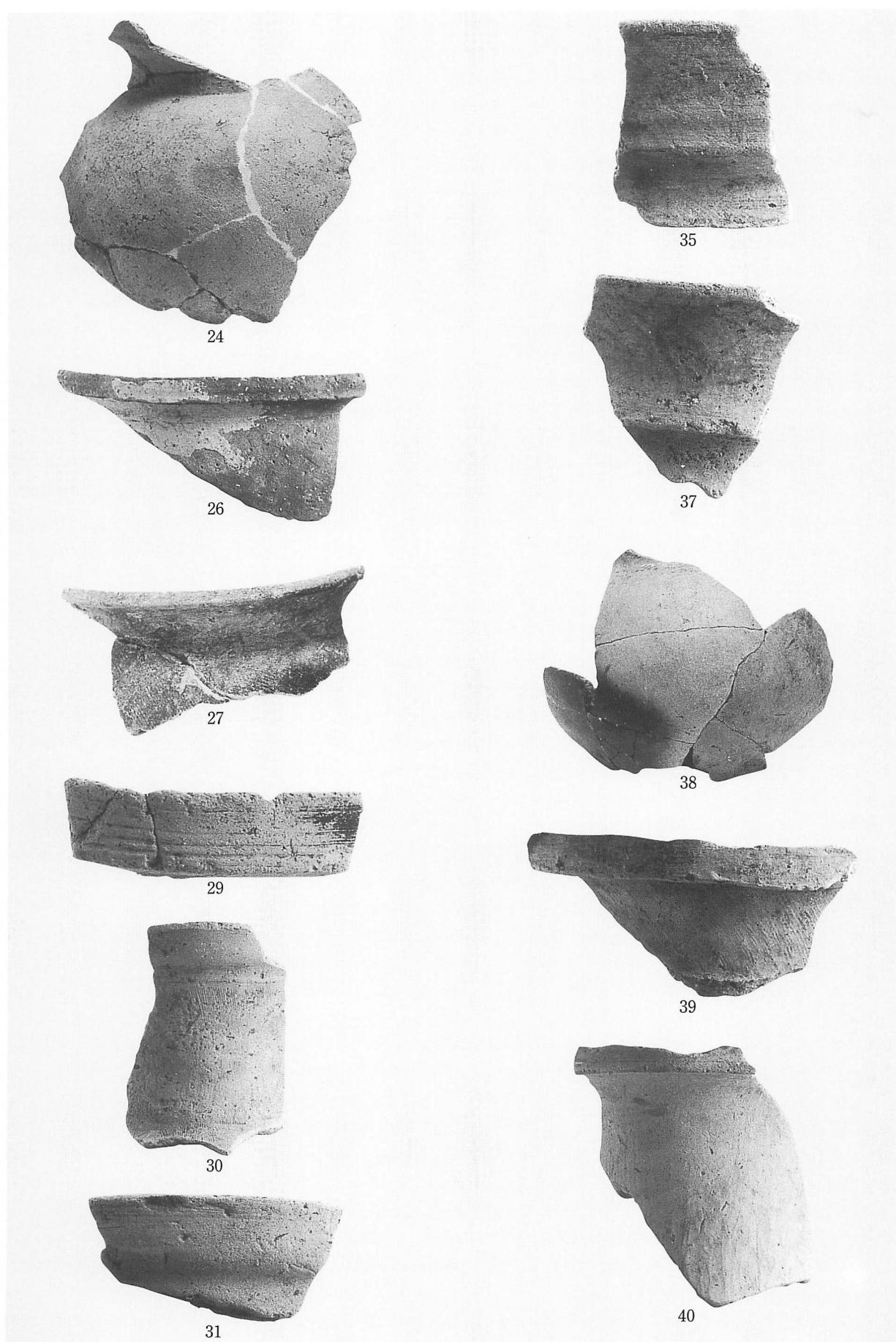
(8) 完掘状況 2 (東から)



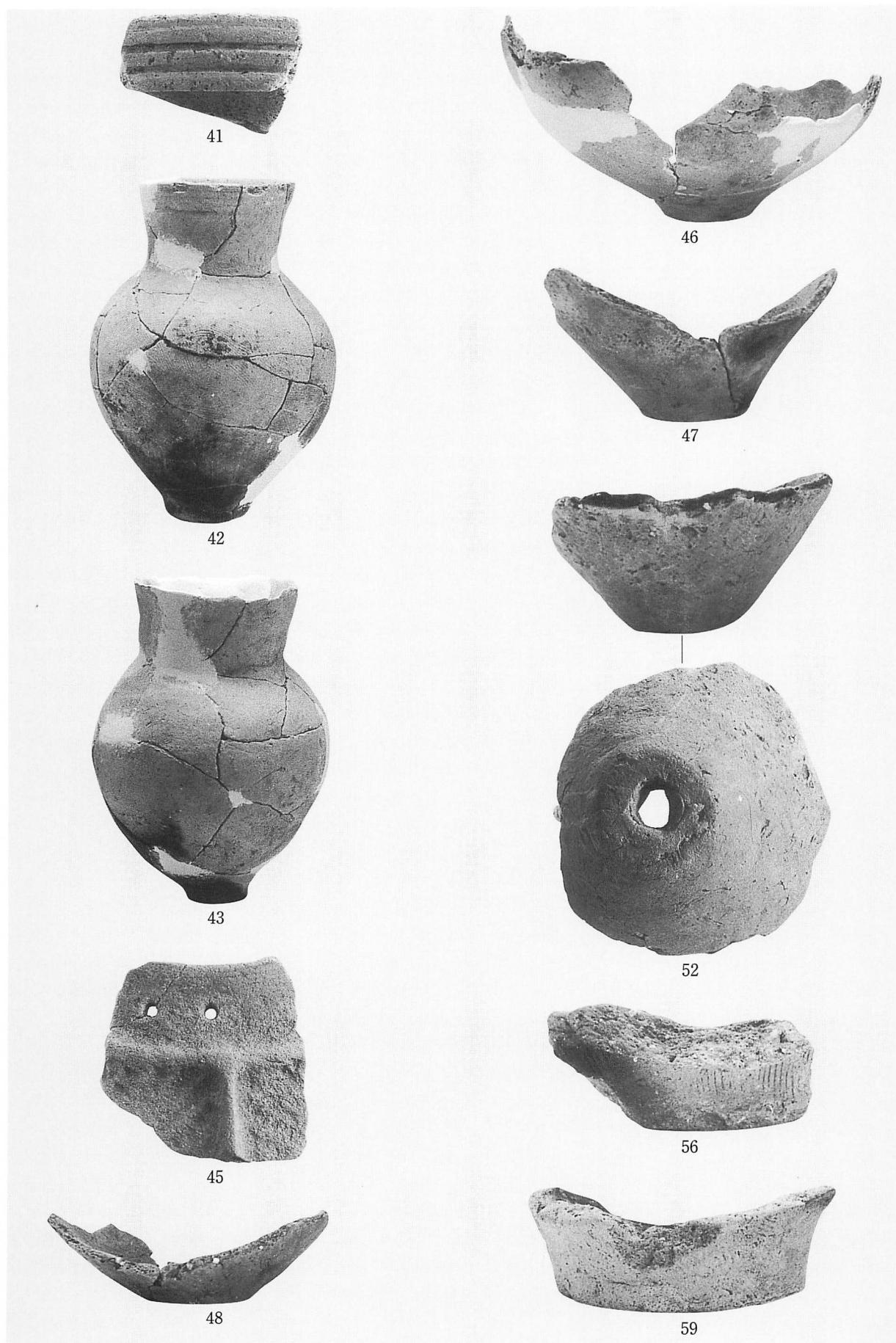
SD 01 上部 出土土器 1



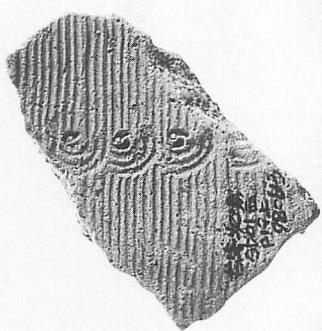
SD 01 上部 出土土器 2



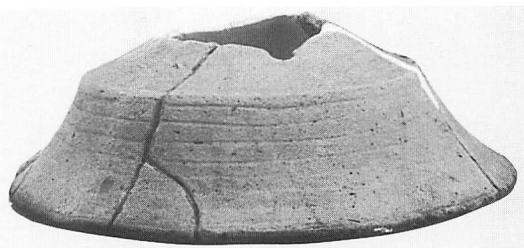
SD 01 上部 出土土器 3



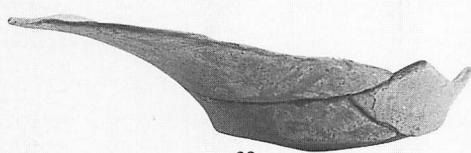
SD 01 上部 出土土器 4



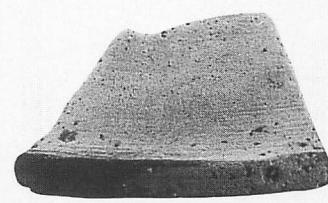
61



67



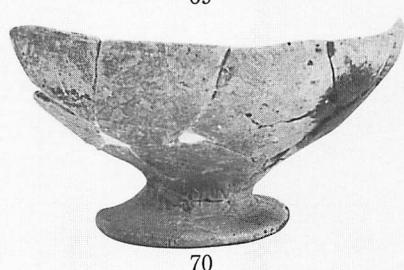
62



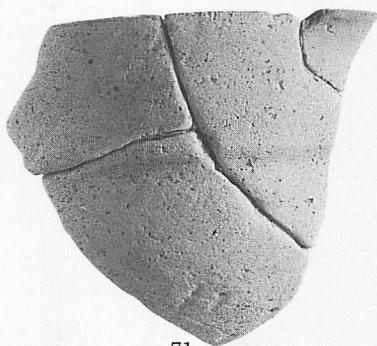
69



63



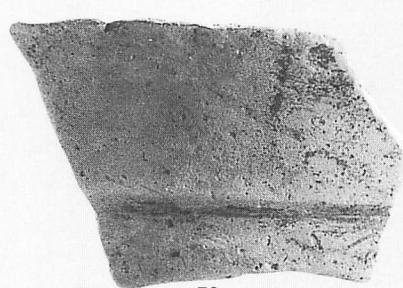
70



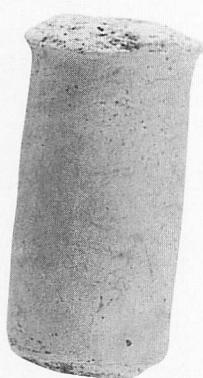
71



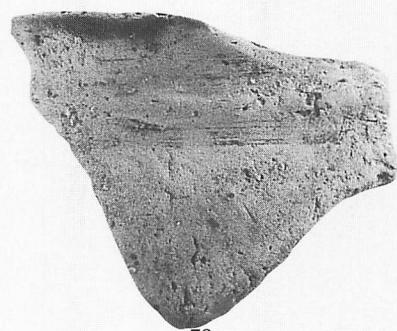
65



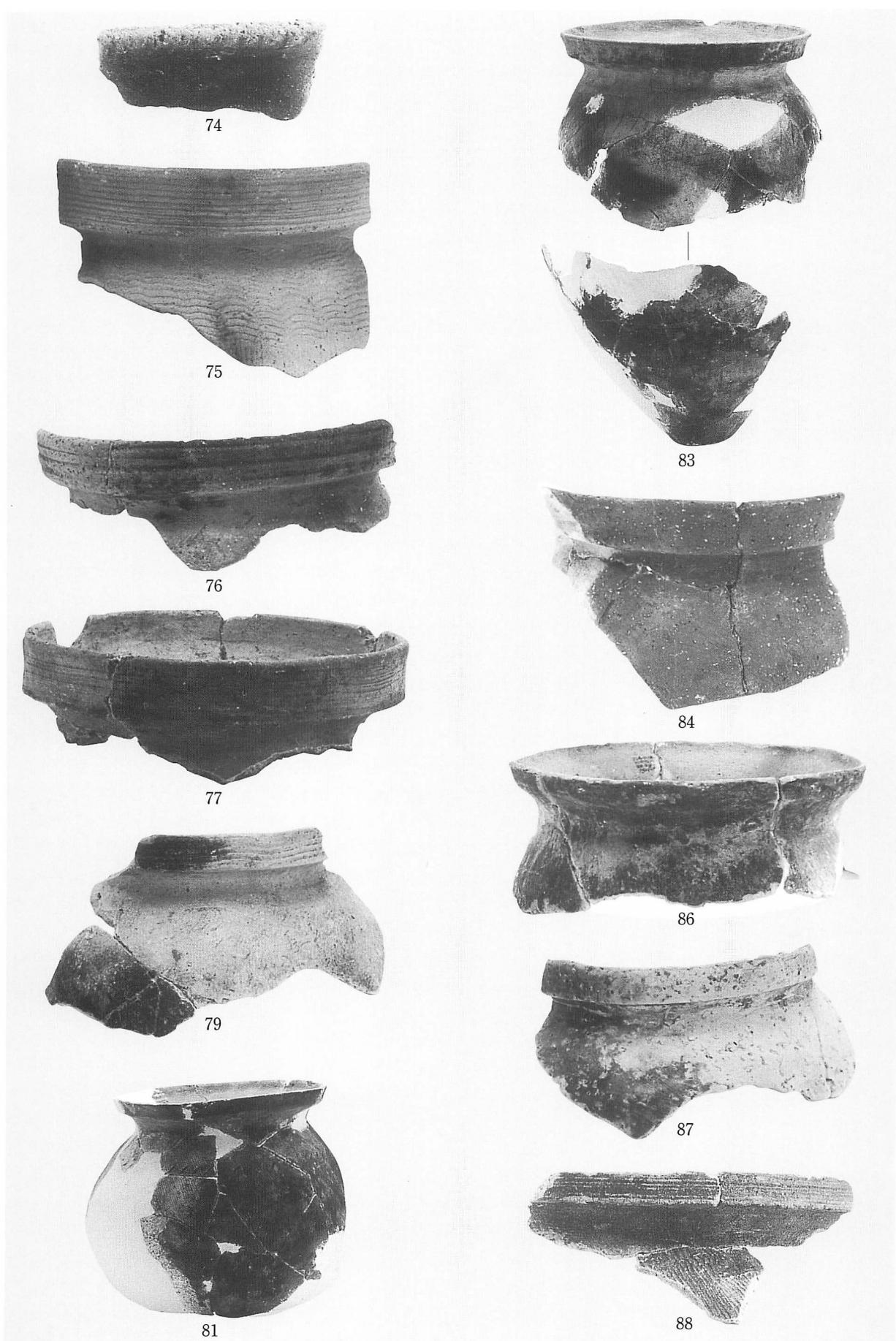
72



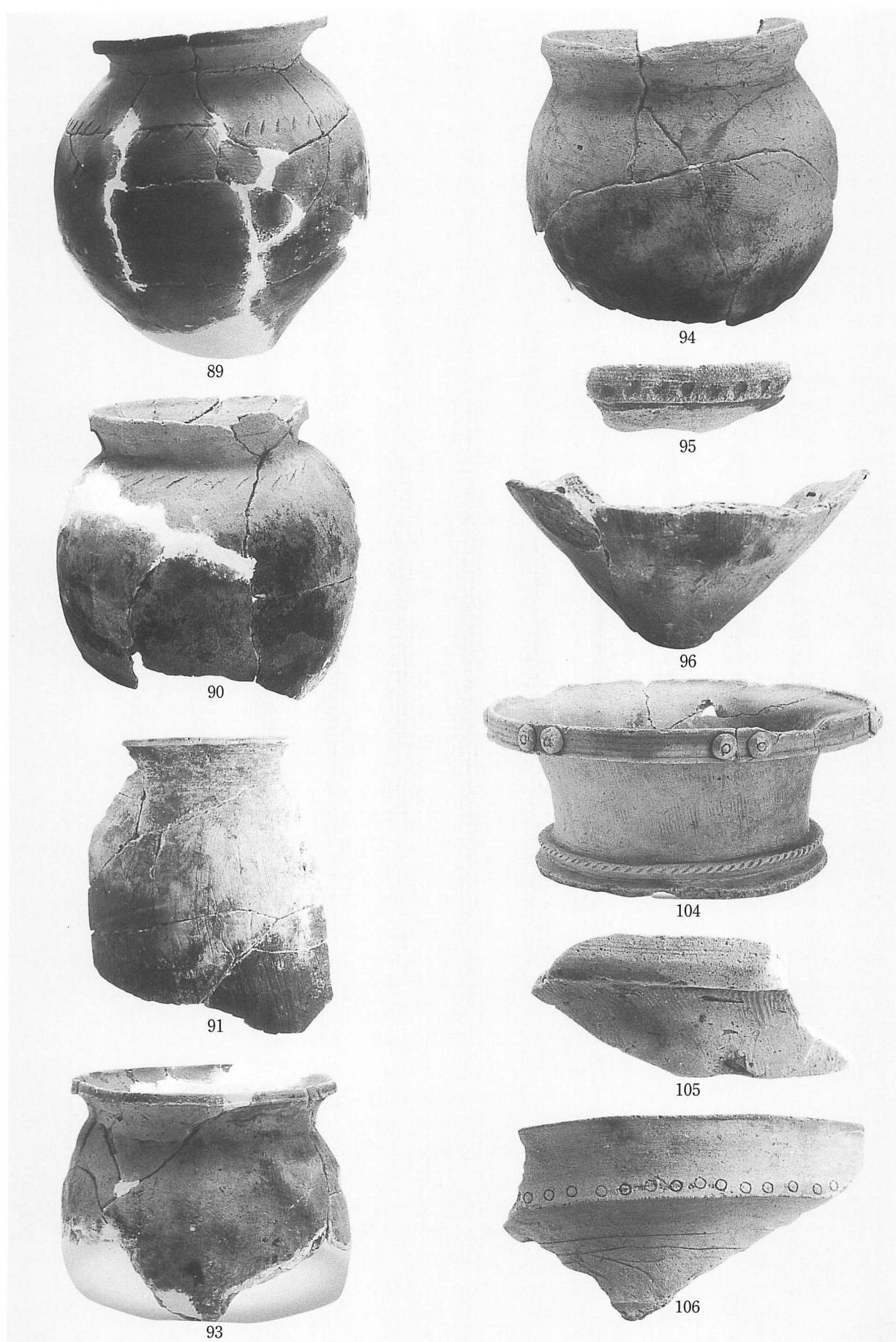
66



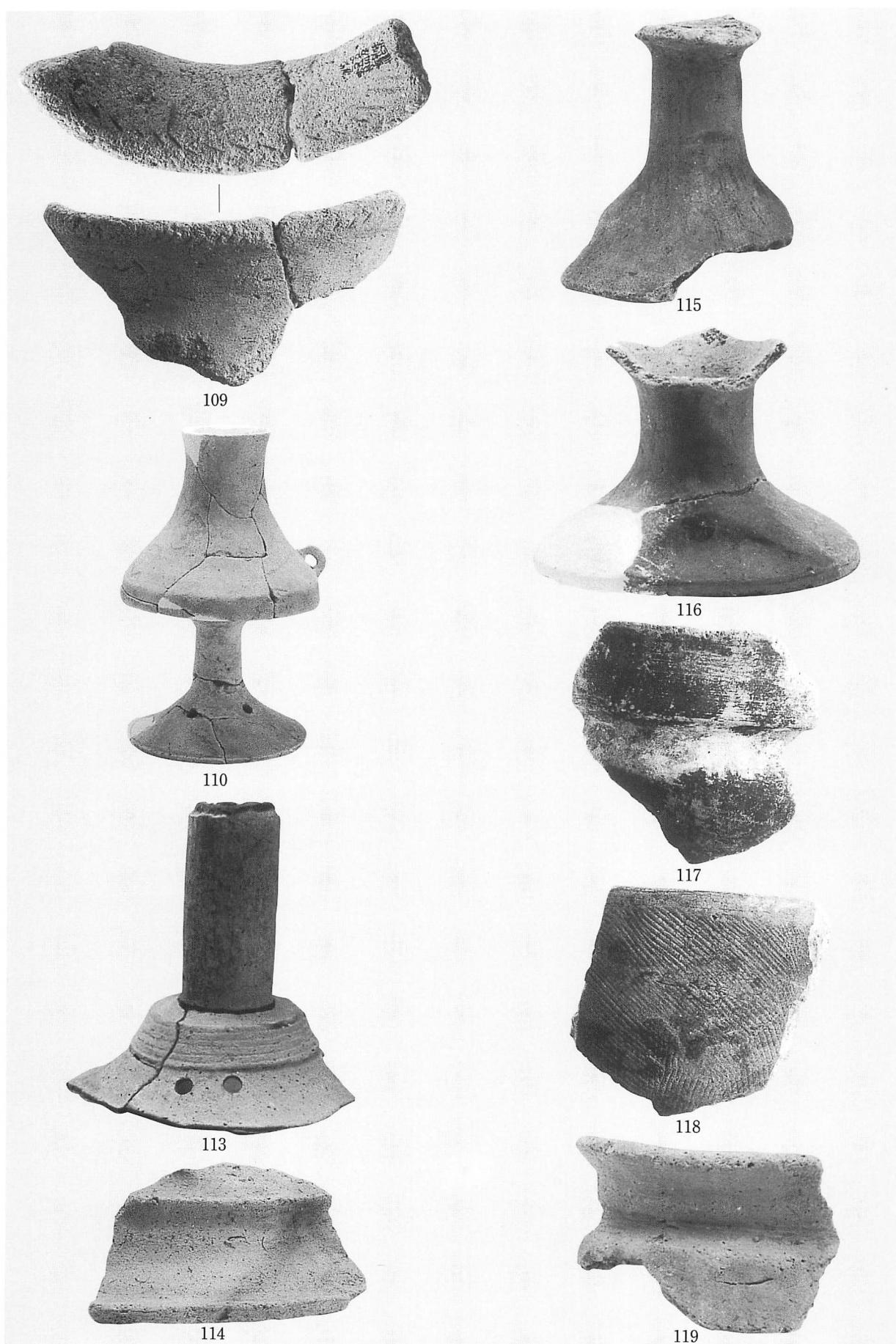
73



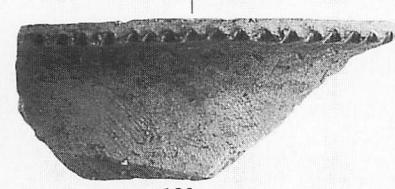
SD 01 上部の下 出土土器 1



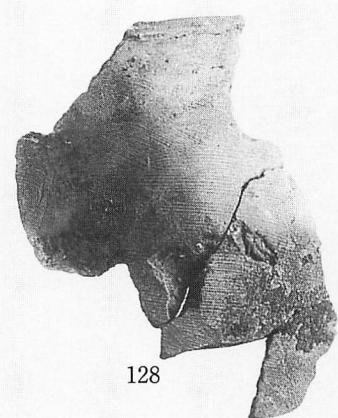
SD 01 上部の下 出土土器 2



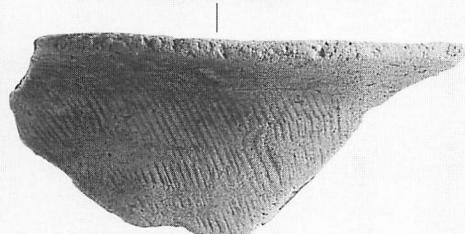
SD 01 上部の下 出土土器 3



120



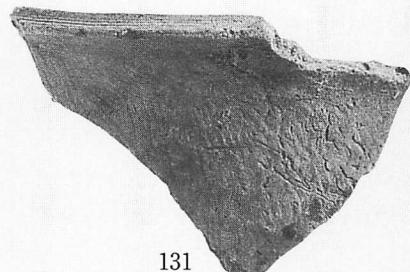
128



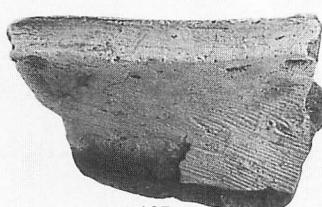
121



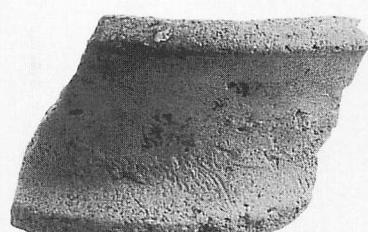
130



131



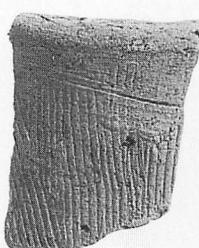
125



132



127



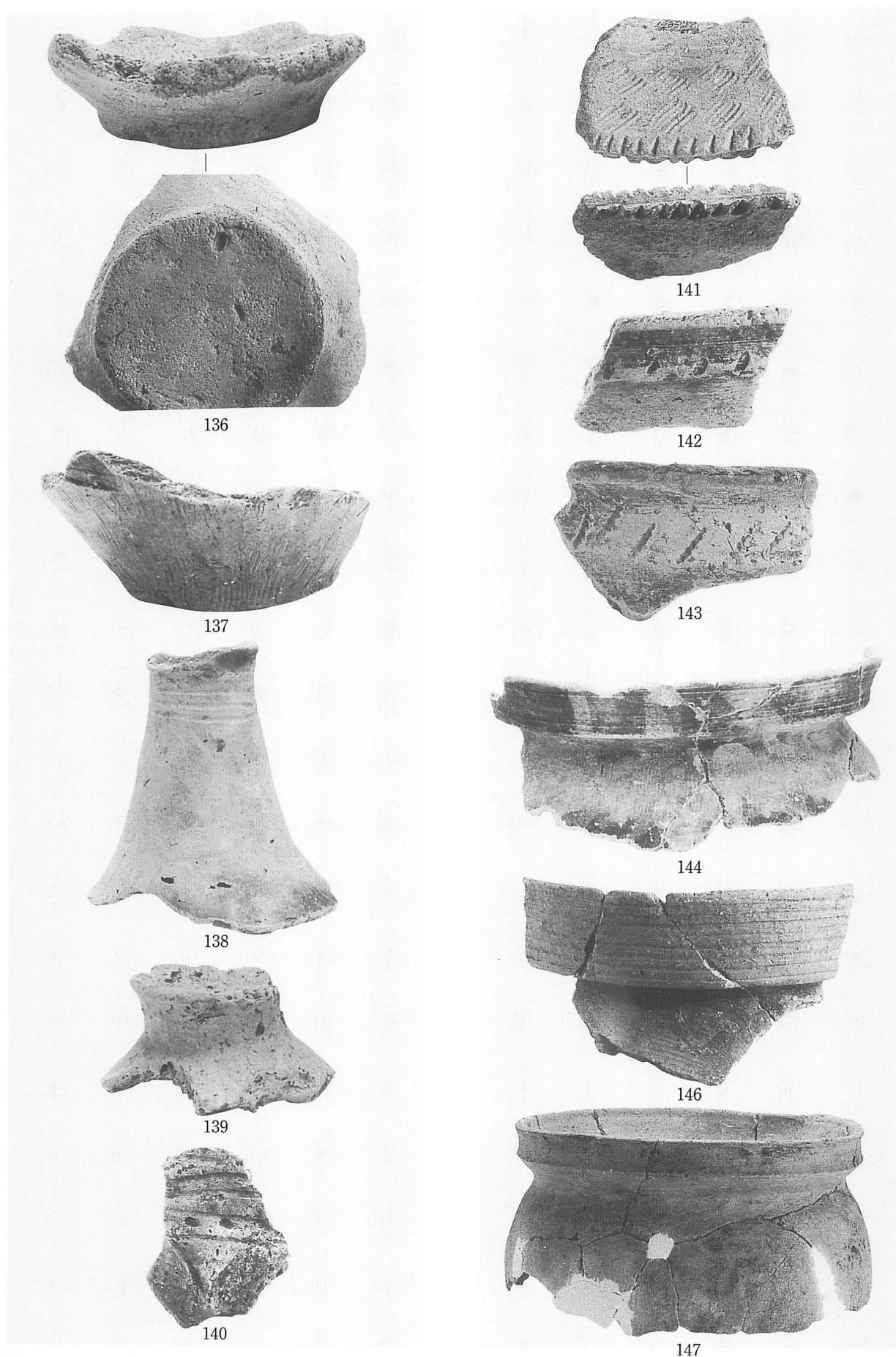
133



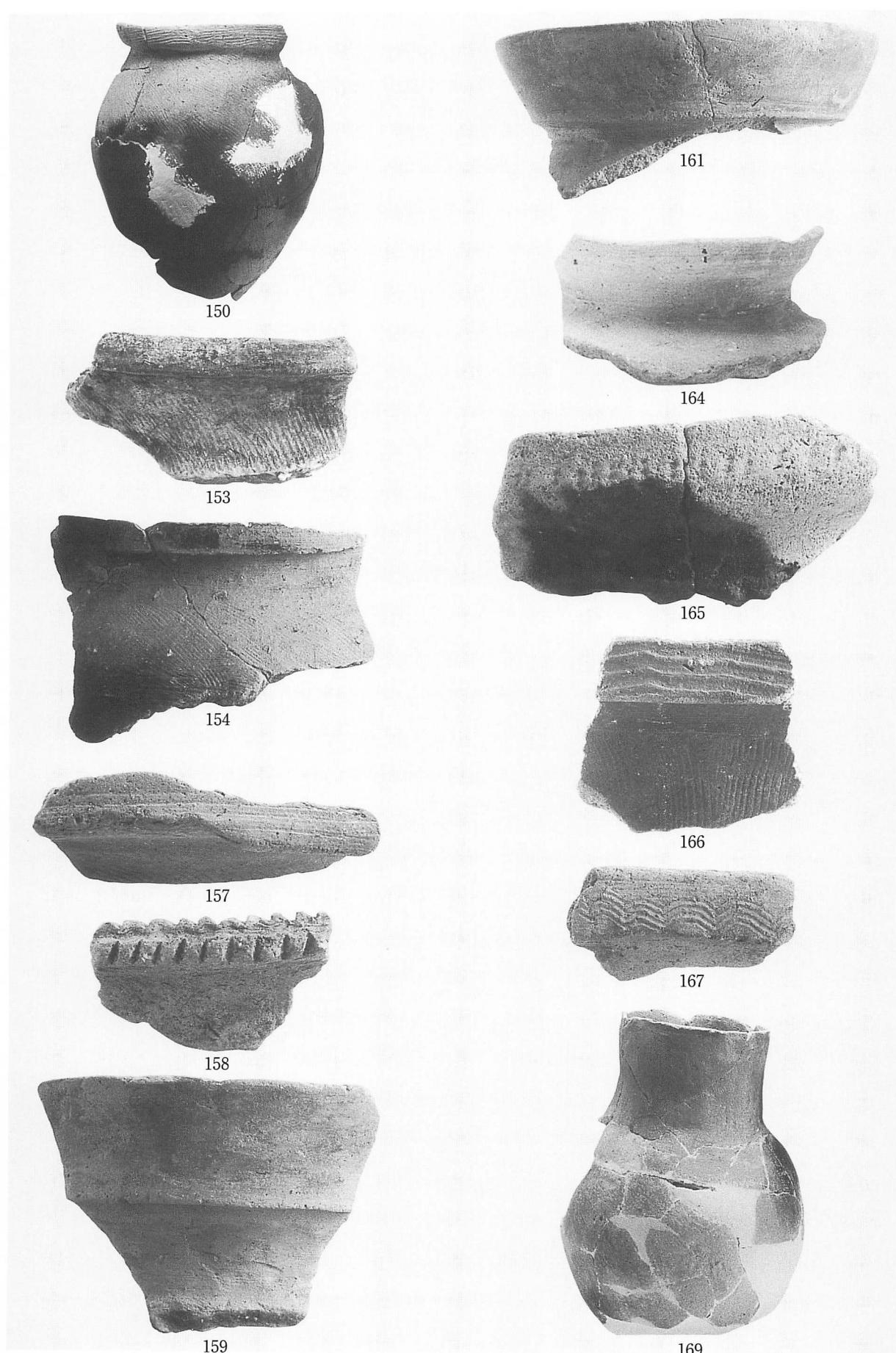
129

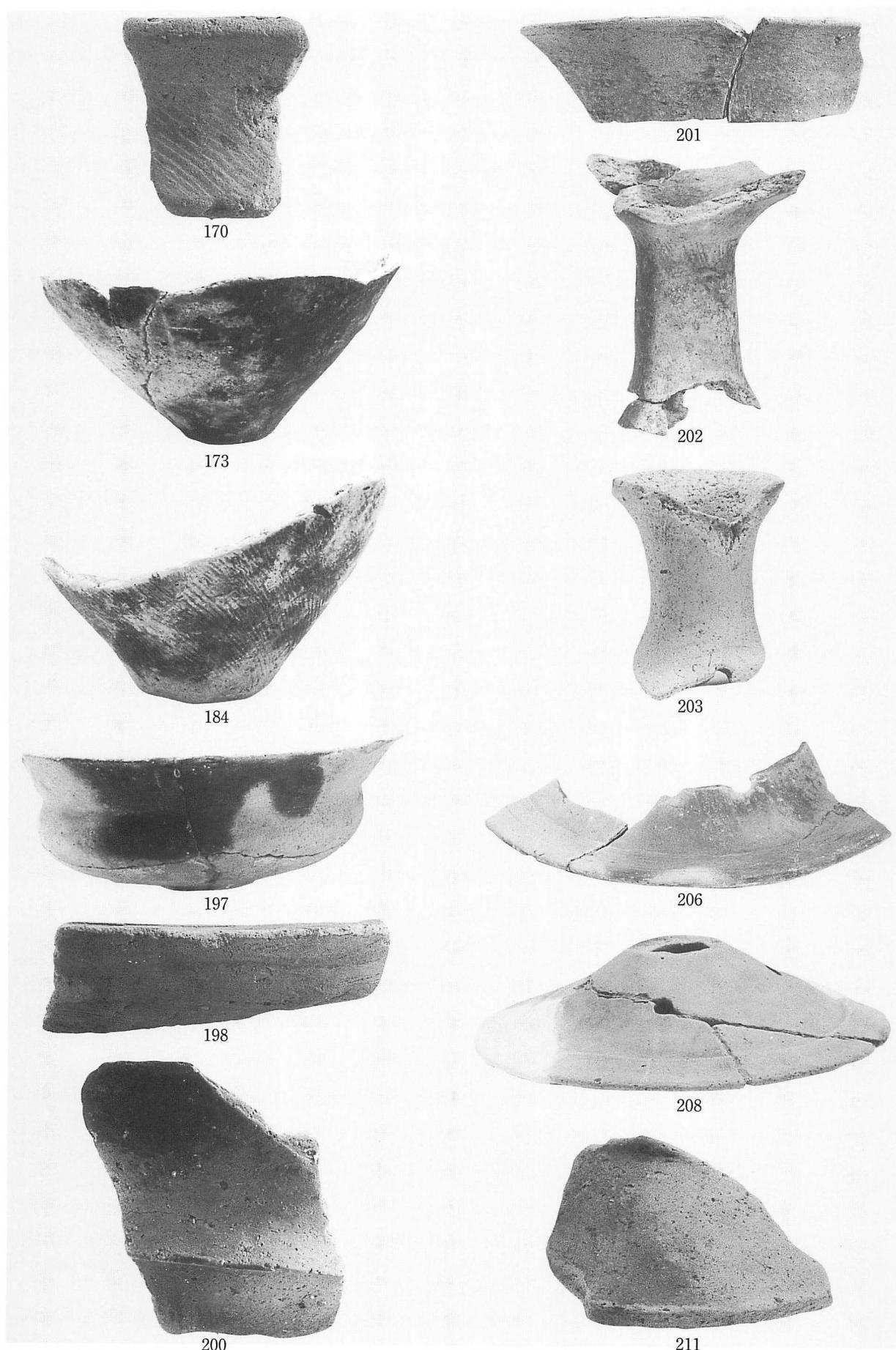


134

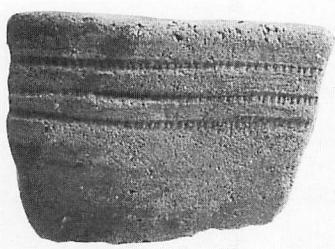


S D 01 下部 出土土器 2 (136~140) · S D 01 一括 出土土器 1 (141~147)

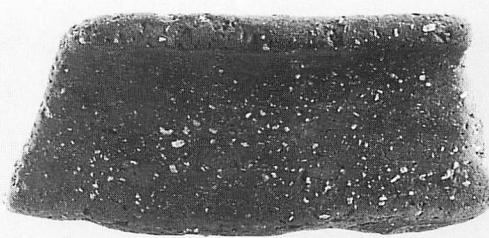




SD 01 一括 出土土器 3



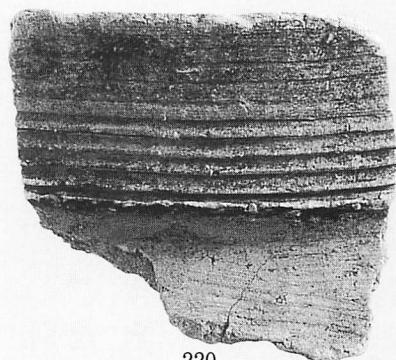
212



219



213



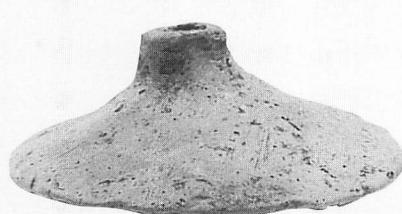
220



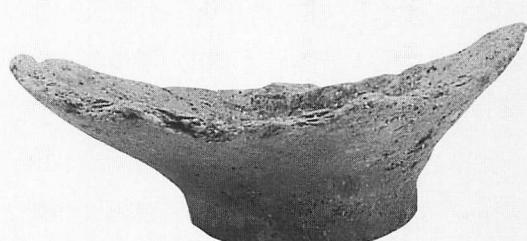
214



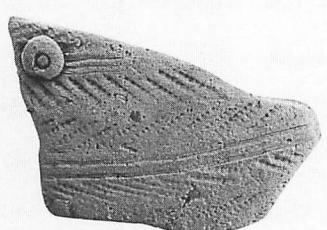
221



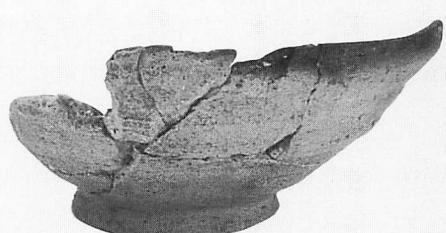
215



222



216



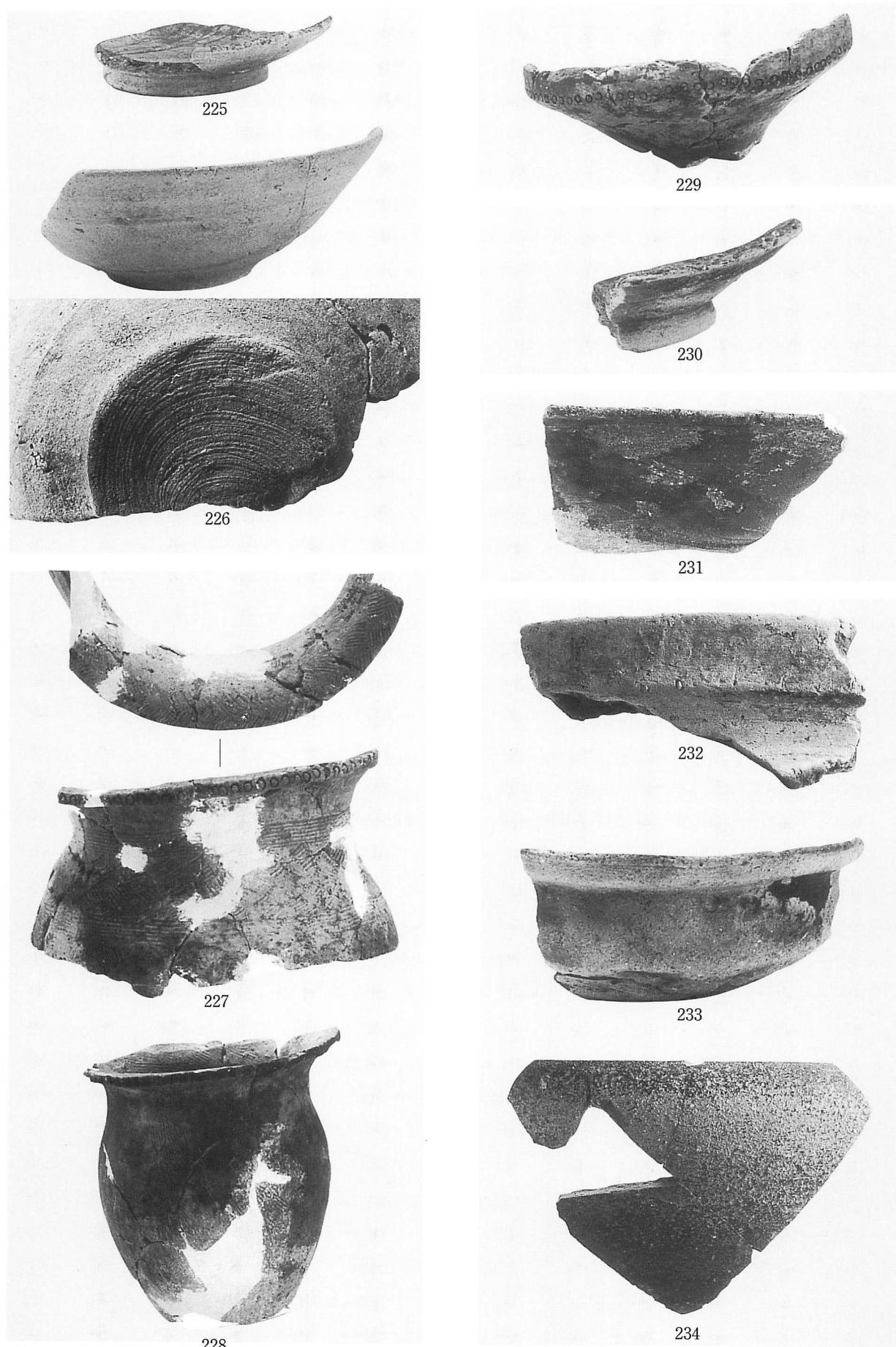
223



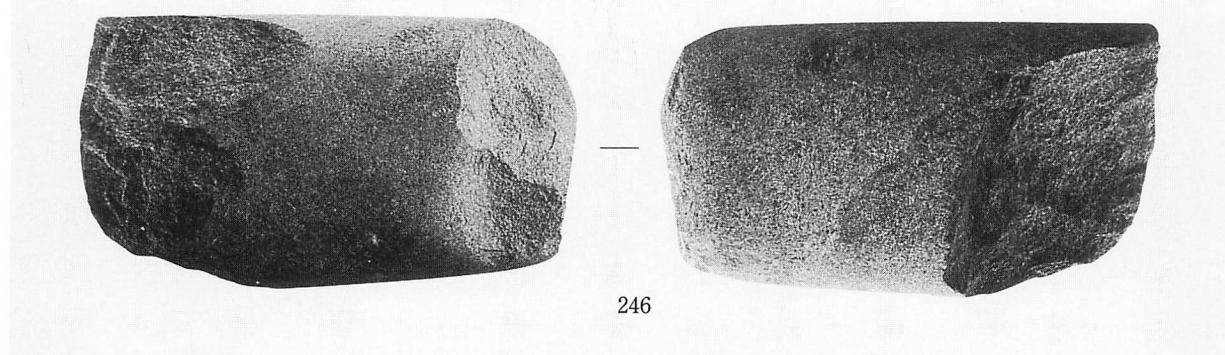
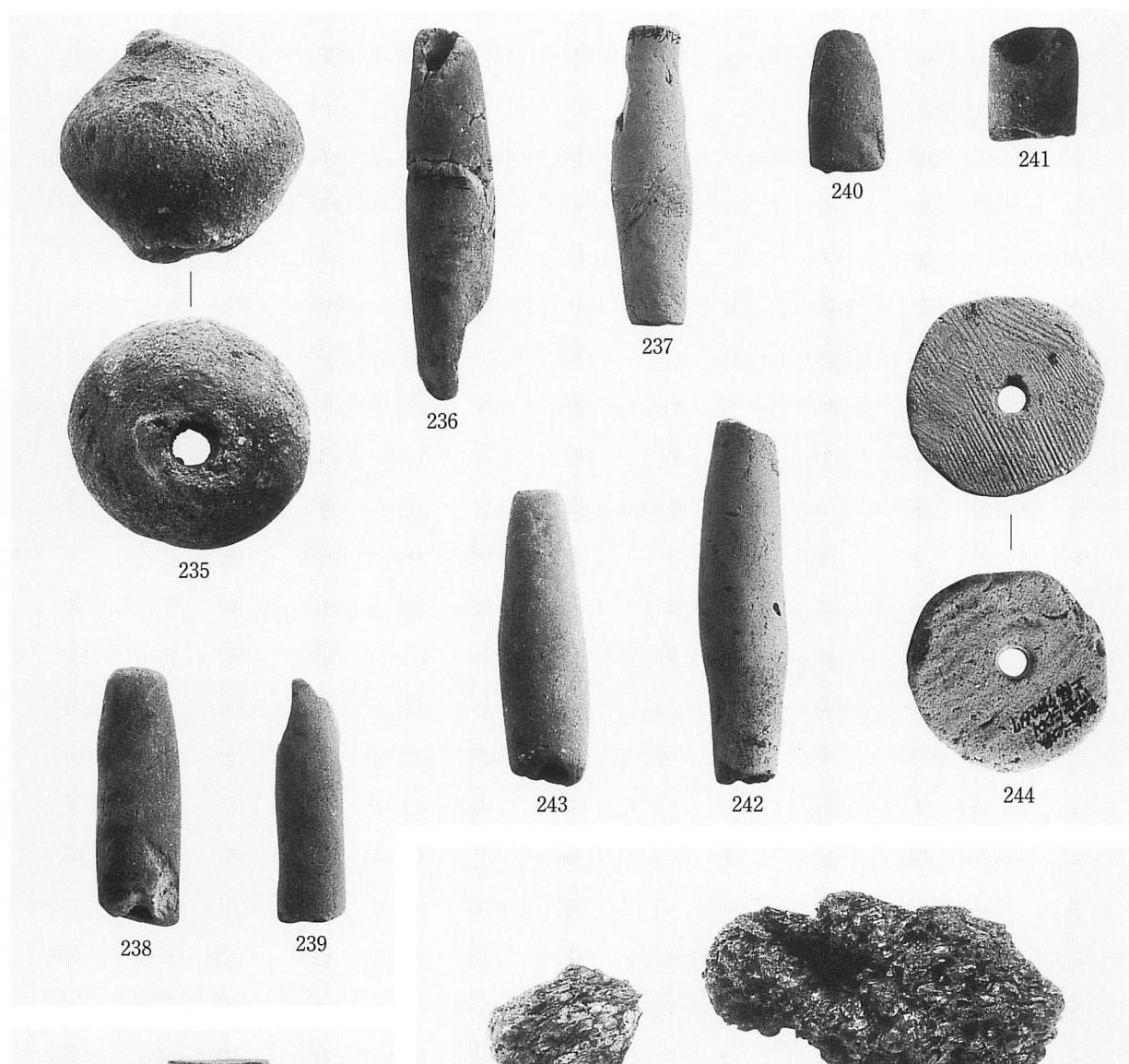
217



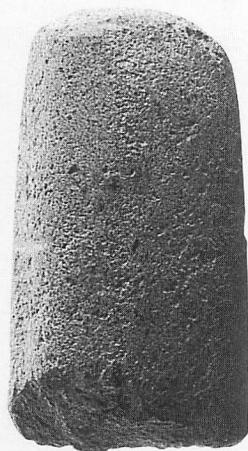
224



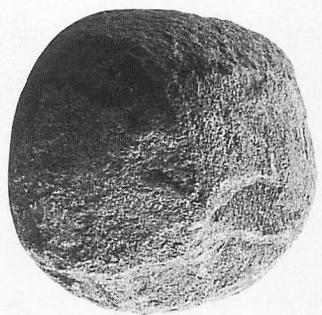
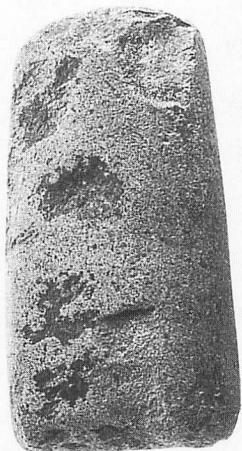
SK 01 (225, 226) · 02 (227~229) · 03 (230) · 04 (231) その他 (232~234) 出土土器



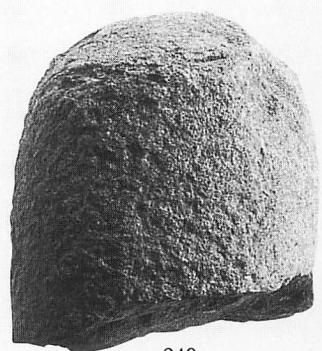
土製品（235～244）・炭化米・石製品1（245・246）



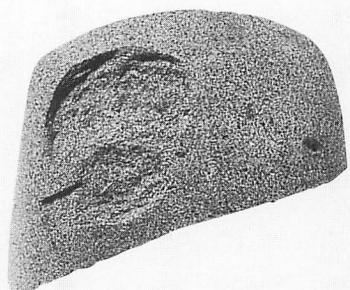
247



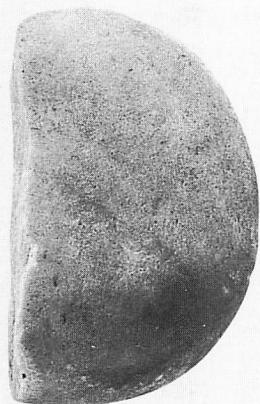
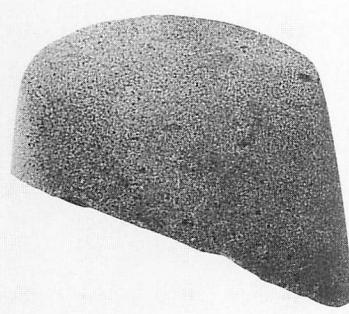
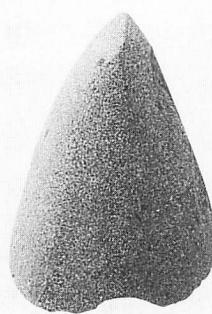
248



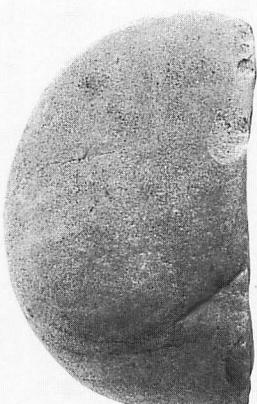
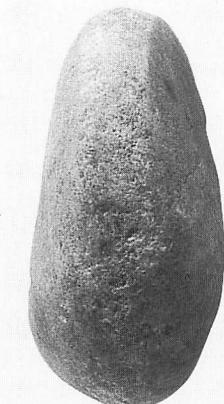
249

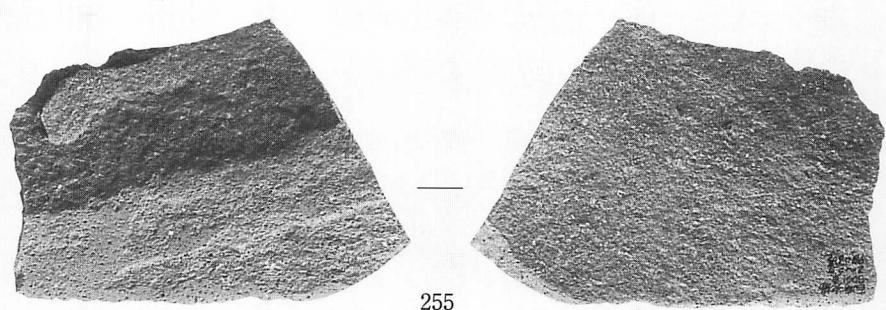
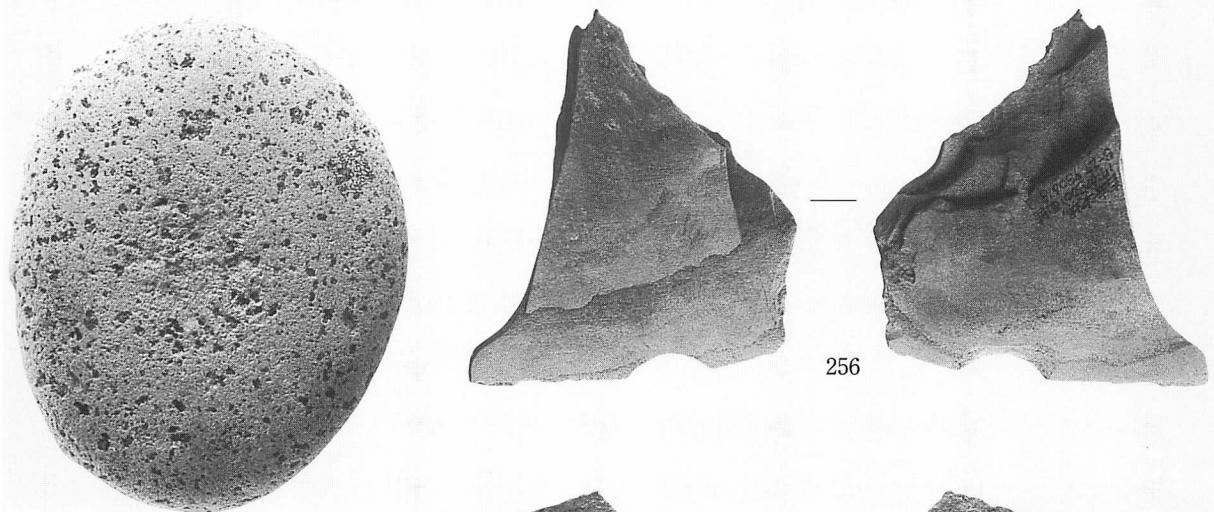
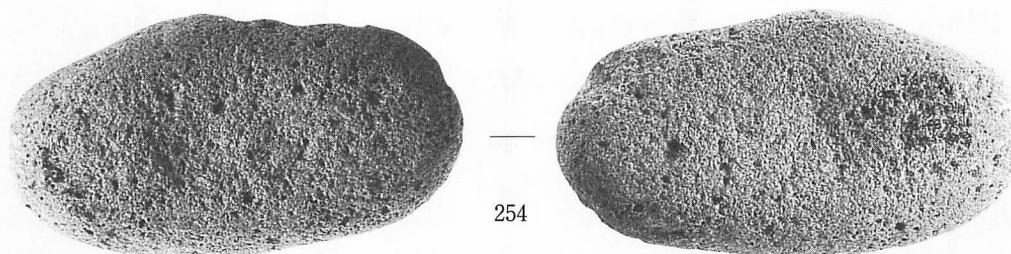
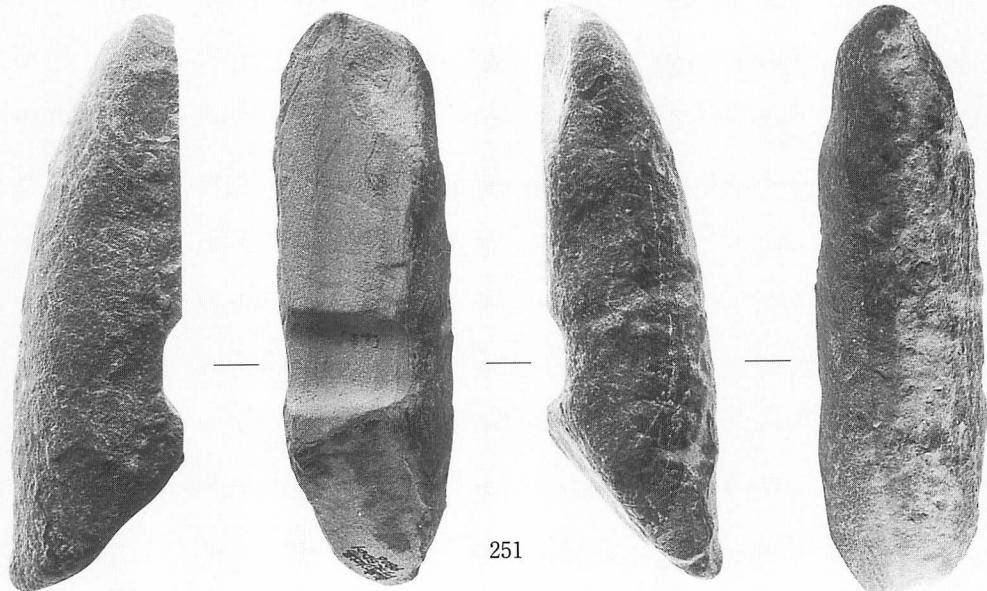


250



252





羽咋市内遺跡発掘調査報告  
—住宅建設にともなう  
**吉崎・次場遺跡第17次**  
発掘調査報告書—

---

---

平成12年3月12発行

編集・発行 石川県羽咋市教育委員会  
石川県羽咋市鶴多町龜田17番地  
〒925-0027  
電話 (0767) 22-7131(代)  
印 刷 能登印刷株式会社  
石川県金沢市武蔵町7-10

---

---

